

平成25年度

越前市総合計画達成度評価報告書

平成26年5月

越前市総合計画達成度評価委員会

越前市長 奈良 俊幸 様

平成25年度越前市総合計画達成度評価結果について（報告）

越前市総合計画達成度評価委員会は、越前市総合計画達成度の評価に関する越前市事務事業等評価委員会設置規則に基づき、越前市総合計画に掲げる政策の平成25年度における達成度について、市から提示された内部評価結果などを参考に審議を行い、市民の視点に立ってその達成度評価を実施しました。

この度、評価結果を取りまとめましたので報告いたします。

なお、市においては、本委員会の評価結果を市民に公表するとともに、市総合計画の効果的かつ効率的な推進に反映されるよう要望します。

平成26年5月20日

越前市総合計画達成度評価委員会

委員長	藤	下	洸	養	
委員	井	上	博	之	
委員	上	嶋	晃	智	
委員	四	戸	友	也	
委員	田	中	希	世子	
委員	中	庄	司	尚	範
委員	脇	田	淳	子	

# 目 次

1	はじめに	1
2	評価方法	2
3	評価結果	2
4	総合計画達成度評価票	3
5	越前市総合計画達成度評価委員会の開催経過	1 0
6	越前市総合計画達成度評価委員会委員名簿	1 0
7	越前市総合計画達成度の評価に関する 越前市事務事業等評価委員会設置規則	1 1

## 資料

越前市総合計画達成度内部評価票〔平成25年度分〕

## 1 はじめに

総合計画達成度評価を行って

平成22年度に改定された「越前市総合計画」は、平成28年度を最終年度とした市政運営の最上位の指針に位置付けられている。平成25年度は、最初の基本計画から7年目、改定後3年目となる。

今回の評価にあたって特に注意したことは、急激な時代の変化への対応である。政治・経済・教育・生活などその変化は実にめまぐるしく、時には我々の想像を遥かに凌駕する。この変化に応じて市民の要求は多くなり、一段と高くなる。また、新しい課題や問題点も生じてくる。

この変化に対応するには、さらなる努力が求められ、より成熟度の高い行政運営が期待される。

そもそも基本計画の目的は、そのような厳しい状況の中でも、重点目標に「定住化の促進」を掲げ、将来に向け「元気な自立都市 越前」を目指し、長期的な視点に立ったまちづくりの5本の柱とした「ひとづくり、ものづくり、まちづくり」の着実な推進にある。

我々評価委員会としては、これらの点を考え、総合計画基本計画改定の原点に立ち戻って評価すべきと考えた。行政自らが実施する内部評価においても、4の評価が3つ、3の評価が3つと前回と比較して改まった評価をしている。

行政が市民のために誠実に努力していることを十分に認めたいうえで、より成熟度の高い行政運営を求める立場を明確に、評価の物差しを一段と厳しく、成果を重視した高いハードルを掲げての評価を行った。

まさに越前市総合計画の集大成の年度（28年度）に向け、ホップ、ステップ、ジャンプのステップの年度として、行政に一段の努力と集大成への足がかりを求めたい。

各委員からは、幅広く異なった分野を一律に評価することはできないという意見や、成果の捉え方やプロセスの重要性まで確認するには、より多くの評価指標が必要という意見が出され、総合計画達成度評価の難しさを改めて実感することとなった。

この越前市総合計画の達成度の評価が、「持続可能なまち」をどう築いていくかのキーポイントとなることを期待し、重点目標である「定住化の促進」に寄与し、まちづくりの5本の柱の政策の達成に向け、市民と行政が協働して創りあげていくことに資することを心から願う。

越前市総合計画達成度評価委員会

委員長 藤 下 洸 養

## 2 評価方法

評価にあたっては、委員全員が、市政運営、施策の展開状況等を委員会の狙いである市民の視点、観点に立って注視し、委員会での審議、評価に努めた。

評価は、市総合計画の平成25年度の政策の達成度について、実践プログラムに掲げる数値目標の達成度及び主要な事業の進捗状況等、市が提示した内部評価結果※を参考に、総合的な評価・検証を行ったものである。

市総合計画に掲げる5本のまちづくりの柱である「元気な産業づくり」「元気な人づくり」「快適で住みよいまちづくり」「安全で安心なまちづくり」「市民が主役のまちづくり」及び、市の行財政運営に関する柱の「地方分権に対応した行財政運営」それぞれの柱並びに政策、施策を評価対象として行った。

なお、評価結果は、次の4段階評価とし、それぞれに委員会としてのコメントを添えた。

A：十分に達成された

B：達成された

C：達成度やや低い

D：達成度が低い

※ 市が提示した内部評価票（別資料）は、次の4段階評価となっている。

4：十分に達成

3：達成できた

2：やや未達成

1：達成には程遠い

## 3 評価結果

まちづくりの柱	評価	まちづくりの柱 政策数	政策の評価（内訳）
元気な産業づくり	B	6政策	A：3 B：3
元気な人づくり	B	9政策	A：5 B：4
快適で住みよいまちづくり	A	5政策	A：4 B：1
安全で安心なまちづくり	A	5政策	A：3 B：2
市民が主役のまちづくり	B	4政策	A：1 B：3
地方分権に対応した行財政運営	B	3政策	A：1 B：2
全 体	A：2 B：4	32政策	A：17 B：15

#### 4 総合計画達成度評価票

##### 越前市総合計画達成度評価票 <全体>

基本構想		総人口							
		基準値	目標値	実績値					
重点目標	定住化の促進	H17.10	H28	H20	H21	H22	H23	H24	H25
				87,742人	88,000人	85,982人	85,660人	85,569人	85,068人
基本政策		達成度評価							
		達成度	コメント						
まちづくりの柱	元気な産業づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・越前市は改めてものづくりのまちであると思った。誇りに思う。</li> <li>・まちなか活性化は難しいテーマではあるが、全国的には成功例もないわけではない。あの手この手を打って欲しい。</li> <li>・客商売という捉え方や、遊び心を捕まえるという視点は非常に重要である、行政も積極的に打って出ることが必要ではないか。</li> <li>・グルメの三国同盟も面白いが知られていない、もっと発信力を強めるアイデアを。</li> <li>・インターンシップが立ち上がったことは重要である。受け入れ企業が学生に教えることは大変であるが、教えるためには自社の仕事を見直すきっかけにもなるので、メリットを企業にも伝えて欲しい。</li> </ul>						
	元気な人づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢の教室では、子どもたちのモチベーションも上がっており、アイデアを評価する。</li> <li>・他の自治体より耐震化の取組みが優れている。</li> <li>・どの政策をとっても、行政としてなすべきことはされており、努力を感じる。</li> <li>・市政として最も力を入れていただきたい分野ではあるが、成果が現れるには長い時間がかかる分野であるので、将来に向けさらなる取組みの強化を図っていただきたいとの思いから評価した。</li> </ul>						
	快適で住みよいまちづくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパクトシティの政策と交通体系は切り離せない、その視点での長期ビジョンには興味がある。</li> <li>・魅力ある市街地づくり、蔵の辻の活用など市街地の活性化に繋がっていないような気がする。ワンランク上の政策・実績を期待する。</li> <li>・コウノトリが舞う里づくり推進事業は、地味ではあるがシンボルとしてとらえており、数値的な成果は出にくいものではあるが、ロマンがありよい発想で取り組んでいる。</li> </ul>						
	安全で安心なまちづくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に何回も豪雨災害に遭っており、災害が発生した場合の対応・事後処理体勢を今後とも迅速にとっていただきたい。</li> <li>・除雪対策も含めて、地元の協力なしにはできないので連携を密にして、通学路の確保をお願いしたい。</li> <li>・地域ぐるみの防犯活動においては、市内各地で取り組まれているが、自らが実際に活動していないと分からないこともある。連携を取って取組み状況をもっと周知すべき。</li> </ul>						
	市民が主役のまちづくり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の登用については単に数値目標だけでなく、運用について考えていただければありがたい。</li> <li>・より広い視点を取り入れるという意味で、女性の登用と合わせて若者の登用をお願いしたい。</li> <li>・情報分野はスリムな行政を支える根幹の分野である。種をまいて芽が出ている状態なので、出た芽から実を収穫していくようにして欲しい。</li> </ul>						
地方分権に対応した行財政運営		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方分権が進んでいく中で、行政運営の効率性確保は非常に重要な課題であるので、社会情勢の変化を見極めながら今後ともさらなる取組みを進めてほしい。</li> <li>・市が主体となって努力して達成できる分野もあるが、困難な分野もある。行政もさらに工夫をしながら達成に向け進めて欲しい。</li> <li>・広域でできることは、広域でやった方が効果的。しかし物足りなさや課題を感じる。もっと色々やれることがあると思う。</li> </ul>						

越前市総合計画達成度評価票 <まちづくりの柱別>

まちづくりの柱	元気な産業づくり	【達成度評価】	
		達成度	コメント
	活力と創造性に満ちた工業の振興	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりNETは魅力あるサイトであり、県下第1位の製造品出荷額であることなど、もっと積極的にアピールして欲しい。</li> <li>・補助金の申請手続について、小規模の企業には申請のサポートなどがあると活用の幅が広がる。</li> <li>・課題は多いが、昨年度は景気も上向いているので数字が上がってきている。</li> <li>・有名な人からも越前打刃物の問合せがある。もっとPRをして欲しい。</li> <li>・活性化プランの見直しがあるが、長期ビジョンを立てて頑張ってもらいたい。</li> <li>・チャレンジ発注などの商品を、市役所や集客力のある施設で常設できないか。</li> </ul>
	魅力ある商業の振興	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力を入れても、なかなか結果が出ない分野である。将来、新幹線駅ができた場合、駅と中心市街地をどうやってつないでいくのか。</li> <li>・全国的に見ても各地で個性がなくなってきており、地域性が薄れているなか、成功している街では観光と結びつけ特色を出している。観光分野と絡めて独自性を出して欲しい。</li> <li>・元気な事業者グループ支援事業のコンセプトはすばらしい、周知をして活用を広げて欲しい。対象となった事業のフォローもお願いする。</li> </ul>
	出会いと感動のある観光の振興	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かこさとしふるさと絵本館「石石」には売店がない。観光客は記念品としてグッズを求めることが多くあるので、売店を充実させて欲しい。蔵の辻や公会堂の展示会でもグッズの販売をしてはどうか。</li> <li>・五大絵本作家のうち2人と縁のあるまち、という目の付け所は良いアイデアだと思うが、かこさとしの故郷だとは町を歩いても誰もわからない。町全体で盛り上げる必要がある。そば道場などでアピールしてはどうか。</li> <li>・渡辺洪基といったすごい偉人を活用してはどうか。まちづくりで色んな協定を結んでよいのでは。東京大学、工学院大学、地元の大学と連携し、偉人を活用すればもっとすごいことが出来るのではないかと。</li> <li>・グルメによる誘客は評価できるが、市内には子どもの遊び場やデートのできる場所がない。菊人形についても、遊び心を仕掛ける場所づくりが大事ではないか。行政が取り組むには難しいと思われるところは外部アドバイザー、広告代理店など専門家の意見を取り入れることが必要ではないか。</li> <li>・市内で合宿(宿泊)する場所がない。合宿施設として、充実しているところが欲しい。</li> </ul>
	地域資源を活かした農業の振興	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣害対策を何とかして欲しい。</li> <li>・これからの農業を考える上で、食育の取り組みをはじめ、先進的な農業を評価する。色々な取り組みをしていただいている。</li> <li>・日本晴などは実需があり、方向性を変えての販売や農家の所得増につながる方策を見出したのはすばらしい。</li> <li>・学校給食への地場産食材の使用についても、引き続き進めて欲しい。</li> </ul>
	みどり輝く森林づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業は古くから支えてきた産業。この分野には10年後、50年後を見据えてお金を使って欲しい。</li> <li>・難しくなかなか達成できない課題であるが、目標が毎年同じでは良くない。視点を変えて、炭素サイクル、森林、防災など総合的に見せるもう一工夫をして欲しい。</li> <li>・施設は良いものがあり、ハツ杉は森林学習体験、金華山グリーンランドは観光施設、その視点から課題に取り組んで欲しい。また適切な指定管理者への指導を行い、需要に応じたPRをして欲しい。</li> </ul>
	いきいきと働きやすい環境の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学高校でもインターンシップをしたほうが良いのではないかと。インターンシップを経験し、社会を知ってもらいたい。</li> <li>・インターンシップで学生は客ではない。ノウハウを示すことが大事であり、ミスマッチの防止、職業観を含めて社会訓練ができる。</li> <li>・就労支援、インターンシップは企業側の負担も大きくなるので、メリットをよりアピールして推進して欲しい。</li> <li>・ハローワークやジョブカフェは、企業側と距離が遠い。行政が情報を捕捉する役割を担って欲しい。</li> <li>・ニート対策については、適正検査を受けさせることも必要。</li> <li>・すくすくスマイル事業所をHPなどで公表できないか。</li> </ul>
	元気な産業づくり	【達成度評価】	
	<総括>	達成度	コメント
		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・越前市は改めてものづくりのまちであると思った。誇りに思う。</li> <li>・まちなか活性化は難しいテーマではあるが、全国的には成功例もないわけではない。あの手この手を打って欲しい。</li> <li>・客商売という捉え方や、遊び心を捕まえるという視点は非常に重要である。行政も積極的に打って出ることが必要ではないか。</li> <li>・グルメの三国同盟も面白いが知られていない、もっと発信力を強めるアイデアを。</li> <li>・インターンシップが立ち上がったことは重要である。受け入れ企業が学生に教えることは大変であるが、教えるためには自社の仕事を見直すきっかけにもなるので、メリットを企業にも伝えて欲しい。</li> </ul>

越前市総合計画達成度評価票 <まちづくりの柱別>

まちづくりの柱	元気な人づくり	【達成度評価】	
		達成度	コメント
	子どもの笑顔が輝く環境づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確実に遂行していかなければならない政策である。正しく真っ直ぐに事業を進めていただきたい。</li> <li>・方向性は間違っていないので推し進めて欲しいが、行政のための施策としてではなく、住民が望んで実現できる施策を行って欲しい。</li> <li>・地元、学校、企業との連携が大切である。</li> <li>・すすすすまいる事業所登録については、大手企業が多いと思うが、小さい会社にほど働きかけをし、意識啓発をして欲しい。</li> <li>・けんこうパスポートを作成しているが、予防接種の際などに利用できてよい。</li> </ul>
	安心して暮らせる長寿社会の実現	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内ではサロン(いきいきふれあいのつどい)が、活発に頑張っておられる。しかし、サロンに出られる方は元気な方である。参加されていない方のことも気を配って欲しい。サロンが少しでも行きやすい場であるようにして欲しい。</li> <li>・介護保険の運営については、できるだけ負担のかからないような社会を作って欲しいが、資源は無限ではない。</li> <li>・今できることを十分にされていると思うが、さらに頑張っていく分野である。</li> </ul>
	障がい者が安心して暮らせるまちづくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者福祉は、人権擁護と周りの人の意識が重要であり、有効な取組みがなされている。</li> <li>・子どもたちの特別支援学級など、自然な形で接している。子供からの教育を含めて、いろいろやっている。</li> <li>・福祉工場の充実もある。障害者が納税者になることで自立支援になるし、生き生きとして夢に向かって働くことになる。</li> <li>・障害を持った方が社会参画できる支援をお願いする。</li> </ul>
	健やかで元気に暮らせるまちづくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動・食生活・歯は子どもの健康で努めている。</li> <li>・ジェネリックの取組みは、お金と直結する健康を支える重要な問題であり、大きな効果をもたらしている。</li> <li>・概ね目標を達成しているが、数値目標を見直すなかで、さらなる向上をお願いする。</li> <li>・在宅医療の主治医等の確保につなげる活動を評価する。</li> </ul>
	助け合い、支え合う地域社会の形成	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のベースを支えるセーフティネットは、欠かせないものであり、課題が多くある。</li> <li>・景気の動向により、手の打ち所が難しいが、偏見が生じないような課題への対策を。</li> <li>・民生児童委員にスポットを当てて活動を評価してもらい、担い手を増やすような活動に期待を込める。</li> <li>・全国と比べて越前市はよくやっていると思うが、不安も多い。</li> </ul>
	人間力を高める教育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震工事、学校給食など数値目標に対して成果が見やすい。</li> <li>・若者を取り込んだまちづくりを推進して欲しい。</li> <li>・道徳心の教育に苦勞している。子供たちの道徳心を育てることが大事である、地域ぐるみで進めて欲しい。</li> <li>・充実をしているが、まだまだ教育は終わりが見えないもので、先を見据えて考えていかなければならない。</li> <li>・目標を達成した数値については、新たな課題の抽出をし目標の再設定をしてはどうか。</li> </ul>
	主体的に学びを活かす生涯学習社会の実現	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりのマナーやボランティア思考など社会貢献の意識が向上すれば、子供たちへの教育も変わる。</li> <li>・家庭教育が壊れてきている。これを止める手段を考え、心の教育を推し進め、道徳心を植えつけていく必要がある。</li> <li>・ゴールを見つけるのは難しいが、図書活動の取組みは高く評価できる。</li> <li>・全体主義、個人主義、地域の方から頼られて感謝をされて動くというサイクルができてることが大きい。難しいことだが、循環を支えられるような仕組み期待する。</li> </ul>
	誇れる歴史、芸術文化の創造	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的資源を活用し、観光資源としてどう結びつけるか。資源の有効活用については、どう評価して見せるか、プロセスが大事であるとする。</li> <li>・どのように歴史を守っていくか、スピード感を持って行って欲しい。</li> <li>・和紙のPRなどもっと広めて欲しい。</li> <li>・文化資源は活性化につながっていくので整備を。</li> <li>・若い人の感性を取り入れて欲しい。</li> <li>・文化センターの活用において、駐車場問題がある。</li> </ul>
	生涯スポーツのまちづくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した設備など今後の整備に期待するが、利用者にも配慮して欲しい。</li> <li>・菊花マラソンについて、スポーツの振興だけでなく、障害者の伴走など良い取組みもあり、PRになっていたが、評価票に記載されていない。</li> <li>・福井国体に向けた整備について、充実した、市民が喜ぶようなものになって欲しい。</li> </ul>
	元気な人づくり	【達成度評価】	
	<総括>	達成度	コメント
		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢の教室では、子どもたちのモチベーションも上がっており、アイデアを評価する。</li> <li>・他の自治体より耐震化の取組みが優れている。</li> <li>・どの政策をとっても、行政としてなすべきことはされており、努力を感じる。</li> <li>・市政として最も力を入れていただきたい分野ではあるが、成果が現れるには長い時間がかかる分野であるので、将来に向けさらなる取組みの強化を図っていただきたいとの思いから評価した。</li> </ul>



越前市総合計画達成度評価票 <まちづくりの柱別>

まちづくりの柱	快適で住みよいまちづくり	【達成度評価】	
		達成度	コメント
	秩序ある土地利用の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいまちづくりの形ができてきている。</li> <li>・難しい土地利用の中で、かなり推進していると思う。</li> <li>・新庁舎の件も含め、きちんとした土地利用のルールづくりをして進めて欲しい。</li> </ul>
	コンパクトで機能的な都市構造の形成	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新婚夫婦家賃補助事業は成果が出ている。子供が増えれば、人口増につながるので、高く評価する。</li> <li>・コウノトリの取組みや中心市街地活性化のイベントについて、若年層の参加を増やせるようにしないともったいない。これからも継続して取り組んでもらいたい。</li> <li>・市全体の魅力づくりにまだ課題もあるように思える。様々な取組みをお願いする。</li> </ul>
	うるおいのある住環境の創出	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園・緑地の整備は評価したい。今までやってこなかったことを進めている。</li> <li>・上下水道の整備は進めてほしい。</li> <li>・住宅の供給に問題はあるが、都市景観も含めてやっている。</li> <li>・観光資源という観点から新たな資源を作り出す息の長い取組みが必要ではないかと思う。トータルとして魅力あるまちづくりをして欲しい。</li> </ul>
	快適な交通体系の整備	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸谷片屋線開通の成果は大きい。</li> <li>・福武線の利用者が増加したことは成果である。地道な取組みやサポート団体の取組み、増加に至った内容を細かく分析して、強くアピールできるようにして欲しい。</li> <li>・市民バスと路線バスの境目がなくなるようなルート改正をお願いしたい。</li> <li>・駐車場の整備はもう少しできることがあるのではないか。需要に対して供給が少ない。利用勝手が悪い。利用者の立場に立ったサービスが不足している。</li> <li>・歩道除雪は改善されている。危険にさらされることなく、良かった。雪対策は今後もお願いしたい。</li> </ul>
	環境にやさしいまちづくり	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・違った視点を盛り込んだ施策を展開して欲しい。</li> <li>・環境だからということで、ブームに乗らないことも大事。電気自動車もインフラが不足しており、高い費用をかけても使えなければ意味がない。エコに限らず、違った視点を盛り込んだ施策を展開し幅を広げて欲しい。</li> <li>・太陽光発電も能力が向上し、価格は低下している。補助をするなら、メリット・デメリットを説明し、市民からの信頼関係を築くようにすべき。</li> <li>・施策と成果との兼ね合いは十分になされている。</li> </ul>
	快適で住みよいまちづくり	【達成度評価】	
		達成度	コメント
	快適で住みよいまちづくり <総括>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパクトシティの政策と交通体系は切り離せない、その視点での長期ビジョンには興味がある。</li> <li>・魅力ある市街地づくり、蔵の辻の活用など市街地の活性化に繋がっていないような気がする。ワンランク上の政策・実績を期待する。</li> <li>・コウノトリが舞う里づくり推進事業は、地味ではあるがシンボルとしてとらえており、数値的な成果は出にくいものではあるが、ロマンがありよい発想で取り組んでいる。</li> </ul>

越前市総合計画達成度評価票 <まちづくりの柱別>

まちづくりの柱	安全で安心なまちづくり	【達成度評価】	
		達成度	コメント
政策	地域が支える防災体制の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会場等の耐震化については、昨年、一昨年も負担が大きいためか進んでいない。課題改善のため対策を進めていって欲しい。</li> <li>・組織づくり、マニュアルづくりを的確に実施している。</li> <li>・原子力災害については、具体性をもってどのように対応できるのか、実効性、正しく運用されるのかをチェックしていく必要がある。</li> </ul>
	郷土を守る治山・治水対策の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策はしっかりしている。内容は少しずつ進んでいる。</li> <li>・予算に応じて進捗度が変わるが、できることはやっている。</li> <li>・治水対策は進んでいるが、治山対策については、山を復活させる意味でもっとがんばって欲しい。</li> <li>・イノシシが山肌を荒らし崩れるような災害が危惧される。獣害対策も努力を期待する。</li> </ul>
	地域ぐるみの防犯対策の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯においては、地域社会との連携が不可欠であり、自治振興会の役割は大きい。</li> <li>・刑法犯認知件数が不可抗力で増えることもあり、不可抗力をどう評価するかは難しいが、しっかり認識して取り組んでおり、安心している。</li> <li>・市民も参加できるものを出して欲しい。自治会での活動以外に、犬の散歩を下校時にやるなど個人でできることもあると思うので、活動のアイデアを募るなど、取組みを広げる工夫をお願いする。</li> <li>・凶悪犯罪が少ない土地柄であるが、犯罪は予想外で想像以上なことが起こることもある。都会で起こったことが何年か後に地方に起こることも事実なので、今後も対策をお願いする。</li> </ul>
	消防・救急体制の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命講習会は、効果が高い。一度は受けておくべきなので、必ず受けられるように鋭意努力をお願いする。</li> <li>・AEDは意外とやってみないとできない。講習会で体験して欲しい。</li> <li>・講習者の維持拡大に関する評価数値を示すことで取組みがアピールできるのではないかな。</li> </ul>
	暮らしの安全の向上	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者相談員の増加し、相談数の減少している。サービス向上が図られていると評価する。</li> <li>・水資源の確保は重要であり、十分にされているのかどうかの指標を明示して欲しい。</li> </ul>
	安全で安心なまちづくり ＜総括＞	【達成度評価】	
		達成度	コメント
		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に何回も豪雨災害に遭っており、災害が発生した場合の対応・事後処理体勢を今後とも迅速にとっていただきたい。</li> <li>・除雪対策も含めて、地元の協力なしにはできないので連携を密にして、通学路の確保をお願いしたい。</li> <li>・地域ぐるみの防犯活動においては、市内各地で取り組まれているが、自らが実際に活動していないと分からないこともある。連携を取って取組み状況をもっと周知すべき。</li> </ul>

越前市総合計画達成度評価票 <まちづくりの柱別>

まちづくりの柱	市民が主役のまちづくり	【達成度評価】	
		達成度	コメント
政策	市民自治の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人団体数においても目標達成していない、マンネリ化もある。テコ入れに期待したい。</li> <li>・自治振興会の運営については、役員の継続性など地区による事情の違いや、人材育成についての課題などがあるが、成功事例などの情報を共有し、試行錯誤し、模索しながらでも前に進んで欲しい。</li> <li>・補助金の申請手続きは市民がわかりにくくハードルが高い印象がある。申請しやすい環境づくりを。</li> </ul>
	市民交流の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市間交流の推進について、原子力災害時の県外避難先(小松市、能見市)にも越前市をわかってもらえるような交流計画など、交流事業の見せ方を工夫し、進めて欲しい。</li> <li>・外国人のための交通ルールやマナーなどの支援をして欲しい。</li> </ul>
	人権尊重と男女共同参画社会の実現	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権の尊重の啓発広報活動は充実されているが、実際どういう形で実現され、結果として意識が高まっているのか。人権侵害事例の把握など現実問題のデータがないのは寂しい。間接データでもよいので示して欲しい。人権問題は永遠の課題である。</li> <li>・日本での女性の登用率は先進国で最低で、賃金の格差も大きく、環境の整備が必要である。</li> <li>・子育て世代の女性の声も出さないといけない。</li> </ul>
	情報の共有化の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市のSNSやツイッターについてはさらにアピールをすべきであり、取り組みの成果はまだ十分とは言えない。道半ばである。</li> <li>・越前市のHPから呼び込む仕組みづくりを外部の協力を得て楽しく作っていくべき。</li> <li>・観光拠点に公衆無線LANが設置されているのは意義があるので、もっと大きくアピールをすべき。</li> <li>・情報通信基盤は進歩が速いので、もっと先に進まなければならない。</li> </ul>
	市民が主役のまちづくり <総括>		<p>【達成度評価】</p> <p>達成度</p> <p>コメント</p>
		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の登用については単に数値目標だけでなく、運用について考えていただければありがたい。</li> <li>・より広い視点を取り入れるという意味で、女性の登用と合わせて若者の登用をお願いしたい。</li> <li>・情報分野はスリムな行政を支える根幹の分野である。種をまいて芽が出ている状態なので、出た芽から実を収穫していくようにして欲しい。</li> </ul>

越前市総合計画達成度評価票 <まちづくりの柱別>

まちづくりの柱	地方分権に対応した行財政運営	【達成度評価】					
		達成度	コメント				
政策	自立した行財政運営の確立	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自立した都市を目指して」と打ち出しているが、税収を伸ばすための工夫、滞納率を減らすため特別徴収の推進をすべきではないか。</li> <li>・県内でも恵まれた状況にあるため数字に表れているが、改善の余地がある。</li> <li>・財政における人件費は多くないと思うが、色々な施策の中で改善していくべき。</li> <li>・税収を伸ばし、幅広く行政の効率化を進めることが必要であり、どのような施策で改善していくか、全体を見て評価できる項目である。</li> </ul>				
	行政の広域化への対応	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム更新に伴うオープンパッケージ、クラウド化など、共同して効率化を図り、メリットを生かそうとしていることが伺える。</li> <li>・広域的な連携は必要で、お互いに協力してやっていく課題がある。こいうった組織を活用し、長期的計画的にさらに進めて欲しい。</li> </ul>				
	電子自治体の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的に向かわざるを得ないものではあるが、普及していく前にイメージや着地点をしっかりと持っておくべき。</li> <li>・うまく使えば、業務の効率化、市民の利便性の向上にもなるが、利用率の低さの要因には利便性が課題だと思うので、フォームの統一や簡易入力など、リピート率を高める仕組みを検討して欲しい。</li> <li>・電子申告が普及すれば、法人にはペーパーレスの意味がある。どれだけ人件費が浮くのか、市もどれだけ負担軽減になるのか、効果をわかりやすく周知するべき。</li> <li>・電子化が進んだとき、高齢者など活用が難しい人には手を差し伸べる行政をお願いする。</li> </ul>				
	地方分権に対応した行財政運営 ＜総括＞		<p style="text-align: center;">【達成度評価】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>達成度</th> <th>コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方分権が進んでいく中で、行政運営の効率性確保は非常に重要な課題であるので、社会情勢の変化を見極めながら今後ともさらなる取組みを進めてほしい。</li> <li>・市が主体となって努力して達成できる分野もあるが、困難な分野もある。行政もさらに工夫をしながら達成に向け進めて欲しい。</li> <li>・広域でできることは、広域でやった方が効果的。しかし物足りなさや課題を感じる。もっと色々やれることがあると思う。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	達成度	コメント	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方分権が進んでいく中で、行政運営の効率性確保は非常に重要な課題であるので、社会情勢の変化を見極めながら今後ともさらなる取組みを進めてほしい。</li> <li>・市が主体となって努力して達成できる分野もあるが、困難な分野もある。行政もさらに工夫をしながら達成に向け進めて欲しい。</li> <li>・広域でできることは、広域でやった方が効果的。しかし物足りなさや課題を感じる。もっと色々やれることがあると思う。</li> </ul>
達成度	コメント						
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地方分権が進んでいく中で、行政運営の効率性確保は非常に重要な課題であるので、社会情勢の変化を見極めながら今後ともさらなる取組みを進めてほしい。</li> <li>・市が主体となって努力して達成できる分野もあるが、困難な分野もある。行政もさらに工夫をしながら達成に向け進めて欲しい。</li> <li>・広域でできることは、広域でやった方が効果的。しかし物足りなさや課題を感じる。もっと色々やれることがあると思う。</li> </ul>						

## 5 越前市総合計画達成度評価委員会の開催経過

年月日	会議等	内容等
平成 26 年 4 月 22 日(火)	第1回達成度評価委員会	1 総合計画達成度内部評価結果の説明 2 審議（評価の実践）元気な人づくり
平成 26 年 4 月 30 日(水)	第2回達成度評価委員会	1 現地視察 栗田部認定子ども園、今立工業団地、 越前市弓道場、神山児童館 2 審議（評価の実践） 快適で住みよいまちづくり
平成 26 年 5 月 8 日(木)	第3回達成度評価委員会	1 審議（評価の実践）元気な産業づくり
平成 26 年 5 月 13 日(火)	第4回達成度評価委員会	1 審議（評価の実践） 安全で安心なまちづくり 市民が主役のまちづくり 地方分権に対応した行財政運営
平成 26 年 5 月 20 日(火)	評価結果の市長報告	1 委員会から評価結果の市長報告

## 6 越前市総合計画達成度評価委員会 委員名簿

◎：委員長

氏名	役職等
井上 博之	市指定管理者評価委員
上嶋 晃智	福井高専副校長(教授) 元市産業活性化プラン策定委員
四戸 友也	仁愛大学准教授 元福井新聞社論説委員
田中 希世子	税理士・社会保険労務士 市指定管理者評価委員
中庄司 尚範	元武生青年会議所理事長
◎ 藤下 洸養	市総合計画基本計画改定懇話会座長 元市教育委員会委員長
脇田 淳子	元福井県PTA連合会副会長

(敬称略：五十音順)

## 7 越前市総合計画達成度の評価に関する越前市事務事業等評価委員会設置規則

(設置)

第1条 越前市総合計画達成度の評価に関する調査審議を行うため越前市附属機関設置条例（平成24年越前市条例第2号）第2条の規定に基づき、越前市総合計画達成度の評価に関する越前市事務事業等評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員7人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係行政機関の職員
- (3) 前2号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指定する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、会議の議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(報酬)

第6条 委員の報酬は、特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（平成17年越前市条例第44号）及び特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例施行規則（平成24年越前市規則第13号）の定めるところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、越前市行政組織規則（平成17年越前市規則第10号）別表第5に定める課において処理する。

(その他)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

(委員会招集等の特例)

2 委員長が互選されるまでの間、会議の招集及び運営は、市長が行う。

# 越前市総合計画達成度内部評価票

【平成25年度分】

## 越前市総合計画達成度内部評価票の構成

< 平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価結果一覧表 > P.1

< 平成25年度 越前市総合計画達成度 評価票 総括 > P.2

### 基本構想

重点目標

P.2

### 基本計画

5つのまちづくりの柱及び、行財政運営の《総括》

P.2

< 平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票 > P.8

### 第1章 【元気な産業づくり】

第1節 活力と創造性に満ちた工業の振興

P.8

第2節 魅力ある商業の振興

P.10

第3節 出会いと感動のある観光振興

P.11

第4節 地域資源を活かした農業の振興

P.13

第5節 みどり輝く森林づくり

P.15

第6節 いきいきと働きやすい環境の充実

P.16

### 第2章 【元気な人づくり】

第1節 子どもの笑顔が輝く環境づくり

P.17

第2節 安心して暮らせる長寿社会の実現

P.19

第3節 障がい者が安心して暮らせるまちづくり

P.20

第4節 健やかで元気に暮らせるまちづくり

P.21

第5節 助け合い、支え合う地域社会の形成

P.23

第6節 人間力を高める教育の充実

P.24

第7節 主体的に学びを生かす生涯学習社会の実現

P.27

第8節 誇れる歴史、芸術文化の創造

P.29

第9節 生涯スポーツのまちづくり

P.30



### 第3章 【快適で住みよいまちづくり】

第1節 秩序ある土地利用の推進	P.31
第2節 コンパクトで機能的な都市構造の形成	P.32
第3節 うるおいのある住環境の創出	P.35
第4節 快適な交通体系の整備	P.38
第5節 環境にやさしいまちづくり	P.41

### 第4章 【安全で安心なまちづくり】

第1節 地域が支える防災体制の充実	P.43
第2節 郷土を守る治山・治水対策の充実	P.45
第3節 地域ぐるみの防犯対策の充実	P.46
第4節 消防・救急体制の充実	P.47
第5節 暮らしの安全の向上	P.48

### 第5章 【市民が主役のまちづくり】

第1節 市民自治の推進	P.50
第2節 市民交流の推進	P.51
第3節 人権尊重と男女共同参画社会の実現	P.52
第4節 情報の共有化の推進	P.53

### 第6章 【地方分権に対応した行財政運営】

第1節 自立した行財政運営の確立	P.55
第2節 行政の広域化への対応	P.57
第3節 電子自治体の推進	P.58

## 平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価結果一覧表

### 柱別

第1章 【元気な産業づくり】	3
第2章 【元気な人づくり】	4
第3章 【快適で住みよいまちづくり】	4
第4章 【安全で安心なまちづくり】	4
第5章 【市民が主役のまちづくり】	3
第6章 【地方分権に対応した行財政運営】	3

### 柱および政策別

<b>第1章 【元気な産業づくり】</b>	<b>3</b>
第1節 活力と創造性に満ちた工業の振興	4
第2節 魅力ある商業の振興	3
第3節 出会いと感動のある観光振興	3
第4節 地域資源を活かした農業の振興	3
第5節 みどり輝く森林づくり	3
第6節 いきいきと働きやすい環境の充実	4
<b>第2章 【元気な人づくり】</b>	<b>4</b>
第1節 子どもの笑顔が輝く環境づくり	4
第2節 安心して暮らせる長寿社会の実現	3
第3節 障がい者が安心して暮らせるまちづくり	4
第4節 健やかで元気に暮らせるまちづくり	4
第5節 助け合い、支え合う地域社会の形成	3
第6節 人間力を高める教育の充実	4
第7節 主体的に学びを生かす生涯学習社会の実現	3
第8節 誇れる歴史、芸術文化の創造	4
第9節 生涯スポーツのまちづくり	4
<b>第3章 【快適で住みよいまちづくり】</b>	<b>4</b>
第1節 秩序ある土地利用の推進	4
第2節 コンパクトで機能的な都市構造の形成	4
第3節 うるおいのある住環境の創出	4
第4節 快適な交通体系の整備	4
第5節 環境にやさしいまちづくり	4
<b>第4章 【安全で安心なまちづくり】</b>	<b>4</b>
第1節 地域が支える防災体制の充実	4
第2節 郷土を守る治山・治水対策の充実	4
第3節 地域ぐるみの防犯対策の充実	3
第4節 消防・救急体制の充実	4
第5節 暮らしの安全の向上	3
<b>第5章 【市民が主役のまちづくり】</b>	<b>3</b>
第1節 市民自治の推進	3
第2節 市民交流の推進	4
第3節 人権尊重と男女共同参画社会の実現	3
第4節 情報の共有化の推進	3
<b>第6章 【地方分権に対応した行財政運営】</b>	<b>3</b>
第1節 自立した行財政運営の確立	3
第2節 行政の広域化への対応	3
第3節 電子自治体の推進	3

# 平成25年度 越前市総合計画達成度 評価票

## 基本構想

総人口 (3,31 現在)								
重点目標	単位	基準値	目標値	H19	H20	H21	H22	H23
定住化の促進	人	H17.10	H28	87,126	85,982	85,660	85,569	85,068
		87,742	88,000	H24	H25	H26	H27	H28
				84,487	83,617			

平成28年度(2016年度)の計画人口を88,000人としていますが、越前市の人口は合併直後にピークを迎え、その後、全国的な傾向と同様に減少に転じました。国立社会保障・人口問題研究所がまとめた日本の将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)によると、平成32(2020)年には、80,449人、平成37(2035)年には70,418人になると推計されています。

今後、これらの人口減少時代を見据えながら、長期的な視点に立った「人づくり・ものづくり・まちづくり」の各政策を着実に取り組み、「越前市に住みたい」「越前市に住み続けたい」と感じるまちづくりを進め、定住化の促進を図ります。

## 基本計画

まちづくりの柱	成果・課題・今後の方向性	政策別	総合
<b>第1章</b> <b>元気な産業</b> <b>づくり</b> <b>《総括》</b>	<b>内部評価</b> <p>工業については、日本経済が徐々に上向きつつある中で、市内大手企業の一部には堅調さが見られるが、中小・零細企業では円安による原材料の高騰などにより景気回復が遅れている。市では、引き続き積極的な企業訪問を行い、情報の収集・分析に努め、産学官の連携により市産業活性化プランに基づいた各支援施策を展開し、それぞれの施策による効果を生み出す一方で、新たな課題も浮き彫りとなった。</p> <p>伝統産業については、越前筆笥が伝統的工艺品に指定されたほか、打刃物や和紙の海外での販路開拓の積極的な取り組みや、打刃物では22年ぶりの新規開業が生まれるなど、産地活性化の動きが強くなってきており、市としても積極的に支援を行った。</p> <p>今後も、企業訪問(アタック100)などを通じて、企業との情報交換に努め、支援施策の実効性を高めていく。</p> <p>商業については、より商業の活性化につながるようするため、今後も補助制度の周知を図るとともに、まちなかにおける開業予定者の情報を収集し、また開業後、営業が安定持続できるようフォローアップするため、市まちづくりセンター、武生商工会議所との連携をさらに推進する。</p> <p>中小企業融資事業については、100%保証を利用した市の制度融資である小規模企業者支援特別資金が、24年度より利用が減少したが、小規模事業者の資金調達の円滑化に効果があったことから、今後も国の経済対策や景気動向を注視する中で、融資枠の拡大を図り、継続的な支援を行っていく。</p> <p>観光については、本市の観光業務を総合的に担う組織として、25年5月に越前市観光協会が設立され、より迅速な情報発信、対応が可能となった。また、市観光協会が観光情報発信の中心を担うことにより、市内の情報が集約され、観光客が求める新鮮な情報が容易に入手できるようになった。</p> <p>越前市の一大観光イベント「たけふ菊人形」は、25年度に市民団体の菊人形会場を活用したイベント実施により、若者など新たな客層の獲得に成果を上げることができた。しかし、菊人形全体の入場者数が減少傾向にあることから、これら市民団体との連携を強化し、市民参加型イベントへの取り組みを行い、まち全体の雰囲気盛り上がるよう趣向を凝らす。また、越前市三大グルメは、民間団体の活発な活動によって、越前市の名物として定着してきている。今後、おろしそばやボルガライス発祥の地としてさらなるブランド化を目指す活動に対し、継続的に支援していく。</p> <p>今後、北陸新幹線の金沢駅開業や舞鶴若狭自動車道の新全線開通、中部縦貫自動車道の開通など、本市をとりまく交通体系が大きく変化するため、観光協会、市民、イベント実施団体との連携を強化し、新たな観光客誘致や市民のおもてなしの心の醸成などに取り組み、観光振興を図る。</p> <p>農業については、環境調和型農業の取り組み面積が過去最高となったが、JA越前たけふは実需者からの要望が高い品種である日本晴の作付を平坦地で推進するとしたこと、高品質の米の生産が期待できる西部地域での取り組みの推進を、これまで以上にJAと連携し継続する。食育・産地地消の推進は、これまでの食育フェアの開催時期や会場を見直すことにより、一層の食育の推進と地元農産物のPRと生産農家の育成を図る。園芸振興については、選果機の更新を契機に後継者育成や特産化の確立を目指す。</p> <p>鳥獣害対策については、積極的に被害防止対策を講じているにもかかわらず、市街地にまで被害が拡大していることから、集落と一体となった防護対策に取り組む。生産基盤の整備・維持管理については、国が新たに創設した日本型直接支払制度の積極的な取り組みや、人・農地プランを基本とした農地中間管理機構の活用による農地の集積、優良な農村の維持を図る。引き続き、食と農の創造ビジョンの着実な実現を進める。</p> <p>林業については、森林のもつ多面的機能を発揮させるため、森林の施業向上や林道・作業道を整備し森林の施業の向上を図り、住民との協働による林道維持管理に努めた。また、健康・レクリエーションの場として、ハツ杉森林学習センターや金華山グリーンランドの利用促進に努めた。</p> <p>今後も、緑豊かで健全な森林の整備、市民と連携した環境学習活動や地元産材の有効活用を図りながら、森林資源を活用するための取り組みを進める。</p> <p>働きやすい環境の充実については、高齢者の生きがいの充実、社会参加の推進を図るため、シルバー人材センターへの支援を行い、就業の機会の確保に努めるとともに、労働者の福利厚生施設の運営など働きやすい環境の充実にも努めた。また、勤労青少年ホームにおいて、若者の交流の機会の提供だけでなく、就労関係機関との連携によるニートや若年者層の就労支援のための相談や若者向けの講座の充実を図った。</p>	第1節 4  第2節 3  第3節 3  第4節 3  第5節 3  第6節 4	3

まちづくりの柱	成果・課題・今後の方向性	政策別		総合
<p>第2章 元気な人 づくり 《総括》</p> <p>内部 評価</p>	<p>子どもの笑顔が輝く環境づくりについては、～コウノトリが運ぶ～市子ども子育て支援計画に基づき、子ども・子育て総合相談窓口の開設やブックスタート事業の開始等「次世代を育む施策」を充実した。また、多子世帯の保育料軽減や子ども医療費助成など子育て家庭への助成制度を拡充し、子育てしやすい環境を充実した。市内事業所における育児休業も定着してきた。</p> <p>児童の放課後における健全育成については、児童館未整備地区に児童館を整備するとともに、全児童館で開館時間を繰上げる等により児童の安全安心な居場所の拡充を行った。</p> <p>幼保一体化については、初めての民間認定こども園が栗田部地区で開園し、順調に運営を行っている。</p> <p>今後は、27年度開始の「子ども・子育て支援新制度」に向け、市子ども・子育て会議の設置、市子ども・子育て支援事業計画の策定などを行う。</p> <p>介護予防については、高齢者元気度調査に併せて定年齢認知症検診を実施したことにより、二次予防事業対象者、また認知症を疑う高齢者が数多く把握され、介護予防の充実や認知症の早期発見が図られた。</p>	第1節	4	4
	<p>地域包括ケアシステム推進については、高齢者の見守りについて、町内福祉連絡会の開催や高齢者を訪問する機会の多い事業者との協定締結など、多面的な見守りネットワークづくりが推進された。また、地域医療、在宅ケア関係者の顔の見える多職種連携会議や、地域ケア会議を開催することで関係者の連携が進んだ。</p> <p>さらに、26年度には、策定する第6期市高齢者福祉保健計画・介護保険計画に医療と介護の連携を明確に位置づけて地域包括ケアシステムの確立を目指す。</p>	第2節	3	
	<p>相談支援については、障がいのある人の相談支援体制を福祉サービス事業所等と連携し充実を図った結果、相談件数が増加した。しかし、26年度内に障害福祉サービスを利用する障がい者のサービス等利用計画を全て作成する必要がある。そこで、福祉サービス事業所と連携し相談支援体制の充実を図る。</p> <p>社会参加については、県障がい者スポーツ指導者協会の協力を得て、障がいのある人がスポーツに気軽に参加できるよう、ニュースポーツ講習会を開催し、仲間同士の交流と社会参加を促進することができた。さらに、26年度に市障がい者計画・市障がい福祉計画を改定する中で、障がい者の意見を十分に聞きながら社会参加を促進する。</p> <p>就労支援については、障がい者就労支援施設等からの物品等の調達方針を策定して、優先調達の目標額を定め、市のセルフ製品の受注促進を図った結果、県内市町ではトップクラスの発注額であった。</p>	第3節	4	
	<p>健康づくりの推進については、市健康21計画（第2次）に基づき「運動」「食生活」「歯」の3分野について行動指針に沿った取組みを行った。「運動」については、市健康ウォークのコースにキッズコースを加えたことにより、参加者数が前年より482人増え、子どもの頃からの健康づくりのきっかけづくりになった。「食生活」については、健康応援団の拡大を図るとともに、行動指針のマイナス3gの減塩の具体的実践や意識啓発を図ることを目的に、「-3gを目指そう かんたん減塩レシピ」を作成した。「歯」については2歳6ヵ月児歯科検診受診率及び3歳までにフッ化物塗布を受けたことのある幼児の割合は共に増加した。また、けんこうパスポートの普及、年間1,000人増の目標を達成した。</p> <p>身近な医療の確保については、地域における在宅医療体制の整備を進めるため、多職種の連絡会を開催し、武生医師会と連携し、地域包括支援センターを介しての在宅医療における主治医等の確保にかかる支援事業の仕組みづくりを行い、新年度からの運用にこぎつけた。</p>	第4節	4	
	<p>地域ぐるみ福祉の推進については、市地域福祉計画の改定に当たり計画策定委員会における現計画の検証等により課題を浮き彫りにし、新計画において対策を明確にすることが出来た。その結果、民生委員・児童委員や福祉推進員等地域福祉の担い手不足と町内福祉連絡会の定着・充実が課題として浮き彫りとなったことから、26年度以降市社会福祉協議会と協力し、町内へ出向き、研修等に積極的に参加することで、町内福祉連絡会の定着と充実を図り、地域住民の理解を深め、地域の見守りネットワークの組織化を図る。</p> <p>生活困窮者へのセーフティーネットについては、就労支援員が一人ひとりの状況に応じた支援に取り組んだ結果、支援対象者37人のうち22人が就労開始し、うち8人の自立につながった。また、貧困の連鎖を防止するため、生活保護世帯の子ども23人に対して、日常生活支援、学習支援等を実施し、基礎学力の向上5人、高校合格1人、就職内定1人の効果があった。さらに、25年度から生活困窮者の社会参加推進事業として、ひきこもり等の生活困窮者25人を対象に、生活自立訓練や就労体験の場を提供したところ、就労体験へ導く等の成果があった。</p> <p>しかし、生活保護に至る前の段階からの早期支援が課題であることから、26年度に生活困窮者に対する総合的な相談窓口を開設し、生活困窮者自立支援事業に取り組む。</p>	第5節	3	

<p>第2章 元気な人 づくり 《総括》</p>	<p>内部 評価</p>	<p>教育施設の充実については、27年度の耐震化率100%に向け耐震化工事を着実に進め、110棟の耐震化を完了し、88%の進捗率となった。さらに、屋内運動場の照明器具の落下対策等非構造部材の耐震化を行い、児童生徒の安全・安心を確保するとともに、災害時に地域の避難施設となる防災拠点施設の機能強化も図られた。</p> <p>また、近年の猛暑に対応するため、26年夏の稼働に向け、市内全中学校の普通教室へのエアコン整備事業に着手した。</p>	第6節	4	4
		<p>義務教育の充実については、「こころのプロジェクト・夢の教室」など、子どもたちの夢を育み生きる力の育成を図る取組みの継続的な推進を行った。また、幼保一体化については、就学前教育施設（保育園、幼稚園、認定子ども園）からの一貫した教育体制を確立するためモデルカリキュラムを作成し、小学校への円滑な接続を目指していく。</p> <p>不登校など支援が必要な児童生徒に対し、保幼小中で一貫性のある支援体制を築くとともに、教育補助員や訪問指導員など多職種が連携し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援を行った。特に、不登校対策については、スクールカウンセラーを12校に配置し、小中連携を進めながら不登校の未然防止に努めた。</p> <p>また、全国学力・学習状況調査の結果分析で、小中学校とも全国より夢・希望を持つ子の割合が多く、21年度と比較し、小学校8.4%増、中学校5.0%増となった。今後も、子どもたちが将来の「夢」や「目標」について、考えることができる「夢の教室」を継続し、子どもたちの確かな成長を保護者も実感できる取組みを進めていきたい。</p>	第7節	3	
		<p>高等教育の充実については、教育研究機能の充実や産学連携の一環として、市内の中学校が参加し、福井工業高等専門学校との連携によるロボットコンテスト事業を継続的に実施している。25年度は、万葉中学校のチームが、初の全国大会入賞を果たした。ものづくりへ興味・関心を持つきっかけとして、今後とも、参加校の拡大を図っていきたい。</p> <p>また、情報モラルの指導を充実するため、子どもと保護者が連名で署名する「わが家の10か条」を作成し、市内全小中高校へ配布し、家庭との連携を進めた。児童・生徒がこれからの情報化社会を生きていくために必要な情報モラル指導の取組みを繰り返し実施していききたい。</p> <p>中学校を卒業した「引きこもりがちな」若者を対象に、話し合いや軽スポーツなどを実施する「コミュニティ広場」を開催し、延べ150人の若者に社会的自立のための支援を行った。</p>	第8節	4	
		<p>生涯学習の充実については、公民館において、社会ニーズや地域の課題に対応したボトムアップ型の学習講座を開催した。今後も、学習成果を身近なところで生かすまちづくりにつなげていく取組みを進めていく。</p> <p>また、市内全地区の公民館などで放課後子ども教室を開催し、地域住民の参画を得ながら、勉強、スポーツ、文化活動などを行い、放課後の子どもたちの安全な居場所の確保と安全で健やかな成長を支援した。今後も、魅力的で安全・安心な活動拠点（居場所）を確保していききたい。</p> <p>読書のまちの推進拠点として、4月にかこさとし氏の描いた原画や絵本、紙芝居を備えたかこさとしふるさと絵本館「石石」を開館した。開館から11ヶ月余りで入館者が1万8千人を超え、多くの子どもたちの創造力や探求心を育む大きな取組みにつなげることができた。</p> <p>「読書のまち」については、宣言の5本の柱から事業を展開し、生まれたすべての赤ちゃんに、本に出会うきっかけとしての「ブックスタート」を開始し、全ての小中学校で「朝読書(あさどく)」が実施され、文学散歩などにより作品と地域の関わりを理解を深める「域読書(まちどく)」を進めることができた。さらに、「親子読み聞かせ」では、毎週土曜日に開催する親子向け行事の開催により家族みんなで好きな本を読む「家読書(うちどく)」、大人向けのお薦め本展示コーナー設置による「生涯読書(いきがいでく)」を実施し、目指す読書推進活動ができた。さらに、市民がより本に親しむ機会を増やし読書習慣の定着を図るために、新たに福祉施設等への団体貸出を実施するなど、「出かける図書館」を目指す。</p> <p>芸術文化の振興については、武生公会堂記念館の耐震補強等工事の完成と、芸術文化活動・鑑賞の拠点である、越前市文化センターの耐震補強等の工事実施に向けた取組みを進めた。また、歴史資源の継承と活用として、10月にかけ、越前から越後に至る「こしのくに」の国府があったとされる越前市、小松市、七尾市、高岡市、上越市の5市による初の「第1回こしのくに国府サミット」を開催した。国府について、理解を深め、5市の市長らによる「歴史と文化を生かしたまちづくり」をテーマに話し合い、歴史文化遺産の継承などを盛り込んだ「こしのくに国府サミット共同宣言」を発表した。今後は、国府の資料・出土品の交換展示や観光・物産面での協力、子どもたちの交流などこしのくに文化を生かしたまちづくりを模索していききたい。</p>	第9節	4	

まちづくりの柱	成果・課題・今後の方向性	政策別	総合
<p>第3章 快適で 住みよい まちづくり 《総括》</p> <p>内部 評価</p>	<p>秩序ある土地利用の推進について、議会の議決を経て、16年に武生市・今立町合併協議会が策定した新市建設計画を変更した。今後の人口減少時代を見据えた「ネットワーク型コンパクトシティ」を目指し、武生と今立の2つの歴史的拠点の継承・発展を図るため、本庁舎を現在地に建設するとともに、今立総合支所を改築し、市東部地域の防災・コミュニティ等の機能を有する複合施設として、拡充整備することとした。また、武生中央公園の再整備、北陸新幹線「南越駅(仮称)」の周辺整備、スポーツ施設の再配置など大型プロジェクトを計画の中のまちづくり主要事業に追加した。本庁舎および今立総合支所については、合併特例債の発行期限の32年度までに整備を図る。次に開発行為及び建築の申請に対しては、25年度も市都市計画マスタープランの土地利用方針に基づき、関係各課と連携しながら適切な土地利用の誘導に努めた。また、国高地区の戸谷片屋線開通に伴う土地利用上の対策については、沿線のうち馬上免町において、住みよいまちづくり推進条例に基づき「地域街づくり推進団体」の設立に向けた準備が始められた。今後とも、沿線住民の土地利用に対する合意形成に向け学習会を重ねながら、早期の組織立上げを促す。</p> <p>コンパクトで機能的な都市構造の形成について、中心市街地では、まちなか空き屋等リフォーム支援事業など居住支援制度の充実やまちづくりセンターの空き家、空き店舗の橋渡しにより居住人口の増加に努め、一定の成果があった。今後は、越前市不動産業協会との連携による空き家、空き地の利活用促進等、なお一層の居住推進に取り組む。併せて、中心市街地における良質な住宅供給を図るため、借り上げ市営住宅の整備を進める。</p>	<p>第1節 4</p>	
	<p>一般市街地については、神山南部土地区画整理事業において、公有地等購入促進事業による保留地完売の効果もあり、事業が完了できた。また、25年度より創設した「多世代同居のリフォーム支援事業」では、居住促進に一定の成果があったが、今後はより一層の制度活用に伴う居住促進に向け、包括的な制度PRに努め、市街地における居住促進を市街地全体で図っていく。</p> <p>良好な都市景観の形成について、景観まちづくりは着実に進行し、24年度に都市景観大賞優秀賞を受賞した四町地区が本市初の景観形成地区に指定された。今後は、街並み景観を活かした地域まちづくり活動の継続とステップアップに向け、なお一層の働きかけを行う。</p> <p>公園・緑地の整備については、丹南総合公園の一部供用開始をはじめ、4公園の供用開始、1公園の供用開始区域の拡大を行い、市民の身近な憩いの場、レクリエーションの場の拡大が図られた。今後とも、効果的・効率的な整備に努める。</p> <p>良質な住宅の供給について、老朽化した市営住宅1団地の撤去と用地返還が完了し、併せて市全体の老朽化した木造市営住宅の適正管理方針を定めた。また、民間住宅の耐震診断・補強プランの件数は、24年度より42件から36件に減少したが、耐震改修工事補助は、市広報、チラシ、PR活動により前年より4件から7件に増加した。今後は、これまでのPR活動を促進するとともに、防災安全課と連携しながら、市民の防災意識高揚と木造住宅の耐震改修の促進を図っていく。</p> <p>コウノトリが舞う里づくり戦略は、①里地里山の保全再生、②環境調和型農業、③学びあいと交流について長期的な視点で取り組んでいる。具体的な取り組みとして、「SATOYAMA親子レンジャー」や「ごはん塾」などの親子体験型プログラム等を実施した。これらの取り組みの成果を将来的に確実に繋げていくため、小中学校での環境教育とともに、若年層世代における自然再生や生物多様性の大切さについて、さらに意識の醸成をさらに図っていく。</p>	<p>第2節 4</p>	4
	<p>水道事業については、第5次拡張事業や老朽管更新事業、簡易水道統合整備事業により、水道水の安定供給の確保に努めた。また、水道施設運転管理業務を包括的民間委託を行い、維持管理経費の削減を図った。今後も水道水の安定供給を確保するため、計画的な水道施設の維持管理・更新を行い、水道事業の経営基盤の強化に努める。</p> <p>下水道事業については、市下水道基本構想に基づき公共下水道事業、浄化槽設置整備事業、農業集落配水事業を計画的に推進し、御清水川幹線の長寿命化対策も実施した。家久処理区の整備後30年以上経過した管路施設を26年度に調査し、施設の適正な維持管理に努める。また地元説明会において水洗化助成制度のPRや下水道の重要性を説明することにより、水洗化の促進を図る。</p>	<p>第3節 4</p>	
	<p>快適な交通体系の整備として、市民バス(福祉バス含む)については、対前年度比3.4%増、福井鉄道福武線については、対前年度比5.8%増と、いずれも増加しており、今後も利便性の向上に向けた取組と、さらなる乗る運動を進めていきたい。</p> <p>北陸新幹線については、全ての地権者の同意に向けた取組と、地元要望についても、県が創設する事業推進のための補助金制度等を活用し対応したい。</p> <p>道路の整備については、8月に戸谷片屋線が全線開通した。また、戸谷片屋線の先線についても、25年度大きな障害物件の移転交渉が成立した。今後、戸谷片屋先線については、引き続き用地の取得に努め、27年秋の広域農道までの開通を目指す。また、道路付属物の点検、調査を実施して現状把握を行うとともに、橋長6m以上15m未満の橋梁についても点検、調査を実施した。今後の道路の維持管理にあたっては、計画的予防保全に努めるとともに、市民からの通報やパトロールによる危険箇所の迅速な対応に努める。</p> <p>雪に強い道づくりについては、幹線道路の消雪施設を市道路無雪化事業整備計画に基づき計画的整備を進めるとともに、除雪協力業者の除雪車両となる重機の購入もしくは更新に伴う補助制度を整備した。今後とも、事業効果の高い幹線道路、並びに一定の生活道路について消雪施設の整備を図るとともに、除雪体制の維持にあたっては、除雪機械の保有台数を確保し冬期間の通行確保を図っていく。</p>	<p>第4節 4</p>	
	<p>環境については、地球温暖化防止対策事業として、市所有の街路灯などのLED化事業に取り組んだほか、町内会所有の防犯灯について、25年度からLED防犯灯への交換及び新設に対して1基あたり5,000円の補助を始め、26年度からはリース方式によるLED化を推進することで、さらなるCO2の排出量削減を図る。また、ごみ減量化推進事業にとり、集団回収の取組を奨励し、雑がみや古衣類の集団回収についても出前講座で啓発するなど取組を強化しているところであり、26年度においては、家庭から出る粗大ごみのうち、金属類や電気製品の拠点回収所を設ける試みなど、新しい取組を展開するとともに、不法投棄物の監視パトロールを行い、不法投棄抑制に取り組んだ。</p>	<p>第5節 4</p>	

まちづくりの柱	成果・課題・今後の方向性	政策別		総合
<p>第4章 安全で安心な まちづくり 《総括》</p> <p>内部 評価</p>	<p>地域が支える防災体制の充実については、全町内において避難マニュアル・防災マップを作成することを目指し、115町内が完成し、現在は125町内が着手するなど、自主防災組織の強化に取り組んだ。また、災害時の応援協定を新たに3民間団体等と締結し、災害時の協力体制を強化した。</p> <p>危機管理体制の充実については、国の指針及び県の地域防災計画(原子力災害対策編)に沿って、市防災会議、専門部会、作業部会、策定準備会議を随時開催し、市地域防災計画(原子力災害対策編)等を25年12月末に策定した。その後、さらに、3月末に開催した市防災会議において、1月の国の防災基本計画の修正及び3月の県の地域防災計画(原子力災害対策編)の改定に伴う改定を行った。今後も、国の指針、県地域防災計画(原子力災害対策編)の改定を速やかに反映する。</p> <p>町内集会場への支援について、耐震化を含めた補助制度の見直しを検討し、補助制度の活用について周知する。</p>	第1節	4	4
	<p>治水対策については、市東部集中豪雨対策として、県・市の役割分担が決定し、それぞれの役割に応じて対策が進行した。ただし、岡本ダムの治水ダム化については、利水組合への支援が必要であり、このことについて関係部局と連携しながら対応策を検討する。</p>	第2節	4	
	<p>地域ぐるみの防犯対策の充実については、越前警察署や自治振興会、PTAなどと連携し、子どもの見守り活動を推進するとともに、通学路用防犯灯の新規整備やLEDへの更新など管理費や環境負荷の軽減を図り、防犯環境の整備に努めた。また、警察や防犯隊等関係団体と連携して、防犯パトロールの強化や広報活動など防犯対策の強化を図ったが、本年度においては、刑法犯認知件数が上昇し、依然として車上荒らしや振り込め詐欺、空き巣、自転車窃盗、万引きなどの事件が発生している。</p>	第3節	3	
	<p>消防・救急体制の充実については、自然災害や地域社会の変化による災害の複雑多様化、大規模化に対応し、市民の生命、身体及び財産を火災や地震等のあらゆる災害から守るため、消防車両や資機材等などの適切な更新整備を進めるとともに、地域防災力の要となる消防団員についても、全国的に団員の減少傾向にあるなか現数を維持しながら、各種教育訓練を積極的に実施し、消防力の充実・強化を図った。</p> <p>また、救急救命士の養成や救急隊・救助隊の各種訓練の実施、市民に対する普通救命講習会の開催など、救急・救急体制の充実に取り組むとともに、市内全域を対象に住宅用火災警報器の設置状況の調査を行い、未設置世帯への普及啓発に努めるなど、火災予防対策に取り組んだ。</p>	第4節	4	
	<p>災害対応については、9月16日に大雨特別警報が発令されるなど、大雨による水防活動などの災害対応のため、計4回警防本部を設置して、市の災害対策本部と連携を取りながら、職員延べ189人、消防団員68人が出動し、被害の防止・軽減に努めた。</p> <p>今後も、消防力及び救急・救急体制の充実・強化を図る一方、市民の防火意識の高揚をはじめとする火災予防対策を推進するとともに、地震、水害等の災害への対策を強化し、市民生活の安心と安全の確保に努める。</p> <p>暮らしの安全向上については、交通安全新3S運動(シルバー・スロー・シー)を軸に、越前警察署、交通指導員会等関係団体によるパトロールの強化や、交通安全チラシによる啓発、市政出前講座等による交通安全教室の開催などを行い、交通安全対策に積極的に取り組んだ。</p> <p>消費者行政については、複雑多様化する消費者相談に対応するため、相談員や消費者相談アドバイザーを増員したが、さらに安全で安心な消費者生活の実現を目指すため、消費者サポーターを啓発活動のメンバーとして養成する。</p> <p>斎場施設については、年次計画に基づく火葬設備の修繕を行い、道路・駐車場等の斎場施設の整備計画を策定する。</p> <p>公衆浴場については、市民の公衆浴場利用の機会の確保と経営の安定に努めた。</p>	第5節	3	

まちづくりの柱	成果・課題・今後の方向性	政策別		総合
<p>第5章 市民が主役の まちづくり 《総括》</p>	<p>内部評価</p> <p>市民自治の推進については、26年度から協働たねまる提案制度と政策推進課が担ってきた学生を対象とする補助制度を統合し、市民団体や学生が試行的に事業を実施できる支援制度と、継続した市民団体の育成支援制度に見直し、新たな協働事業に取り組む市民団体などを支援する総合的な補助事業として実施する。</p> <p>地域コミュニティ充実については、各地区自治振興会の事務会計システムにおいて、事務システムを活用した事務事業の評価と、地区間情報の共有化を図ることで、協働の推進と自治力の向上を図る。</p> <p>市民交流の推進については、本市の外国人市民が約3,000人を数えることから、市民課窓口にもポルトガル語と中国語に対応できる相談員各1人を配置して外国人市民を支援するとともに、市国際交流協会や地域と連携して「やさしい日本語」やインターネットを活用した外国人市民支援事業を積極的に展開する。</p> <p>七尾市や豊岡市への市民グループ訪問や、国府サミット開催時の七尾、高岡市民来越など、市民団体交流の幅が広がられた。今後も、民間レベルの交流（産業・歴史・文化・教育など）を促進するため、交流を働きかける。</p> <p>人権尊重と男女共同参画社会の実現については、人権問題は多岐の分野に関わることから、今後もあらゆる機会を捉え、地域や市民を巻き込み事業を行う。</p> <p>また、少子高齢化が進む中、男女共同参画社会の実現は、地域においては特に重要であることから、自治連合会や男女共同参画推進会議委員と連携し、女性が参画することの重要性を訴え、男女共同参画センターが行う講座や研修会で地域や女性自身の意識改革を進める。</p> <p>情報共有化の推進については、広報紙の充実として、広報紙の月1回発行、多くの市民が加入しているコミュニティチャンネル丹南CATV「越前市情報ナビ」やたんなんFM「ふれあい通信」の利用、市民便利帳を製作して電話帳に合冊して市内全世帯と事業所に配布し、市政情報や身近な地域情報の提供に努めた。また、分かりやすくタイムリーな情報をホームページやSNSなどで発信した。市政出前講座では、63メニューにより94回（26年2月末現在）実施した。</p> <p>また、広聴の充実として、地域ミーティングを全17地区で、団体ミーティング「夢まちづくりトーク」を9団体と実施し、市の計画等についてはパブリック・コメント制度を通して、市民の意見を聴取した。</p> <p>情報公開等として、公文書開示請求件数は25件であり、情報公開制度の適正な運用に努めた。情報通信基盤として、公衆無線LAN（フリースポット）の整備を新たに8箇所を進め、現在のアクセスポイントは、2年間で計29箇所となった。</p>	第1節	3	3
		第2節	4	
		第3節	3	
		第4節	3	
まちづくりの柱	成果・課題・今後の方向性	政策別		総合
<p>第6章 地方分権に 対応した 行財政運営 《総括》</p>	<p>内部評価</p> <p>《新》行財政構造改革プログラム（23年度～25年度）に基づいた改革を着実に実行し、持続可能な財政の健全化を図るとともに、26年度から28年度までの「市行財政構造改革プログラムⅢ」を策定した。</p> <p>職員数の削減については、大量退職が続く中で行政サービスへの影響が懸念されるため、将来的な人員構成を勘案した採用、異動、任用等の人事管理に努めるほか組織機構の見直しを図る。</p> <p>賦課業務においては、納税者に信頼感のある公正公平な賦課を実施するとともに、滞納には、法令手続きに基づく差押の拡充し、滞納処分の強化を図った。</p> <p>県丹南広域組合については、事業計画の見直しを行い、自治体クラウドの推進や広域観光など、今後の方針と施策を改定した。また、広域的な行政課題を解決するため、25年10月7日に県知事に対し重要要望書を提出した。</p> <p>電子自治体については、市職員採用試験申込み、学習センターの学ぼう座講座や地区公民館の自主講座、地区成人のつどい等で電子申請手続きの拡大を図るとともに、インターネット施設予約については、市社会福祉センター、白山公民館など5施設を新たに追加した。</p> <p>地理情報システムについては、市民公開型GISを導入し、26年2月より一般公開を開始した。また、市広報紙や丹南ケーブルテレビを通して、市民への周知を図るとともに、操作方法や利活用を促進するため、市政出前講座を実施した。</p>	第1節	3	3
		第2節	3	
		第3節	3	



平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第1章 元気な産業づくり

第1節 活力と創造性に満ちた工業の振興

		施策名	成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1)	既存産業・企業の自立化の促進と支援	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹南産業フェアについては、昨年の146社を上回る163社の出展があり、また来場者も65,500人(前年比8.3%増)と増加し、紙漉きや壁塗り等を体験する「ものづくり体験ランド」も好評であった。また、雇用促進イベント「わく・わくデー」も開催し、市内の企業PRが図れた。</li> <li>・越前ものがたり事業については、首都圏の大型展示会に19社が参加し、多くのパイヤーとの商談が行われ、販路拡大と企業の自立化の促進を図ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越前ものがたり事業については、参加事業者の固定化や参加事業者の業種が様々であること、また事業者が目指す販路先や商品開発のタイミングなど各事業者間で様々である。</li> <li>・展示会等出展支援事業補助金の利用件数が、昨年と比較して伸び悩み、周知不足であるとともに展示会の実態を把握し、検証していく必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越前ものがたり事業では、事業内容を見直し、マッチングの促進による商品開発と、新たな販路開拓を目指すための新たな取組みを行う。</li> <li>・越前モノづくりフェスタ2014では、市内の伝統的工芸品のさらなるPRや体験ランドの充実を図る。</li> <li>・展示会等出展支援事業補助金については、要件を緩和し、利用促進を図る。</li> </ul>	4
	(2)	創業の促進	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジ支援事業については、認定された商品が新たな越前ブランドとして立ち上げられ、展示会等への出展により全国へPRされ、販路拡大に繋がっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き支援企業へのフォローアップと、より高度な事業への発展を促していくため、商工会議所等の各支援機関と連携を図り、取り組んでいく必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援内容の部門を明確にするために、「新分野・新事業展開部門」及び「新商品開発部門」を設定し、アタック100での企業訪問による周知や商工会議所等の支援機関と連携して、新商品の研究開発や販売促進に支援していく。</li> </ul>	3
	(3)	企業立地の促進	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業立地促進補助金について、通常の設備投資に対する補助金指定を4社、24年度に拡充した「地球環境に貢献するモノづくり」補助金の指定を2社、合計6社の指定を行った。また、補助金の交付については、新規に2社行い、34人の新規雇用の創出などに寄与できた。</li> <li>・市が21・22年度に拡張した池ノ上工業団地において、用地を取得した企業が工場の増設を行う旨を発表した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的に海外進出が進む中、今後、企業立地促進補助金の交付条件の見直しを図る必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アタック100を実行する中で、さらに情報収集を行い、現状に合った支援制度を確立していく。</li> <li>・企業立地促進補助制度の在り方について、有識者の意見を踏まえながら検証していく。</li> </ul>	4
	(4)	産力強化のための支援体制の構築	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「えちぜんモノづくりNET」については、登録事業者が300社を超え、またマッチング事例も15事例を掲載するなど目標値を超え、当サイトを活用したマッチングの充実が図られた。</li> <li>・アタック100については、目標を大幅に上回り、多くの企業と情報交換が図られ、企業支援制度の周知が図られた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業支援制度を充実させるために有識者で構成する「産学官連携ネットワーク」での意見を参考にするとともに、関係支援機関と連携をさらに密にして対応していく必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国において各種経済政策が打ち出されている中で、市内企業に対してどういった行政の支援が必要かをアタック100を実行する中で、企業の意見を十分に収集し検討していく。</li> <li>・産業人材育成事業については、市内企業の人材育成の取組みの活性化を図るために要件を緩和する。</li> </ul>	3
	(5)	伝統産業の活性化	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25年12月に「越前筆筒」が、国の伝統的工芸品の指定を受けた。</li> <li>・越前打刃物については、積極的な海外への販路拡大や新規開業の取組みに対して支援を行った。</li> <li>・越前和紙については、海外に向けたPRを積極的に行う取組みに対して支援を行った。</li> <li>・伝統産業の振興策と伝統産業を活かしたまちづくりのための指針を定める工芸の里構想に着手した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工芸開放試験場のあり方や伝統産業の支援の方向性を明確にする必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統産業と産業観光の活性化を推進する上で、様々な振興施策を展開していくため、市工芸の里構想を策定し、伝統産業の振興策と伝統産業を生かしたまちづくりの方向性を決めていく。</li> </ul>	4
内部評価	政策名		成果・課題・今後の方向性	達成度
	第1節 活力と創造性に満ちた工業の振興	<p>日本経済が徐々に上向きつつある中で、市内大手企業の一部には堅調さが見られるが、中小・零細企業では円安による原材料の高騰などにより景気回復が遅れている。市では、引き続き積極的な企業訪問を行い、情報の収集・分析に努め、産学官の連携により市産業活性化プランに基づいた各支援施策を展開した。</p> <p>丹南産業フェアについては、昨年を上回る企業の出展があり、子どもたちの体験コーナーなども好評で昨年を上回る来場者があったので、さらなる内容の充実を図る。越前ものがたり事業では、首都圏の大型展示商談会での商談件数が昨年を上回り、販路拡大への大きな成果があったが、これまでの課題も整理し、新たな取組みを進めるとともに、展示会出展支援事業について要件を緩和して利用促進を図る。企業立地促進補助金については6社を指定するとともに、新たに2社に補助金を交付するなど雇用の拡大につながった。ビジネスマッチングサイト「えちぜんモノづくりNET」の登録企業が300社を超え、マッチング事例も増えたが、さらなる活用に取り組んでいく必要がある。</p> <p>伝統産業については、越前筆筒が伝統的工芸品に指定されたほか、打刃物や和紙の海外での販路開拓の積極的な取組みや、打刃物では2年ぶりの新規開業が生まれるなど、産地活性化の動きが強くなってきており、市としても積極的に支援を行った。</p> <p>今後も、アタック100などを通じて、企業との情報交換に努め、支援施策の実効性を高めていく。</p>		4

実践プログラム【数値目標】										
指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
内部評価	製造品出荷額等の県内比率 (%)	21.8 (H17)	25.0	21.4	23.5	21.7	24.3			
	企業立地促進補助制度認定事業所数(延べ数)(件)	10 (H18)	30	20	20	23	28			
	新事業チャレンジ支援制度認定事業所数(延べ数)(件)	5 (H18)	65	36	43	50	59			
実践プログラム【主な事業計画】										
事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)								
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
内部評価	地域産業育成事業	丹南産業フェア出展企業数	161	137	146	163				
	越前発新事業チャレンジ支援事業	新事業チャレンジ支援事業認定件数	12	7	7	9				
	アタック100	市内事業所の訪問件数	110	131	130	240				
	越前ものがたり事業	展示商談会の販路開拓件数	62	152	222	461				
	伝統産業施設運営事業	和紙の里3館の年間来場者数	25,121	33,000	84,562	79,544				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第1章 元気な産業づくり  
第2節 魅力ある商業の振興

施策名		成果・課題・対策								達成度
内部評価	(1) 小売商業者の活性化促進	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小売商業者の活性化促進としては、市内の商業者グループが地域資源を活用し消費拡大や地域商業の活性化を図る取組みを支援する「元気な商業者グループ支援事業補助金」の申請が5件あり、市内全域への広がりが見え始めてきた。中心市街地で事業を始める事業者の家賃、設備、光熱水費等を3年間支援する「まちなか事業・地域助け合いビジネス支援事業補助金」の認定は4件で前年度と比べ3件減少した。中心市街地の店舗の内外装の改装を支援する「おもてなしの店推進事業補助金」の申請は3件で増加傾向にあり、既存店の魅力向上に寄与した。これらの施策により、地域の活性化及び商業の振興に結びついた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「元気な商業者グループ支援事業補助金」の申請件数が少なく、市内全域への周知が必要。</li> <li>「まちなか事業・地域助け合いビジネス支援事業補助金」の認定件数が前年度と比べ3件減少した。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「元気な商業者グループ支援事業補助金」の制度周知を図るために、過去の取組み事例を紹介するなど、分かりやすい周知に努めるとともに、商業者の意見を参考に支援の内容を検討する。</li> <li>まちなか開業予定者の情報を収集し、また開業後、営業が安定持続できるようフォローアップするため、市まちづくりセンター、武生商工会議所との連携をさらに推進する。</li> </ul>								3
	(2) 経営基盤の強化	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業振興資金や小規模事業者育成資金の利用が増加した。</li> <li>商工会議所や商工会によるマル経融資（経営改善貸付）の利用が増加した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>24年度に創設した円高緊急対策等小規模事業者特別資金融資制度（25年9月に小規模企業者支援特別資金に名称変更）の利用が対前年比で減少したが、今後の国の経済対策や景気動向を注視していく必要がある。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業緊急経営安定対策利子補給金等交付事業については、国がセーフティネット保証の特例を廃止することを受け、市においても事業を廃止する。これに伴い、その他の制度融資の利用が増加することが予想されるため、預託金を増額し対応する。</li> </ul>								4
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性								達成度
	第2節 魅力ある商業の振興	<p>商業の振興としては、「元気な商業者グループ支援事業補助金」に25年度は5件の申請があり、前年度比2件増加したが、より商業の活性化につながるようするため、今後も補助制度の周知を図る。</p> <p>「まちなか事業・地域助け合いビジネス支援事業補助金」の認定件数が前年度比3件減少した。まちなかの開業予定者の情報を収集し、また開業後、営業が安定持続できるようフォローアップするため、市まちづくりセンター、武生商工会議所との連携をさらに推進する。</p> <p>中小企業融資事業については、100%保証を利用した市の制度融資である小規模企業者支援特別資金が、昨年度より利用が減少したが、小規模事業者の資金調達の円滑化を図ることができた。</p> <p>今後についても、国の経済対策や景気動向を注視する中で、融資枠の拡大を図り、継続的な支援を行っていく。</p>								3
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値	目標値	達成状況（年度末見込み）						
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
元気な商業者グループ支援事業決定団体数（延べ数）（団体）	9 (H22)	39	9	15	18	23				
まちなか開業・地域助け合いビジネス支援事業新規認定件数（延べ数）（件）	7 (H18)	55	28	35	42	46				
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況（年度末見込み）							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
	中心市街地活性化事業	まちなか開業新規認定件数		7	7	7	4			
小規模事業経営支援促進事業	会員数（商工会議所＋商工会）		2,629	2,585	2,576	2,594				
中小企業融資事業	融資件数		12	15	170	126				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第1章 元気な産業づくり

第3節 出会いと感動のある観光の振興

	施策名	成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) 観光資源の開発	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市の観光業務を総合的に担う組織として、25年5月に越前市観光協会が設立され、より迅速な情報発信、対応が可能となった。25年度は、越前市のお土産の企画開発に取り組み、土産品の開発提案及び土産用包装紙の制作を実施した。</li> <li>食のブランド化としては、地元グルメのPRに取り組む民間団体の活動を支援した。ボルガライスのPRとしては、ボルガラー協会がオムライスを通じた全国オム・グルメサミットへ参加し、北海道富良野市(オムカレー)、石川県宝達志水町(オムライス)との三国同盟を締結した。越前おろしそばのPRとしては、武生麺類業生活衛生組合が本市がおろしそばの発祥の地であるポスターを制作した。これらのPR活動を通じ、本市が発祥であるご当地グルメによる誘客に結びついた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内に多く存在する資源を観光資源に磨き上げる必要がある。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民や民間事業者との協働、市観光協会との連携により、本市の観光資源開発、情報発信を積極的に行うこととし、具体的には、越前和紙、越前打刃物に加え、新たに国の伝統的工芸品に指定された越前箆笥を活用し、産業観光への取組み、本市ゆかりの絵本作家かこさとし氏のふるさと絵本館やいわさきちひろ氏の生まれた家を活用した観光客誘客に取り組む。</li> </ul>	3
	(2) 越前市の魅力発信	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市観光協会の設立により、市内の観光情報が市観光協会に集約されるようになり、多くの最新情報をタイムリーに発信できるようになった。</li> <li>市観光協会のホームページを通じ多くの情報発信を行い、ツイッター、フェイスブックといった新しいツールを活用し、積極的に情報発信を行った。</li> <li>市観光協会と市が連携して出向宣伝を行い、年間を通して各方面でのPR活動を実施した。</li> <li>万葉まつりや花筐さくら・もみじまつりなど、これまで支援していなかった地元開催イベントに対し、ポスター印刷費など広報経費に対し支援するとともに、より効果的な広報となるよう市観光協会が指導、助言した。</li> <li>東京都港区民祭りにおいて、本市のグリーンツーリズムの取組み紹介や農産物などの販売を行いPRした。</li> <li>ふるさと大使によるイメージアップ事業については、市のPR用に名刺サイズのパンフレットを作成し、配布依頼を行った。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近く予定されている北陸新幹線金沢開業、舞鶴若狭自動車道全線開通など、本市を取巻く交通体系の変化に伴う誘客拡大への取組み。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、激しさが増すと予想される地域間の誘客競争に対応するため、市観光協会の体制強化を図る。</li> <li>効果的な出向宣伝、観光PRの企画、実施を行う。</li> </ul>	4
	(3) 受入れ態勢の整備	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市観光協会の設立により、観光客が求める最新情報を素早く提供できるようになった。</li> <li>市の学生合宿助成制度の利用が増加し、本市を訪れた学生数が前年比約6.5%(105人)増加した。</li> <li>まちなか観光客のためのまちなか駐車場を舗装し利便性が向上したため、利用台数が前年度比約30%(1,300台)増加した。</li> <li>市観光協会の語り部のネットワーク化、各地区の観光ボランティアガイド登録制度の創設により、観光客の様々な要望に応えられる態勢が整備された。また、万葉菊花園では「味真野を歩こう、学ぼう、語ろう講座」を全12回開催し、毎回平均約10人が受講し、ボランティアガイドの育成に努めた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生合宿で訪れた学生たちが将来、観光客として再び訪れてもらうような仕組みが必要である。</li> <li>観光客の観光ボランティアガイド利用数が減少しており、増加する取組みが必要である。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生合宿の際、学生が本市の観光地を訪れる取組みに対する支援(26年度、県が助成制度新設)を強化する。</li> <li>観光ボランティアガイドについて、観光業者へ観光パンフレットを送付する際、あわせて周知する。</li> </ul>	4
	(4) 観光イベントの充実	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地では、まちなか賑わい市、昭和の花嫁行列、たけふきものがたりなど、市民イベントが継続して実施された。また、25年度は初めて「表参道朝市」が開催され、新たなまちなか賑わい創出により交流人口が増加した。</li> <li>市内各地で実施されているゴールデンウィークのイベントを周遊できる無料バスを運行し、スタンプラリーを実施した。</li> <li>2013たけふ菊人形では、市民団体が企画した「女子博」、「菊deナイトフィーバー」などのイベントが会場内で開催され、新たな客層の開拓に繋がった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まちなか観光客及びたけふ菊人形入場者数が減少傾向にあり、取組みを強化する必要がある。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市観光協会がイベント主催者や市民、行政との連絡調整役を担うことで、民間団体、地域間の連携強化の推進を図る。また、観光協会が中心となって各イベントの情報発信を行う。</li> <li>2013たけふ菊人形で初めて取り組まれた市民主催の会場内でのイベントを継続的に実施してもらうとともに、新たなイベントを誘致するため、各種団体との連携強化を図る。</li> <li>たけふ菊人形の来場者をまちなかへ誘導する仕組みづくり(スタンプラリーの開催など)を行う。</li> </ul>	3

内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性	達成度
	第3節 出会いと感動のある観光の振興	<p>本市の観光業務を総合的に担う組織として、25年5月に越前市観光協会が設立され、より迅速な情報発信、対応が可能となった。また、市観光協会が観光情報発信の中心を担うことにより、市内の情報が集約され、観光客が求める新鮮な情報が容易に入手できるようになった。今後は、市観光協会の安定経営に向け、自己財源を確保するための新たな取組みを行う必要がある。</p> <p>越前市の一大観光イベント「たけふ菊人形」は、25年度に市民団体の菊人形会場を活用したイベント実施により、若者など新たな客層の獲得に成果を上げることができた。しかし、菊人形全体の入場者数が減少傾向にあることから、これら市民団体との連携を強化し、市民参加型イベントへの取組みを行い、まち全体の雰囲気が盛り上がるよう趣向を凝らす。</p> <p>まちなかへの観光客の誘致について、おもてなし態勢を強化するため、観光ボランティアガイドのネットワーク化に取り組み、観光客からの幅広い要望に対応できる体制づくりに着手した。今後、越前市のおもてなしメニューについてさらなる情報発信を行い、観光業者や観光客に周知を図っていく。</p> <p>越前市三大グルメは、民間団体の活発な活動によって、越前市の名物として定着してきている。今後、おろしそばやボルガライス発祥の地としてさらなるブランド化を目指す活動に対し、継続的に支援していく。</p> <p>今後、北陸新幹線の金沢駅開業や舞鶴若狭自動車道の全線開通、中部縦貫自動車道の開通など、本市をとりまく交通体系が大きく変化するため、観光協会、市民、イベント実施団体との連携を強化し、新たな観光客誘致や市民のおもてなしの心の醸成などに取り組み、観光振興を図る。</p>	3

内部評価	実践プログラム【数値目標】								
	指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)					
				H22	H23	H24	H25	H26	H27
観光客入込数 (人)	815,000 (H17)	1,100,000	1,016,000	1,060,000	966,000	995,000			
たけふ菊人形の入場者数 (人)	98,502 (H22)	120,000	98,867	110,078	88,994	87,527			
語り部の活動回数 (回)	58 (H17)	180	270	81	99	55			

内部評価	実践プログラム【主な事業計画】								
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)						
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
観光客増加促進事業	観光バスによる誘客数		284,265	268,466	229,160	201,860			
サマーフェスティバル支援事業	来客者数		112,000	113,500	92,800	119,500			
イメージアップ推進事業	ふるさと納税寄付件数		36	48	58	65			

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第1章 元気な産業づくり

第4節 地域資源を生かした農業の振興

施策名		成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) からだとところを育む食の実現	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA越前たけふと地産地消推進の店が連携し「紅しきぶトマトフェア」「秋キュウリフェア」に新たに取り組み、本市の特産品のPR、推進の店のPR及び地産地消の推進を図った。</li> <li>・子どもを対象に、学校では学べない農業の大切さや食育の推進を図るため、市内8地区で農業体験や加工体験を実施した。(25・26年度事業)</li> <li>・25年度の食育フェアは、台風の影響で1日の開催となったが、約2000人の参加があり、食育や食と農のつながりを周知することができた。</li> <li>・24年度から取り組んでいるコウノトリが舞う里づくり連続講座の「ごはん塾」を25年度は7地区(24年度は3地区)で実施し、ごはん食の大切さを伝えることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育及び地産地消の推進は、消費者への理解促進と市内農産物の生産拡大を図る必要がある。</li> <li>・学校給食への県内食材使用率が、天候不順により供給量が落ちこんだことから低下した。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育フェアの開催時期を見直し、秋の収穫時期にあわせて開催することにより、生産農家の育成を図るとともに、消費者に対し地元農産物利用について関心を持ってもらう。</li> <li>・学校給食への地場産食材使用率を高めるために、園芸農家の育成を図り、作物の多様化と面積の拡大を図る。</li> </ul>	4
	(2) 多様な農業の実現	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに1名の就農者が誕生した。</li> <li>・24年は該当者がなかった「農の匠」については、スイカ農家を1名認定した。これにより、本市の最大の特産である、しらやま西瓜のブランドの維持拡大が期待される。</li> <li>・トマト、キュウリの選果機を更新したことにより、効率化と農家の作付意欲の増進を図る体制が整った。</li> <li>・24年度、25年度の2年間で、市内150集落において人・農地プランを作成した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の高齢化やT P Pの交渉結果によって、地域農業の維持が難しくなることが考えられる。</li> <li>・25年度は1つの集落営農組織しか新たに設立されなかったことから、一層の組織化の推進が必要である。</li> <li>・園芸農家の高齢化が進んでいる。</li> <li>・JA越前たけふが26年度より日本晴の作付を推進拡大するとの方針により、特別栽培米の作付面積の拡大が困難となることが予想される。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人・農地プランの見直しや、国が新たに創設する「農地中間管理機構」を活用し、地域農業の維持を図る。</li> <li>・園芸農家の育成のため、JAや県との連携を一層図るとともに、市の支援策の活用を推進する。</li> <li>・特栽培米の作付については、平坦地で行っている農家については現状の維持を、中山間地域(白山・坂口)ではコシヒカリの全特栽培米化を、JAと連携し推進する。</li> </ul>	3
	(3) 農を基盤とした自然環境と地域社会の実現	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農地・水管理支払交付金については、施設の長寿命化を目的とした向上活動支援組織が2組織増加し69組織となった。</li> <li>・鳥獣被害対策として、檻によるイノシシ捕獲に加え、試験的にカラス檻を設置したところ400羽以上を捕獲できたことから、今後も引き続き設置することにより年間を通した効果を検証することとした。</li> <li>・生産基盤の整備については、県営土地改良事業が事業拡充により、3地区で25年度に完了予定となっており、施設の改修が図られた。また、国補助の農業基盤整備促進事業を活用した事で、老朽化した排水の施設改修が進んだ。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国が新たに日本型直接支払制度を創設したことから、これまで取り組んできた組織に対し、制度改正に伴う不安を解消する必要がある。</li> <li>・獣害対策として、電気柵、ワイヤーメッシュ設置等の支援や、集落に赴き防除指導や捕獲対策の強化を行っているが、農作物被害は拡大傾向にある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな日本型直接支払制度への移行や、26年度で中山間地域直接支払の第3期(5年間/期)が終了することから、第4期への移行がスムーズに行えるよう指導推進する。</li> <li>・鳥獣害による農作物被害を抑えるために、鳥獣害対策班を2人体制から4人体制とし、休日を含め迅速に対応する。</li> </ul>	3
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性	達成度
	第4節 地域資源を生かした農業の振興	<p>市食と農の創造ビジョンに基づき、食育・地産地消の推進、環境調和型農業の推進、園芸振興、獣害対策を含め生産基盤の整備・維持管理、さらには人・農地プランの作成等に重点に取り組んだ。新たに取り組んだ「紅しきぶトマトフェア」「秋キュウリフェア」により地元特産物のPRを図ることができた。</p> <p>選果機を更新したことによる特産化の確立や、多様な園芸農家の育成を図り学校給食への地場産食材使用率の向上を図る。</p> <p>環境調和型農業の取組面積が過去最高となったが、JA越前たけふは実需者からの要望が高い品種である日本晴の作付を平坦地で推進することとしたことから、高品質の米の生産が期待できる西部地域で、これまで以上にJAと連携し環境調和型農業の推進を継続する。</p> <p>鳥獣害対策については、積極的に被害防止対策を講じているにもかかわらず、市街地にも被害が拡大していることから、集落と一体となった防護対策に取り組む。</p> <p>生産基盤の整備・維持管理については、国が新たに創設した日本型直接支払制度を積極的に活用するよう集落に周知・指導する。</p> <p>人・農地プランについては、農地中間管理機構が創設されることに伴い、随時、プランを見直すことにより農地の集積を図る。</p>	3

実践プログラム【数値目標】										
指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
内部評価	学校給食における地場産(県内)食材使用率(%)	30.1 (H17)	47.0	39.3	33.9	44.1	39.3			
	担い手経営体(認定農業者・集落営農等)数(経営体)	120 (H18)	180	146	154	157	158			
	環境調和型農業(県認証特別栽培)に取り組む農地面積(ha)	水稲 50 野菜 1.7 (H18)	水稲 1,000 野菜 4.0	水稲 334.4 野菜 3.4	水稲 431 野菜 2.6	水稲 504 野菜 3.0	水稲 540 野菜 3.0			
実践プログラム【主な事業計画】										
事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)								
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
内部評価	新規就農者支援事業	新規就農対象者との相談・指導回数/年	5	11	11	11				
	水田農業構造改革推進事業	大麦・大豆・そばの作付面積(周年作含まない)	492	508	789	523				
	農業者戸別所得補償制度	国の畑作物の所得補償交付金の交付経営体数	—	111	115	127				
	農地・水管理支払交付金事業	農振農用地における協定率協定面積(農振農用地)÷農振農用地面積×100	72.4	73.7	74.0	74.0				
	環境保全型農業推進事業	環境調和型農業に取組農業者の数	200	253	330	321				
	中山間地域直接支払事業	集落協定による保全農地面積	179	182	184	184				
	農用地利用集積事業	担い手(認定農業者及び集落組織)の農地集積面積の割合	35.0	37.0	37.4	43.0				
	地域ぐるみ体験交流支援事業	農業体験受入れ農家数(農家民宿を含む)	99	99	105	106				
	農作物鳥獣害防止対策推進事業	獣害被害面積(県農業共済組合共済引受面積より)	35.7	16.1	20.6	38.2				
	国営造成施設管理体制整備促進事業	維持管理体制確立土地改良区割合(維持管理体制確立土地改良区数/事業に取り組んでいる土地改良区数)	100.0	100.0	100.0	100.0				
土地改良負担金事業	負担金支出先件数	6	6	6	5					
市営土地改良事業	受益農用地面積割合(受益農用地面積/全農用地面積)×100(%)	1.30	1.10	2.90	1.54					

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第1章 元気な産業づくり  
第5節 みどり輝く森林づくり

内部評価	施策名	成果・課題・対策							達成度
	(1) 健全な森林の整備	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住民（7団体）との協働による林道管理が継続的に行われた。</li> <li>林道補修用資材の支給により、地元と協働した林道の維持管理に努めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>維持管理については、不在林家の増加により年々困難になってきている。</li> <li>自然災害や獣害により林道の損傷が拡大し維持管理にコストがかかる。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林の多面的機能を発揮する必要性から、引き続き森林組合による森林施業の推進に努める。</li> <li>森林整備地域活動支援事業については、施業集約化の促進及び施業集約化に向けた条件整備の促進を図る。</li> <li>工法検討による林道工事のコスト縮減や、地域との協働による管理体制の継続に努める。</li> </ul>	3						
(2) 森林資源の活用	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>潤いのある緑豊かな森林学習、体験ができる環境を確保し、市民の自然に対する理解を深めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金華山グリーンランド、八ツ杉森林学習センターの利用者拡大を図るため、各指定管理者の指導及び密な連携を取る必要がある。</li> <li>里楽のボランティア数が横ばい状態であるため、参加者の増加を図るPRが必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金華山グリーンランド、八ツ杉森林学習センターの整備改修を進め、施設利用者が快適かつ安心して利用できるように、適切な整備に努める。</li> <li>里楽の広報活動を強化し、ボランティア参加者の増加に努める。</li> </ul>	3							
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性							達成度
	第5節 みどり輝く森林づくり	<p>森林のもつ多面的機能を発揮させるため、林道・作業道を整備し森林の施業の向上を図り、住民との協働による林道維持管理に努めた。また、健康・レクリエーションの場として、八ツ杉森林学習センターや金華山グリーンランドの利用促進に努めた。</p> <p>今後も、緑豊かで健全な森林の整備、市民と連携した環境学習活動や地元産材の有効活用を図りながら、森林資源を活用するための取組みを進める。</p>							3
内部評価	実践プログラム【数値目標】								
	指標名	基準値	目標値	達成状況（年度末見込み）					
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27
林道の総延長距離 (km)	143.4 (H18.4)	148.8	146.7	147.0	147.3	147.4			
間伐立木材積 (累積) (m <sup>3</sup> )	7,300 (H18.4)	120,000	66,900	72,700	77,700	82,700			
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】								
	事業名	指標名	達成状況（年度末見込み）						
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	森林整備地域活動支援事業	協定締結面積	3,524	3,242	2,116	—	(事業終了)		
	民有林造林支援事業	森林整備率 (保育面積/森林面積(人工林))	1.01	1.60	1.40	1.90			
	民有林林道開設事業	林道密度 m/ha (林道延長/森林面積)	10.4	10.4	10.4	10.4			
林道整備事業	林道舗装率 [舗装延長÷林道延長]	1.53	10.05	10.27	10.27				
県営林道事業	越前南部線の整備進捗率 (越前市区間)	95.46	98.38	100.00	100.00				



平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第1章 元気な産業づくり  
第6節 いきいきと働きやすい環境の充実

内部評価	施策名		成果・課題・対策							達成度
		(1) いきいきと働きやすい環境の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー人材センターが実施する企画提案事業に対して積極的に支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の推進を図った。</li> <li>・生活安定資金の利用が多かった。</li> <li>・商工会議所や商工会、市などで構成する「えちぜんインターンシップ協議会」を立ち上げ、25年6月に19社を掲載する受入れ企業情報冊子を発行し、学校等に配布し周知を図るとともに、市内企業のインターンシップ受入れの促進を図った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤労青少年ホームにおいて、若年者が興味のある講座を企画し、実施できる環境を整えることが必要である。</li> <li>・各労働者福利厚生施設については、利用の状況に差がある。</li> <li>・生活安定資金については、消費税増税によるマイカー購入等の影響が見込まれるため、一層の周知を図る必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤労青少年ホームについては、若者向けの講座の充実を図ることで、若者の利用を促進しながら、引き続き就労支援の充実を図る。</li> <li>・労働者福利厚生施設については、現状とニーズとの差を把握し、今後の施設のあり方を検討していく。</li> </ul>							
内部評価	政策名		成果・課題・今後の方向性							達成度
		第6節 いきいきと働きやすい環境の充実	<p>高齢者の生きがいの充実、社会参加の推進を図るため、シルバー人材センターへの支援を行い、就業の機会の確保に努めた。また、労働者の福利厚生施設の運営など働きやすい環境の充実に努めた。</p> <p>勤労青少年ホームについては、若者の交流の機会の提供だけでなく、就労関係機関との連携によるニートや若年者層の就労支援のための相談や若者向けの講座の充実を図った。</p> <p>商工会議所や商工会、市などで構成する「えちぜんインターンシップ協議会」を立ち上げ、受入れ企業情報冊子を発行し、学校等に配布し周知を図るとともに、市内企業のインターンシップ受入れの促進を図った。</p>							
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値	達成状況 (年度末見込み)							
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	市内高校新卒者の就職内定率(武生工業高校・武生商業高校等)(%)	100(H21)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
勤労者福利厚生施設年間利用者数(人)	60,919(H17)	63,000	61,777	68,977	60,380	63,342				
すくすくすまいる事業所登録数(件)	0(H18)	100	61	71	81	90				
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
	シルバー人材センター支援事業	就業率		89.0	90.7	92.3	90.0			
	勤労青少年ホーム管理運営事業	勤労青少年ホーム新規若年者の利用者数	85	155	151	120				
	勤労青少年ホーム管理運営事業	就労相談の件数	-	13	47	34				
労働者融資事業	融資件数(生活安定資金)	-	209	216	220					
労働者福祉施設運営事業	労働者福利厚生施設利用者数	61,777	68,977	60,380	63,342					

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第2章 元気な人づくり

第1節 子どもの笑顔が輝く環境づくり

	施策名	成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) 子どもの人権が保障される社会づくり	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市子ども条例や～コウノトリが運ぶ～市子ども子育て支援計画に基づいて実施している「次世代を育む施策」について、民生委員・児童委員、保護者、福祉施設関係者が集まる集会等において説明を重ね、市民の理解を深めた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、保育園等におけるいじめや事故等の未然防止を図る必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各小中学校で策定した「学校いじめ防止基本方針」に沿った対応やQ U（学校診断尺度調査）を継続実施する。</li> </ul>	4
	(2) 仕事と生活の調和を実現する社会づくり	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市幼保一体化推進計画に基づき、25年4月に粟田部地区で市初めての認定こども園が開園し、働き方の多様化に伴うニーズに対応し、子どもへの安定的な保育教育の提供が行われている。</li> <li>・事業所に対し、ワークライフバランスへの取組みなどの働きかけを継続し、市内中小企業に育児休業制度が定着してきた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児休業取得後の子育て環境に配慮した企業風土づくり</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すくすくすまいる事業所登録を推進するとともに、子育て環境に配慮した事業所の表彰制度を設ける。</li> <li>・子育てに「男女ともに責任を持つ、関わる」という意識付けの取組みを強化する。</li> </ul>	4
	(3) 子どもの健やかな成長を育む教育・生活環境づくり	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の子どもの安全で安心な居場所の確保を目的とした市児童館整備計画に基づき、神山地区に市内14館目となる児童館を整備した。また、夏休み期間中の児童館開館時間の繰り上げ（9時開館）により、子どもの居場所を充実した。</li> <li>・子育てに係る保護者の負担を軽減し、安心して子育てが出来るよう、多子世帯への保育料軽減を拡充した。</li> <li>・地域や家庭での養育力を高める取組みとして、市内全17地区において親子を対象とした地区組織活動を実施できた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学4年生以上の児童の居場所づくりが求められている。</li> <li>・児童館未整備地区の解消が必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学童保育の対象を毎年1学年ずつ引き上げる。</li> <li>・北新庄、白山地区に児童館等を整備する。</li> </ul>	4
	(4) 支援を必要とする子どもとその家庭への自立援助体制づくり	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉健康センターに「子ども・子育て総合相談窓口」を開設し、福祉、保健、教育の関係機関の連携強化により必要な支援を行い、相談件数も大きく増加した。また、児童発達支援センター「なないろ」を同時開設することで発達に気かりな子どもへの迅速な支援に繋がった。</li> <li>・ひとり親家庭の自立に向けた取組みを計画的に進めるため、市ひとり親家庭自立支援計画を改定した。</li> <li>・保育園に増加している障がい児や発達に気かりな子ども、食物アレルギーの子ども等に対応するための職員研修や保育カウンセラーによる訪問指導などを充実した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における子育て相談の充実・強化が求められている。</li> <li>・保幼小の一貫した支援体制づくりが大切である。</li> <li>・増加するひとり親家庭の支援として、保育環境の整備が必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園、児童館等における地域子育て相談の充実・強化を図り、家庭で子育てしている親等のニーズに対応する。</li> <li>・保育カウンセラーを幼稚園へ派遣するなど、気かりな子どもと保護者の支援を強化する。</li> <li>・未婚のひとり親家庭の保育料算定に「みなし寡婦控除」を適用し、経済的負担の軽減を図る。</li> </ul>	4
	(5) 親子と心と体の健やかな成長を支援する体制づくり	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに係る保護者の負担を軽減し、安心して医療を受けられるよう、子ども医療費助成の拡充を行った。</li> <li>・親子の愛着関係形成を目的とし、ブックスタート事業を開始した。</li> <li>・妊娠から青少年期まで健康管理ができるけんこうパスポートとなる親子健康手帳を、妊娠届出時と小学校に就学する児に配布し、健康な生活習慣の継続を図った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの頃からの健康な生活習慣づくりが重要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5ヶ月児セミナーや乳幼児健診の段階から健康な生活習慣の重要性について啓発し、子どもの頃からの健康づくりに取り組む。</li> </ul>	4

内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性								達成度	
	第1節 子どもの笑顔が輝く環境づくり	<p>市子ども条例及び～コウノトリが運ぶ～市子ども子育て支援計画に基づき、子ども・子育て総合相談窓口の開設やブックスタート事業の開始等「次世代を育む施策」を充実した。また、多子世帯の保育料軽減や子ども医療費助成など子育て家庭への助成制度を拡充し、子育てしやすい環境を充実した。</p> <p>さらに、児童の放課後における健全育成については、児童館未整備地区に児童館を整備するとともに、全児童館で開館時間を繰上げる等により児童の安全安心な居場所の拡充を行った。</p> <p>幼保一体化については、初めての民間認定こども園が栗田部地区で開設し順調に運営を行っている。26年度からは岡本地区で幼保合同活動を開始する。</p> <p>今後は、27年度の子ども・子育て支援新制度施行に向け、市子ども・子育て会議の意見をいただきながら、市子ども・子育て支援事業計画の策定などを行い、子どもと親への支援を充実していく。</p>									4
内部評価	平成25年度 実践プログラム【数値目標】										
	指標名	基準値	目標値							達成状況 (年度末見込み)	
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
	児童館の整備数(箇所)	11 (H18.4)	17	13	13	13	14				
	児童館利用者数(人)	87,102 (H18)	90,000	98,004	89,956	90,000	95,000				
すくすくすまいる事業所登録数(再掲)(件)	0 (H18)	100	61	71	81	90					
幼保合同活動施設数(幼保一体化)(箇所)	0 (H18)	12	2	2	3	4					
内部評価	平成25年度 実践プログラム【主な事業計画】										
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)								
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
	保育園施設整備事業(民間保育園)	民間保育園整備数	0	1	1	1					
	子育て一時支援事業	一時保育実施施設数	29	29	30	30					
子育て支援体制推進事業	地域子育て支援センター数	3	3	3	3						
放課後児童クラブ事業	学童クラブ数	26	27	26	27						

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第2章 元気な人づくり  
第2節 安心して暮らせる長寿社会の実現

施策名		成果・課題・対策								達成度
内部評価	(1) 健康と生きがいがづくり	<p><b>【成果】</b> ・24年度から、いきいきシニアクラブ連合会に生きがいがづくり推進員を配置するなど、高齢者の健康づくりや生きがいがづくりに資する自主的な活動の場づくりなどを支援したことで、いきいきシニアクラブの活動参加者数が増加した。また、いきいきふれあいのつどいの開催箇所が増えた。 ・全高齢者を対象に行う高齢者元気度調査に併せ「定年齢認知症検診」を実施したことにより、軽度認知症の高齢者や二次予防事業対象者が多く把握され、認知症の早期発見、早期治療や介護予防事業の参加者増につなげることができた。</p> <p><b>【課題】</b> ・介護予防事業に男性の参加が少ない。また、いきいきシニアクラブの会員加入率が、対象年齢人口に対して伸びていない。</p> <p><b>【対策】</b> ・生きがいがづくり推進員の配置を継続するなど、いきいきシニアクラブへの支援を充実し、若年層が参加しやすいクラブ育成に取り組むとともに、いきいきふれあいのつどいのリーダー育成研修の充実を図る。 ・介護予防事業に男性高齢者が参加しやすいメニューを設ける。</p>								4
	(2) 高齢者福祉の充実	<p><b>【成果】</b> ・介護保険の適正運営については、要介護認定調査の適正化や、ケアプランチェックなどの給付適正化事業の推進により、適切なサービスの利用へ繋ぐことができた。また、地域医療と在宅ケアの連携を推進するための顔の見える多職種連携会議や地域ケア会議を開催することにより、地域包括ケアシステム構築に向けた連携の足掛かりができた。</p> <p><b>【課題】</b> ・介護保険サービス給付費の増大により、介護保険財政が一層厳しくなっている。 ・地域包括ケアシステムの構築に必要な地域医療と介護の連携については、多職種間での連携や情報共有が不足しており、予防や生活支援サービスを含めた総合的な支援体制の仕組みづくりが必要となっている。</p> <p><b>【対策】</b> ・25年度から始めた介護予防・日常生活支援総合事業を更に推進し介護予防事業の推進を図る。 ・多職種協働による地域ケア会議を継続的に実施することにより、地域の課題発見や課題解決、支援体制のネットワーク構築につなげる。</p>								3
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性								達成度
	第2節 安心して暮らせる長寿社会の実現	<p>介護予防については、高齢者元気度調査に併せて定年齢認知症検診を実施したことにより、二次予防事業対象者、また認知症を疑う高齢者が数多く把握され、介護予防の充実や認知症の早期発見が図られた。</p> <p>地域包括ケアシステム推進については、高齢者の見守りについて、町内福祉連絡会の開催や高齢者を訪問する機会の多い事業者との協定締結など、多面的な見守りネットワークづくりが推進され、また、地域医療、在宅ケア関係者の顔の見える多職種連携会議や、地域ケア会議を開催することで関係者の連携が進んだ。</p> <p>26年度に策定する第6期市高齢者福祉保健計画・介護保険計画に、医療と介護の連携を明確に位置づけ、地域包括ケアシステムの確立を目指すとともに、介護予防事業の一層の推進を図る。</p>								3
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値	達成状況 (年度末見込み)							
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	要介護等認定者出現率 (%)	16.5 (H18.4)	16.0	16.8	17.7	17.9	17.8			
	要介護高齢者の在宅生活率 (%)	76.57 (H18.10)	80.00	78.69	79.40	78.76	79.41			
いきいきシニアクラブ活動参加者数 (人)	4,181 (H21.4)	5,700	4,529	5,568	6,177	6,493				
いきいきふれあいつどい箇所 (箇所)	139 (H18.4)	180	165	167	172	175				
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
	老人クラブ活動支援事業	いきいきシニアクラブ新規加入者数	—	76	80	90				
	地域密着型介護施設整備事業	施設整備数	4	1	1	1				
介護保険計画事業	介護保険事業計画の年度別給付見込額に対する給付実績額の割合	—	98.6	97.4	98.6					
介護予防事業	いきいきふれあいのつどい登録者数	—	4,643	5,050	5,257					

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第2章 元気な人づくり

第3節 障がい者が安心して暮らせるまちづくり

施策名		成果・課題・対策								達成度
内部評価	(1) 障がい者が安心して暮らせるまちづくり	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がいのある人の相談支援体制を、福祉サービス事業所等と連携し充実を図った結果、相談件数が増加した。</li> <li>県障がい者スポーツ指導者協会の協力を得て、障がいのある人がスポーツに気軽に参加できるよう、ニュースポーツ講習会を開催し、仲間同士の交流と社会参加を促進することができた。</li> <li>障がい者就労支援施設等からの物品等の調達方針を策定して、優先調達の目標額を定め、市のセルフ製品の受注促進を図ることで、障がい者の就労による自立を支援することができた。</li> <li>年2回の特別支援学校の製作品販売会やイベント会場での障がい者就労紹介コーナー等で、障がい者に対する地域住民の理解が深まるよう支援を行った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>26年度内に障がい福祉サービスを利用する障がい者のサービス等利用計画を全て作成する必要がある。</li> <li>30年に福井で開催される全国障害者スポーツ大会に向けて、障がいのある市民が積極的に参加できるよう支援体制を整える必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉サービス事業所と連携し相談支援体制の充実を図る。</li> <li>26年度に市障がい者計画・市障がい福祉計画を改定する中で、障がい者の意見を十分に聞きながら社会参加を促進する。</li> <li>県と連携を図りながら、障がい者スポーツの振興や社会参加のためのボランティアを育成する。</li> </ul>								4
	内部評価	第3節 障がい者が安心して暮らせるまちづくり	<p>相談支援については、障がいのある人の相談支援体制を福祉サービス事業所等と連携し充実を図った結果、相談件数が増加した。しかし、26年度内に障がい福祉サービスを利用する障がい者のサービス等利用計画を全て作成する必要がある。そこで、福祉サービス事業所と連携し相談支援体制の充実を図る。</p> <p>社会参加については、県障がい者スポーツ指導者協会の協力を得て、障がいのある人がスポーツに気軽に参加できるよう、ニュースポーツ講習会を開催し、仲間同士の交流と社会参加を促進することができた。今後は、30年に福井で開催される全国障害者スポーツ大会に向けて、障がいのある市民が積極的に参加できるよう支援体制を整える必要があるため、県と連携を図りながら、障がい者スポーツの振興や社会参加のためのボランティアを育成する。さらに、26年度に市障がい者計画・市障がい福祉計画を改定する中で、障がい者の意見を十分に聞きながら社会参加を促進する。</p> <p>就労支援については、障がい者就労支援施設等からの物品等の調達方針を策定して、優先調達の目標額を定め、市のセルフ製品の受注促進を図った結果、県内市町ではトップクラスの発注額であった。今後もさらなる目標額を定め、障がい者の経済的自立支援の促進を図る。</p>							
内部評価	平成25年度 実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)						
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	就労継続支援 (A型・B型) 事業の利用者数 (人)	84 (H20)	325	141	193	268	314			
	福祉施設から一般就労への移行者数 (延べ数) (人)	0 (H18)	30	11	16	21	25			
内部評価	平成25年度 実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)							
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	身体障害者住宅改造費支援事業	改造件数		7	3	3	2			
相談支援事業	相談利用者数		2,550	2,927	3,220	3,300				
社会参加促進事業	障害者スポーツ大会参加者数		63	135	140	141				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第2章 元気な人づくり  
第4節 健やかで元気に暮らせるまちづくり

	施策名	成果・課題・対策	達成度
	(1) 健康づくりの推進	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市健康21計画（第2次）に基づき「運動」「食生活」「歯」の3分野について行動指針に沿った取組みを行うとともに、「けんこうパスポート」の普及として年間1,000人増の目標を達成した。また、健康ステーション（2→51ヶ所）、けんこう食メニューの店（5→8店舗）等の健康応援団の拡大を図った。</li> <li>・行動指針のマイナス3gの減塩の具体的実践や意識啓発を図ることを目的に、仁愛大学・谷教授の監修のもと、食生活改善推進委員会が中心となって「-3gを目指そう かんたん減塩レシピ」を作成した。</li> <li>・市健康ウオークのコースにキッズコースを加えたことにより、参加者数（1,214人）が前年より482人増え、子どもの頃からの健康づくりのきっかけづくりになった。</li> <li>・乳児保健指導においては、直接訪問による指導の充実を図った。</li> <li>・歯科保健では、保育士、幼稚園教諭等に対し歯科保健研修を実施し、正しい生活習慣や歯磨き等の知識普及に努めた。また、2歳6ヵ月児歯科検診受診率及び3歳までにフッ化物塗布を受けたことのある幼児の割合は共に増加した。</li> <li>・こころの健康づくりでは、健診会場でのストレスチェックの実施やうつ予防講座の開講により、高齢者等に関心を持ってもらうことができた。また、自殺対策では、これまでのこころの相談電話、こころの相談室に加え、ボランティアによる相談電話「武生こころの電話」が開設され、自殺予防活動の推進が図られた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関、市、家庭に散在している個人の健康情報をつなげる「かかりつけ関係」を推進する必要がある。</li> <li>・がん検診については、新規で受診する人が少ない。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「けんこうパスポート」の活用を継続的に推進し、生涯にわたる市民一人ひとりの生活様式に応じた健康づくりを身近なところで提供する「かかりつけ関係」を推進するとともに、「運動」「食生活」「歯」の3分野について日々の具体的な行動を呼びかけていく。</li> <li>・がん検診については、受診券の表に無料クーポン券であることをわかりやすく記載すくするとともに、特に、乳がん検診・子宮頸がん検診の無料クーポン未使用者に対して個別受診勧奨を実施する。</li> </ul>	4
内部評価	(2) 身近な医療の確保	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における在宅医療体制の整備を進めるため、医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネージャー、訪問看護師による多職種連絡会の開催や、アンケートによる医療機関への往診や在宅医療の状況把握を行うなど、関係機関との協議を重ねた。武生医師会と連携し、地域包括支援センターを介しての在宅医療における主治医等の確保にかかる支援事業（在宅医療コーディネート事業）の仕組みづくりを行い、26年度からの運用にこぎつけた。</li> <li>・看護師養成機関の運営を支援し、卒業生の市内就職者数（23年度8人→24年度12人→25年度13人）を増加させることが出来た。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10年後に75歳以上人口が現在の2倍になる状況下で、退院後のスムーズな地域医療連携や、多職種相互での理解と連携が重要になってくる。</li> <li>・小児救急医療機関への期待が大きい。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種が集まった勉強会や話し合いを通じて理解を深め、多職種連携による在宅医療の充実を進める。</li> <li>・#（シャープ）8000番の電話相談や県子ども急患センター等の周知拡大を図る。</li> </ul>	4
	(3) 国民健康保険と高齢者医療	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康保険については、医療費の適正化対策として、医療費通知を年4回実施するとともに、ジェネリック医薬品差額通知を3回（24年度より1回増）実施したことから、ジェネリック医薬品の普及が進み、医療費の抑制に効果があったと考えられる。また、脱退勧奨等の資格管理に努め、保健事業においても、人間ドック、特定健康診査及び特定保健指導などを実施し、被保険者の健康づくりを推進した。</li> <li>・後期高齢者医療については、県後期高齢者医療広域連合と役割を分担し、円滑に事業を進めた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康保険については、20年度以降は税率を改定せずに運営を続けてきたが、高齢化による医療費の増加、前期高齢者交付金の前々年度精算による減額や国庫負担金の過年度精算による返還などが一時に重なり、多額の歳入不足が生じたため、基金のほとんどを取り崩しするなどの財政調整を行った。今後の財政安定化のための施策を講じる必要がある。</li> <li>・後期高齢者医療については、25年12月に成立した社会保障制度改革プログラム法により制度の継続が決まったが、医療費の増加傾向が続いており、この制度を維持していくためにも、より一層の医療費抑制策が求められている。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康保険については、社会保障制度改革プログラム法により、保険者の都道府県化、消費税財源等を活用した構造的な赤字問題の解決などの方向性が示されており、現在、国と地方との協議が行われており、26年中に合意形成が図られる予定となっている。この動向を注視しながら保険税改定も視野に入れた財政健全化策を検討する。</li> <li>・後期高齢者医療については、広域連合と連携し保健事業推進などの医療費抑制に向けた新たな取組みを検討する。</li> </ul>	3

内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性	達成度
	第4節 健やかで元気に暮らせるまちづくり	<p>健康づくりの推進については、市健康21計画（第2次）に基づき「運動」「食生活」「歯」の3分野について行動指針に沿った取り組みを行った。「運動」については、市健康ウォークのコースにキッズコースを加えたことにより、参加者数が前年より482人増え、子どもの頃からの健康づくりのきっかけづくりになった。「食生活」については、健康応援団の拡大を図るとともに、行動指針のマイナス3gの減塩の具体的実践や意識啓発を図ることを目的に、「-3gを目指そう かんたん減塩レシピ」を作成した。「歯」については2歳6ヵ月児歯科検診受診率及び3歳までにフッ化物塗布を受けたことのある幼児の割合は共に増加した。また、けんこうパスポートの普及として年間1,000人増の目標を達成した。今後も、けんこうパスポートの活用を継続的に推進し、生涯にわたる市民一人ひとりの生活様式に応じた健康づくりを身近なところで提供する「かかりつけ関係」を推進するとともに、「運動」「食生活」「歯」の3分野について日々の具体的な行動を呼びかけていく。</p> <p>身近な医療の確保については、地域における在宅医療体制の整備を進めるため、多職種の連絡会を開催し、武生医師会と連携し、地域包括支援センターを介しての在宅医療における主治医等の確保にかかる支援事業の仕組みづくりを行い、26年度からの運用にこぎつけた。今後は、多職種が集まったの勉強会や話し合いを通じて理解を深め、多職種連携による在宅医療の充実を進める。</p> <p>国民健康保険税については、25年度において多額の歳入不足が生じたため基金のほとんどを取り崩すなどして財政調整を行ったが、今後の財政安定化のための施策を講じる必要がある。</p>	4

内部評価	平成25年度 実践プログラム【数値目標】								
	指標名	基準値	目標値	達成状況 (年度末見込み)					
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27
乳児保健指導率 (%)	58.9% (H23)	68.9	56.4	58.9	71.7	89.0			
がん検診受診率《市が実施する5つのがん検診の平均受診率(職域健診を除く)》 (%)	37.3 (H23)	42.3	22.2	37.3 (対象年齢変更)	37.2	37.5			
健康寿命(県内9市の健康寿命の順位)(位)	男2位 (78.83歳) 女4位 (83.37歳) (H23)	男女とも 1位	男1位 (78.83歳) 女2位 (83.43歳)	男2位 (78.83歳) 女4位 (83.37歳)	男2位 (78.91歳) 女3位 (83.53歳)	男2位 (78.78歳) 女2位 (83.48歳)			
新健康21推進運動参加数(けんこうパスポート所有数)(人)	0 (H23)	6,000	0	1,000	1,850	3,100			

内部評価	実践プログラム【主な事業計画】								
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)						
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
こころの健康づくり【高齢者】	高齢者うつ傾向割合(該当者数/生活機能評価受診数*100)	20.9	24.0	24.0	19.5				
母子健康診査事業【乳児期】	9~10ヵ月児健診受診率(受診者数/年間対象者数)	92.7	93.5	95.5	95.0				
歯の健康づくり事業【幼児期】	6歳児むし歯のない子の割合	33.9	35.0	38.6	38.0				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第2章 元気な人づくり  
第5節 助け合い、支え合う地域社会の形成

施策名		成果・課題・対策							達成度	
内部評価	(1) 地域ぐるみ福祉の推進	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市地域福祉計画（21年度～25年度）の改定にあたり、計画策定委員会における現計画の検証等により課題を浮き彫りにし、新計画において対策を明確にすることができた。</li> <li>・民生委員・児童委員及び主任児童委員の改選にあたり、県へ要望し、定数178人を181人に増員し、地域格差の解消を図った。</li> <li>・地域福祉関係者である区長、民生委員・児童委員、福祉推進員、老人家庭相談員、自治振興会福祉関係部員などの関係者が集まり、町内ごとの福祉連絡会を開催（257町内/265町内 97.3%）するなど、地域の見守りネットワークの組織化を図ることができた。</li> <li>・各世帯を訪問する機会が多い事業者との協定を3事業者増の計9事業者と締結したことで、多面的で迅速な見守り体制の強化を図ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市地域福祉計画策定の中で、民生委員・児童委員や福祉推進員等地域福祉の担い手不足と、町内福祉連絡会の定着・充実が課題となった。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市社会福祉協議会と協力し、町内へ出向き研修等に積極的に参加することで、町内福祉連絡会の定着と充実を図り、地域住民の理解を深める。</li> </ul>							3	
	(2) 生活困窮者へのセーフティネット	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援員によるハローワーク同行支援や職場見学、就労訓練等、一人ひとりの状況に応じた支援に取り組んだ結果、支援対象者37人のうち22人が就労開始し、うち8人の自立につながった。また、不正受給防止や医療費抑制など、生活保護制度の適正な運用を行った。</li> <li>・貧困の連鎖を防止するため、生活保護世帯の子ども23人に対して、日常生活支援、学習支援、通学支援、就職相談等を実施し、基礎学力の向上5人、高校合格1人、就職内定1人の効果があった。</li> <li>・25年度から生活困窮者の社会参加推進事業として、ひきこもり等の生活困窮者25人を対象に、生活自立訓練や就労体験の場を提供したところ、就労体験へ導く等の効果があった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活保護世帯数と保護人数が過去最多を更新しており、生活保護に至る前の段階からの早期支援が必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者自立支援法の27年施行に向けて、生活困窮者に対する総合的な相談窓口を開設し、生活困窮者自立支援事業に取り組む。</li> </ul>							3	
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性							達成度	
	第5節 助け合い、支え合う地域社会の形成	<p>地域ぐるみ福祉の推進については、市地域福祉計画（21年度～25年度）の改定にあたり、計画策定委員会における現計画の検証等により課題を浮き彫りにし、新計画において対策を明確にすることが出来た。その結果、民生委員・児童委員や福祉推進員等地域福祉の担い手不足と町内福祉連絡会の定着・充実が課題として浮き彫りとなったことから、26年度以降市社会福祉協議会と協力し、町内へ出向き、研修等に積極的に参加することで、町内福祉連絡会の定着と充実を図り、地域住民の理解を深め、地域の見守りネットワークの組織化を図る。</p> <p>生活困窮者へのセーフティネットについては、就労支援員によるハローワーク同行支援や職場見学、就労訓練等、一人ひとりの状況に応じた支援に取り組んだ結果、支援対象者37人のうち22人が就労開始し、うち8人の自立につながった。また、貧困の連鎖を防止するため、生活保護世帯の子ども23人に対して、日常生活支援、学習支援、通学支援、就職相談等を実施し、基礎学力の向上5人、高校合格1人、就職内定1人の効果があった。さらに、25年度から生活困窮者の社会参加推進事業として、ひきこもり等の生活困窮者25人を対象に、生活自立訓練や就労体験の場を提供したところ、就労体験へ導く等の効果があった。</p> <p>しかし、生活保護世帯数と保護人数が過去最多を更新しており、生活保護に至る前の段階からの早期支援が課題であることから、生活困窮者自立支援法の27年施行に向けて、生活困窮者に対する総合的な相談窓口を開設し、生活困窮者自立支援事業に取り組む。</p>							3	
内部評価	平成25年度 実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値	達成状況（年度末見込み）							
		（時点）	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	福祉ボランティア登録者数（人）	4,247 (H18.4)	5,600	4,692	4,552	5,027	5,036			
	見守りネットワーク組織率（町内単位）（%）	19 (H22.4)	100.0	35.0	85.7	97.0	97.3			
	就労による生活保護からの自立世帯数（延べ数）（世帯）	14 (H22)	39	14	22	30	38			
市民バス利用者数（福祉バス含む）（人）	85,760 (H18)	130,000	90,449	91,394	94,212	97,404				
福井鉄道福武線利用者数（人）	1,639,504 (H19)	1,944,000	1,730,919	1,758,736	1,778,348	1,882,306				
内部評価	平成25年度 実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況：上段（目標値）／下段（年度末見込み）							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	



平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第2章 元気な人づくり  
第6節 人間力を高める教育の充実

	施策名	成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) 就学前教育の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>粟田部地区において、市内初となる「認定こども園あわたべ」（私立）が開園し、地域の教育・保育を担った。26年度からの幼保合同活動に向けて、岡本保育園と岡本幼稚園の幼保一体化に取り組んだ。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少子化が進む中で、子どもたちの健やかな成長のため、幼保一体化を推進していくことが必要である。</li> <li>就学前教育施設（保育園、幼稚園、認定こども園）の一貫した教育体制が必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域に対して、幼保一体化に関する説明会を繰り返し行っていく。</li> <li>小学校との円滑な接続のためのモデルカリキュラム作成を行う。</li> </ul>	4
	(2) 義務教育の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市学校施設耐震化推進計画に基づき、25・26年度の継続事業である国高小学校校舎改築事業及び北新庄小学校屋内運動場改築事業に着手するとともに、白山小学校屋内運動場については早期完成を図る。また、24・25年度の継続事業で取り組んだ岡本小学校校舎改築工事が完成した。（25年度末の耐震化率88%）</li> <li>国の非構造部材の耐震化方針を受け、対象となった小中学校屋内運動場の照明器具等の落下防止対策を実施した。</li> <li>夏場の学習環境の改善を図るため、26年7月稼働に向けて、全中学校の普通教室等にエアコンを整備することとした。</li> <li>分かりやすく深まる授業を実現するために、小中学校の教育用情報機器を更新し、県内随一のICT環境を構築した。全小中学校において日常的に授業に活用され、全国的にもトップレベルの活用率となっている。</li> <li>小学5年生と中学2年生を対象に行っている「夢の教室」に加え、大きな夢を育てる夢レベルアップチャレンジ事業やモノづくりに対する意欲の育成に繋がるモノづくり出前講座、福井工業高等専門学校との共催でロボットコンテストを実施した（25年度全国学力学習状況調査より「将来の夢や目標を持っている」の回答 小学校93.9%、中学校74.6%：21年度比で小学校8.4%増、中学校5.0%増）。</li> <li>特別支援教育については、保幼小中で一貫性のある支援体制を築くとともに、多動等の子どもたちに対応する教育補助員等を22校に配置し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援に努めた。</li> <li>不登校対策については、市適応指導教室と各学校が連絡を密にしながら不登校児童生徒に対応するとともに、小中連携を進めながら不登校の未然防止に努めた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが一日の大半を過ごし、災害時には地域の避難所の役割を果たす学校施設の安全を早急に確保するため、学校施設の耐震化を図る。</li> <li>いじめの未然防止と対策に取り組み、学校教育の充実を図る必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き市学校施設耐震化推進計画に基づき、27年度中の耐震化率100%を目指し、改築・耐震補強等事業に取り組む。</li> <li>屋内運動場の非構造部材の耐震化について、26年度は吊り天井の落下防止対策を実施する。</li> <li>いじめに対しては、各小中学校で策定した学校いじめ防止基本方針に沿った対応や、クラスの状況や児童の心の内をのぞくことができるQ-U（学校診断尺度調査）を継続実施する。</li> <li>学校ICT環境のさらなる利活用により、楽しい学校、分かる授業のさらなる推進に努める。</li> </ul>	4
	(3) 高等教育などの充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福井工業高等専門学校と市教育委員会は、共催でロボットコンテスト事業を実施している。</li> <li>第14回創造アイデアロボットコンテスト全国大会(中学生)において、万葉中学校のチームが初のベスト8へ進出した。</li> <li>仁愛大学と市の連携については、全学的に地域貢献に取り組む窓口として、仁愛大学内に地域共創センターが設置され、地域の発展を支援するさまざまな活動が推進されることとなった。</li> <li>学生地域貢献活動補助金事業や学生まちづくりコンペティションの実施を機に、仁愛大学・福井工業大学・福井工業高等専門学校など、県内学生による本市をフィールドとした地域貢献活動が徐々に広がりをみせている。</li> <li>学生地域貢献活動については、募集時期の改善もあり、前年度の倍となる3大学12事業の申請があり、大学生の若い感性による事業が実施された。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロボットコンテストの参加校及び参加生徒数の増を図る。</li> <li>仁愛大学との連携については、地域共創センターと連携し、全学的な取組みをさらに進めていく必要がある。</li> <li>学生地域貢献活動については、事業後の継続性を図る。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福井工業高等専門学校で開催されるロボコン関連の夏休み講座への参加啓発を図る。</li> <li>仁愛大学との連携については、本市をフィールドとした授業の導入や、自治体と連携して地域と密着した教育・研究・貢献を進める大学を国が支援する「COC（地（知）の拠点整備）」事業の申請について、仁愛大学と協議を進める。</li> <li>学生地域貢献活動については、事業内容に係る課、地区自治振興会、市民団体などとの協働により活動の幅を広げる。</li> </ul>	3

内部評価	(4) 青少年の健全育成	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット等が普及するなかで、子どもを有害情報から守る取組みとして、フィルタリングソフトの普及促進や、子どもを有害情報から守るための講習会などの積極的な開催、小中学校への携帯電話持ち込みの禁止及び「家庭内のルール」づくりに関する啓発促進と意識付けの徹底を、関係機関と連携し重点的に取り組んだ。特に、「家庭内のルール」づくりについては、子どもと保護者が連名で署名する「わが家の10か条」を作成し、市内全小中高校へ配布することで、意識付けの促進を行った。</li> <li>・読書好きな子どもを増やし、青少年の健全育成を図る取組みとして、市内の小中高校の児童生徒を対象に実施した「読書活動に関するアンケート調査」から「心に残っている本ベスト10」などのデータを基にポスターを作成し、市内の小中高校の図書室に掲示し、読書好きな児童生徒のさらなる増加を図った。</li> <li>・引きこもりがちな中学校卒業後から20歳までの若者を対象に、話し合いや軽スポーツなどを実施する「コミュニティ広場」を開催し、人とのかかわりを進め、社会へ出るための支援を行った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット等で世界中の様々な情報を簡単な操作で容易に手に入れることができるため、子どもを有害情報から守る取組みの継続した実施が必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や市青少年問題協議会等の関係機関と連携し、フィルタリングソフトの普及促進や講習会の開催等を通じて、子どもを有害情報から守る取組みを重点的に実施する。</li> </ul>	4
内部評価	<p>政策名</p> <p>第6節 人間力を高める教育の充実</p>	<p>成果・課題・今後の方向性</p> <p>就学前教育については、栗田部地区において、市内初となる「認定こども園あわたべ」（私立）が開園し、本格的な推進への道筋を整えることができた。また、岡本地区において幼保合同活動の地元合意が得られ、26年度から岡本保育園と岡本幼稚園の合同活動が開始される。</p> <p>学校耐震化については、市学校施設耐震化推進計画に基づき、27年度の完了をめざし着実に推進している（25年度末の耐震化率88%）。国の非構造部材の耐震化方針を受け、対象となった小中学校屋内運動場の照明器具等の落下防止対策を実施した。また、夏場の学習環境の改善を図るため、26年7月稼働に向けて、全中学校の普通教室等にエアコンを整備する。</p> <p>義務教育の充実については、小学5年生と中学2年生を対象に行っている「夢の教室」に加え、大きな夢を育てる夢レベルアップチャレンジ事業やモノづくりに対する意欲の育成につながるモノづくり出前講座を実施し、子どもたちの夢を育み生きる力の育成の継続的な推進を図っている（25年度全国学力学習状況調査より「将来の夢や目標を持っていますか」小学校93.9%、中学校74.6%：21年度比で小学校8.4%増、中学校5.0%増）。さらに、特色ある学校づくりの推進や先進的なICT環境構築による教育の推進、特別支援学級の充実、外国人児童生徒支援の推進、不登校児童生徒への適切な対応など、義務教育の充実を図っている。</p> <p>高等教育の充実については、教育研究機能の充実や産学連携の一環として、市内の中学校が参加し、福井工業高等専門学校との連携によるロボットコンテスト事業を継続的に実施している。</p> <p>学生地域貢献活動については、募集時期の改善もあり、前年度の倍となる3大学12事業の申請があり、大学生の若い感性による事業が実施された。活動を拡げるため、事業内容に関係する課、地区自治振興会、市民団体などの協働を進めていく。</p> <p>インターネット等で世界中の様々な情報を簡単な操作で容易に手に入れることができることから、子どもを有害情報から守る取組みとして、フィルタリングソフトの普及促進に加え、小中学校への携帯電話持ち込みの禁止や「家庭内のルール」づくりに関する啓発促進と意識付けの徹底を図った。特に、「家庭内のルール」づくりとして、子どもと保護者が連名で署名する「わが家の10か条」を作成し、市内全小中高校へ配布することで、意識付けの促進を行った。</p> <p>中学校卒業後から20歳までの「引きこもりがちな」若者を対象に、話し合いや軽スポーツなどを実施するコミュニティ広場を開催し、社会へ出るための支援を行った。</p>	達成度 4

実践プログラム【数値目標】										
指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
内部評価	デジタル教科書活用率 (%)	60 (H22)	100.0	60.0	65.0	100.0	100.0			
	児童生徒朝食喫食率 (%) (欠食率表記から変更)	96 (H17.10)	100.00	99.70	99.78	99.74	99.23			
	幼保合同活動施設数 (幼保一体化) <再掲> > (箇所)	0 (H18)	12	2	2	3	4			
	学校給食における地場産 (県内) 食材使用率 <再掲> (%)	30.1 (H17)	47.0	39.3	33.9	44.1	39.3			
	福井型コミュニティスクール (校)	4 (H18)	24	24	24	24	24			
実践プログラム【主な事業計画】										
事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)								
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
内部評価	給食室整備事業	給食設備整備 (南中山小)	設計完了	完了	—	—				
	学校教育施設等耐震化事業 (学校改築事業)	校舎改築学校数及び棟数	3校7棟	3校8棟	4校9棟	5校11棟				
	学校教育施設等耐震化事業 (学校改築事業)	屋内運動場改築学校数及び棟数	1校1棟	2校2棟	2校2棟	4校4棟				
	学校教育施設等耐震化事業 (学校耐震補強事業)	耐震補強学校数及び棟数	7校13棟	7校14棟	11校20棟	11校20棟				
	小学校教育振興事業	教育用コンピュータ整備及び維持	100.0	100.0	100.0	100.0				
	中学校教育振興事業	教育用コンピュータ・LL教室整備及び維持	100.0	100.0	100.0	100.0				
	英語教育推進事業	ALTによる英語活動回数 (1学級あたり平均値)	12	13	13	14				
	夢ある子ども育成事業	児童・生徒の夢への関心度 (夢を持ちたいと強く思うと答えた児童の割合が授業後にアップした学級の割合)	100.0	100.0	100.0	100.0				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第2章 元気な人づくり

第7節 主体的に学びを生かす生涯学習社会の実現

	施策名	成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) 生涯学習の充実	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市壮年グループ連絡協議会、市連合女性会や市子ども会育成連絡協議会等の社会教育団体と、現状や課題などについて協議を行なうとともに、未加入団体に対し加入への説明会を行なった。</li> <li>・生涯学習センター事業については、越前まなぼう座として体系化し、おもしろ歴史回廊、ふるさと語り部講座などを開催し、市民が主体的・積極的に取り組む学習機会を提供し、生涯学習の推進を図ったところ参加者数も増加した。</li> <li>・公民館事業については、24年度から公民館講座事業を地域自治振興会事業に移管し、一般行政の社会教育関連事業とした。市民の学習活動を社会教育行政の領域を超えて様々な立場から総合的に支援していく仕組みが構築された。</li> <li>・かこさとしふるさと絵本館事業については、4月26日のオープン以来、市内外から多くの来館者があり、9月23日には来館者が1万人を突破するなど、絵本を通じて、子どもたちの創造力や探究心を育むことができた。</li> <li>・読書活動の推進については、県内初の読書のまち宣言に基づき、市民に根ざした読書のまちづくりを持続的に推進するため、市民や市民団体・関係機関などと協働して、読書のまちフェスティバルや読書週間のイベント、子ども向け行事、文学散歩、読書ボランティア育成講座などの各取組みを進めた。</li> <li>・25年度から生まれたすべての赤ちゃんに、本に出会うきっかけとしてのブックスタートを開始し、すべての小中学校で「朝読書(あさどく)」が実施され、公民館図書コーナーの充実や文学散歩により作品と地域の関わりを理解を深める「地域読書(まちどく)」を進めることができた。さらに、「親子読み聞かせ」では、毎週土曜日に開催する親子向け行事の開催により家族みんなで好きな本を読む「家読書(うちどく)」、大人向けのお薦め本展示コーナー設置やイベント開催による生涯学習としての「生涯読書(いきがいでく)」と、宣言の目指す読書推進活動を実施した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活力ある地域づくりを推進していくうえで重要な役割を担っている社会教育団体は、リーダー不足や会員数の減少などにより組織の弱体化が見られる。</li> <li>・公民館が中核となり、地域自治振興会を含めた関係機関相互の連携・協力を努め、地域社会での目標の共有化を図り、目標を達成するために人々の学習要求を総合的に支援する。</li> <li>・読書のまちフェスティバルなどのイベント開催や、相互貸借制度の積極的な活用による利用者の利便性の向上、読書ボランティア等との協働による読書活動推進事業を展開したが、インターネットの普及による情報収集方法の変化や電子図書の利用、来館減などにより、図書貸出冊数が目標値に届かない状況となっている。今後は、貸出冊数を増やす工夫に加え、本に出合える場所を増やす工夫が必要となっている。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各社会教育団体と協働を進めるとともに、各団体の意見も踏まえ、公民館を窓口として、地区単位での組織の育成、既存組織の活性化や未加盟団体に対する加入の働きかけなどの支援を実施していく。</li> <li>・26年度は、図書館利用者への貸出冊数制限を緩和するとともに、より多くの市民が本に親しむ機会を増やし読書習慣が定着するために、従来の小学校、公民館、各種団体に加え、新たに子ども福祉施設や高齢者介護事業所などへの団体貸出制度を創設して、「出かける図書館」として身近に本がある環境づくりと読書の推進を図っていく。</li> <li>・生涯学習センター事業については、関係機関・団体と連携し、各年代層のニーズに合った講座を企画し、市民が主体的・積極的に取り組む学習機会の増加を図る。</li> <li>・公民館が中核となり、地域住民によるボランティア活動や、制度に基づかない援助など多職種、多機関がシステムとして連携できる地域ネットワークを構築し活用する。</li> <li>・かこさとしふるさと絵本館「石石」については、定期的な展示の部屋の模様替えに加え、臨時的な模様替えや催し物の開催等を行うなど活性化をはかりながら、子どもたちの創造力や探究心を育むことができる空間を提供する。</li> </ul>	3
	(2) 家庭及び地域における教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育推進事業では、家庭教育サロンとして、複雑多様化する保護者の相談に対応するとともに、出かける家庭教育サロンとして、子育てに関する講演会、研修会等へ講師を派遣し、学習機会の提供に努めた。</li> <li>・子どもの居場所づくり推進事業については、放課後子ども教室事業として、全地区において、地域住民の参画により、勉強、スポーツ、文化活動及び地域住民との交流を行い、放課後の子どもたちの安全な居場所の確保と子どもの安全で健やかな成長を支援した。また、児童クラブ(学童保育)との共催や地域住民の参画による事業、合宿通学事業(8地区)を実施し、地域全体で子育てを支援する体制の充実を図った。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育推進事業における相談や講演会等の周知。</li> <li>・子どもの居場所づくり推進事業については、地域ボランティア・指導者の発掘及び合宿通学事業の拡充。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育推進事業については、周知広報を強化する中で、家庭・学校・地域・関係機関と連携し、家庭教育の重要性について意識向上を図る。</li> <li>・子どもの居場所づくり推進事業については、新たに開設される児童館・児童クラブとの情報交換を行い連携を図る。</li> </ul> <p>また、地域ボランティアや指導者の発掘に努める一方、現在、8地区で行っている合宿通学事業の実施地区の増を図り、安全な居場所の確保と健やかな成長を支援する。</p>	3

内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性								達成度
	第7節 主体的に学びを生かす 生涯学習社会の実現	<p>活力ある地域づくりを推進していくうえで重要な役割を担っている社会教育団体は、リーダー不足や会員数の減少など組織が弱体化等が課題となっており、現状や課題等について各団体と協議を行なうとともに、未加入組織に対し加入への説明会を行なった。また公民館には、子供会、女性会や壮年会などの社会教育団体を再構築する業務が求められている。</p> <p>かこさとし氏を名誉館長として迎える中、読書のまちの推進拠点として、4月26日にかこさとしふるさと絵本館「石石」を開館し、かこさとし氏の描いた原画や絵本の制作過程のレプリカなどを展示するとともに、約2,200冊の絵本や紙芝居を備え、子どもたちの創造力や探求心を育むことができた。</p> <p>主に公民館において、市内全地区で、放課後子ども教室を開催し、地域住民の参画のもと、勉強、スポーツ、文化活動及び地域住民との交流を行い、放課後の子どもたちの安全な居場所の確保と子どもの健やかな成長を支援した。</p> <p>市民が気軽に利用できる図書館を目指して、利用者のニーズに応える各種図書資料収集に努めるとともに、越前市の特色である「ものづくり・デザイン」「コウノトリ」コーナーや郷土の課題に対応した展示コーナーの充実及び親子向けイベントなどを行っている。今後は、「読書のまち」宣言の5本の柱に沿って、かこさとしふるさと絵本館「石石」や地区公民館、学校図書室と連携し、市民団体や読書ボランティア等との協働により年間を通じた読書推進の事業を展開することで、読書のまちの定着を図る。さらに、市民がより本に親しむ機会を増やし読書習慣の定着を図るために、小学校、公民館、各種団体に加え、新たに福祉施設等への団体貸出を実施するなど、「出かける図書館」を目指す。</p>								
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値	目標値	達成状況（年度末見込み）						H28
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
	市民一人当たりの図書貸出し数（冊）	2.7 (H17)	6.8	5.9	6.1	6.0	5.8			
公民館利用者数（人）	378,102 (H17)	500,000	450,308	487,004	493,427	485,000				
出かける家庭教育サロン実施回数（人）	1,797 (H17)	2,700	1,871	1,398	1,930	1,113				
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況（年度末見込み）						H28	
			H22	H23	H24	H25	H26	H27		
	地区公民館施設管理事業	公民館利用者数/全市民		45.3	49.2	50.1	49.6			
	生涯学習センター講座開催事業	講座参加者数/対象者数		7.47	7.60	7.61	7.67			
	地区公民館講座開催事業	講座利用者率（講座参加者数÷対象者数）		4.0	3.5	4.2	4.0			
放課後子ども教室推進事業	子ども教室一人当たり参加回数		4.1	3.3	4.1	3.8				
図書館資料提供サービス事業	図書貸出冊数		505,583	517,692	509,000	487,027				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第2章 元気な人づくり  
第8節 誇れる歴史、芸術文化の創造

施策名		成果・課題・対策								達成度	
内部評価	(1) 芸術・文化の振興	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市有建築物耐震化計画により、武生公会堂記念館の耐震工事を行い、市民の文化芸術の鑑賞及び学習、ふれあい施設としてリニューアルオープンした。(9月)</li> <li>・武生公会堂記念館において地域連携企画展「コーケンノムラ空間の美」外、館蔵品展、特別展をそれぞれ開催した。</li> <li>・特に、「コーケンノムラ空間の美」は、地域連携事業として、出身の北日野地区自治振興会において、講演会、作品展示等の協賛事業が開催され、面的広がりのある事業となった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化センターの耐震補強等工事実施による休館期間の周知並びに代替施設の提示</li> <li>・「歴史と文化のまち・越前市」のイメージアップ情報の発信不足</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化施設休館については、窓口案内、ホームページ、パンフ等により期間の周知等を行う。</li> <li>・ホール利用団体との意見調整を行う。</li> <li>・武生国際音楽祭、源氏物語アカデミー、万葉の里・恋の歌などの全国発信できる事業の強化、充実を図る。</li> </ul>								3	
	(2) 歴史的資源の継承と活用	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「第1回こしのくに国府サミット」を開催し国府をテーマとした広域での魅力発信、歴史・文化を通じた相互交流を行った。</li> <li>・「越前和紙の製作用具と製品」が国の重要有形民俗文化財として県内初の指定を受けた。</li> <li>・国登録有形文化財に新たに3件(旧大井百貨店・北府駅・寿屋「対碧亭」)が登録された。(全15件)</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国府所在地としての歴史文化遺産の後世への継承と文化財保護意識の高揚</li> <li>・国指定重要有形民俗文化財「越前和紙の製作用具と製品」の保存と展示のあり方</li> <li>・指定文化財及び登録文化財所有者の経済的負担増</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武生公会堂常設展充実により、歴史文化遺産の後世への継承と文化財保護意識の高揚を図る。</li> <li>・図版を多く取り入れた市内文化財を紹介する図説を27年度に発刊する。</li> <li>・「越前和紙の製作用具と製品」については、散逸並びに劣化防止の保管及び展示ができる施設の検討を行う。</li> <li>・指定文化財等修復補助制度を継続し、引き続き支援を行う。</li> </ul>								4	
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性								達成度	
	第8節 誇れる歴史、芸術文化の創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第1回こしのくに国府サミット」が開催され参加5市より300人が参加し、越前国府に対する市民意識が高まった。今後、市長サミットで出た課題の推進体制を確立し、より参加市との交流を深める。</li> <li>・重要有形民俗文化財「越前和紙の製作用具及び製品」が国指定を受け、改めて市民の文化財への注目が高まり、指定文化財の公開により文化財保護意識の一層の高揚を図る。</li> <li>・武生公会堂記念館が耐震化等工事を終えて9月にリニューアルオープンし、安全安心な施設となり、文化の中核施設として企画展示の充実を図っていく。</li> <li>・文化センター耐震補強工事実施設計に着手し、安全安心で利用者、使用者にも快適な施設づくりを目指す。</li> <li>・市史資料編「金森左京家」を出版するとともに、図説編集体制の確立を行い27年度発刊を目指す。</li> </ul>								4	
内部評価	実践プログラム【数値目標】										
	指標名	基準値	目標値							達成状況 (年度末見込み)	
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
登録有形文化財数(件)	6(H18)	14	12	12	12	15					
市内の文化振興5施設利用者数(人)	157,998(H17)	211,000	207,890	204,680	201,779	190,000 公会堂記念館耐震化工事閉館による減少					
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】										
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)								
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
	文化芸術活動支援事業	市民総合文化祭、市民音楽祭の出演・出品等団体数	75	80	82	80					
	埋蔵文化財調査事業	試掘確認範囲(ha)	0.04	0.03	0.02	0.08					
武生公会堂記念館展示整備事業	入館者数/開催日数=1日あたりの入館者数	62	66	91	55						
市史編さん事業	市史編さん史料収集数(累積概数)	218,000	291,161	293,230	294,794						

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第2章 元気な人づくり  
第9節 生涯スポーツのまちづくり

施策名		成果・課題・対策								達成度
内部評価	(1) 生涯スポーツのまちづくり	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市スポーツ施設の配置の最適化を図ることにより、効率的で効果的な運営・維持管理を実現するため、市スポーツ施設再配置計画を策定し、所管の31スポーツ施設の再配置と整備の指針を10年間で(26～35年度)において定めた。</li> <li>30年福井国体開催に向け、国体開催施設の整備実施計画や準備組織の設立計画(26年度/準備委員会、27年度/実行委員会)を立てるなど準備を開始した。</li> <li>国体種目におけるジュニア層の活躍を目標に、日本サッカー協会の支援を受け、市競技力向上プロジェクト(小倉プロジェクト)を創設し、戦略的プログラム(「夢先生スポーツレッスン」7競技開催)や基本的プログラム(「フィジカル・食・メンタル」をテーマに講習会3回開催)を実施した。</li> <li>市スポーツ推進プランに基づく生涯スポーツの推進のため、通年で中央スポーツ教室(15教室144人)、地区スポーツ教室(56教室800人)を開催し、11月3日には32回を数える市民参加型スポーツイベントである菊花マラソンを開催し、過去最多の参加者が出走した。</li> <li>スポーツ施設の効果的で効率的な運営・維持管理を推進するため、指定管理施設を24施設に拡充し、新たに丹南総合公園スポーツ施設の運営・維持管理を25年9月から開始した。</li> <li>具体的なスポーツ施設整備として、市弓道場(二中隣接地、近的9人立ち、遠的3人立ち)を建設したほか、武生中央公園体育館改築・同庭球場改修・新サッカー場新設の設計を開始した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市スポーツ施設再配置計画に基づく効率的で効果的な施設管理と整備について、地域や関係団体等の的確なニーズの把握のもと、スポーツ人口の維持・拡大に向けた円滑な推進に努めなければならない。特に、前期5年間の実施計画は、福井国体開催施設整備を重点整備するため、迅速性と確実性が求められる。</li> <li>福井国体の成功に向けた国体準備委員会を設立するなど、ソフト面での推進体制の確立が重要である。また、市民全員参加による国体開催の気運の醸成が求められている。</li> <li>2年目となる市競技力向上プロジェクト(小倉プロジェクト)については、最大の効果が得られるよう計画的な推進と水平展開が求められている。</li> <li>武生中央公園体育館改築や同庭球場改修、新サッカー場建設に向けた、実施設計を着実な推進。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「市スポーツ推進プラン」「市スポーツ施設再配置計画」に基づくソフト、ハード両面における施策の展開を図り、生涯スポーツのまちづくりを推進する。</li> <li>「市競技力向上プロジェクト(小倉プロジェクト)」による本市ジュニア層の競技力向上施策の推進により、福井国体における本市選手の活躍を目指す。</li> <li>福井国体に向けた気運の高まりの中、スポーツ人口の拡大を図り、市スポーツ推進計画の基本理念である「市民みんなが元気に生涯スポーツのまちづくり」につなげていく。</li> </ul>								4
	内部評価	第9節 生涯スポーツのまちづくり	<p><b>政策名</b></p> <p>市スポーツ推進プラン(24年度策定)に続き、スポーツ施設の今後の整備の指針となる市スポーツ施設再配置計画を策定した。また、福井国体での、特にジュニア層の活躍を目指して、(公財)日本サッカー協会の支援のもと、市競技力向上プロジェクトを立ち上げた。</p> <p>25年度においては、既存施策にこれらの新事業を加え、スポーツ教室や市民参加型スポーツ大会の開催、スポーツ少年団を含めた社会体育や学校体育の推進、スポーツ環境の整備(弓道場建設や丹南総合公園スポーツ施設の運営・維持管理の開始)など、生涯スポーツを推進する多彩な事業を展開してきた。</p> <p>現在、人口減少・高齢社会の到来を迎え、既存スポーツ施設が老朽化する中、市民が元気に参加できる生涯スポーツのまちづくりに向け、スポーツ人口の維持・拡大や安全・安心で快適なスポーツ環境の持続的提供が課題となっている。</p> <p>今後は、上記2つの計画を基本に、生涯スポーツを推進する施策をハード・ソフトの両面から、総合的・効果的・効率的に推進する。特に、スポーツ環境整備については、武生中央公園再整備事業と連携し、26年度から主に国体開催施設を計画的に整備していく。</p> <p>また、国体については、市民参加と機運醸成を目指した準備体制を組織化するとともに、開催そのものを目標とするのではなく、これを契機として子どもから高齢者まで広くスポーツ人口の拡大及び健康増進ばかりでなく生きがいの創造につながる一大プロジェクトとして準備を進めていく。</p>							
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)						
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
総合型スポーツクラブ 設立数(団体)	4 (H18)	8	6	7	8	8				
スポーツ施設の利用者 数(人)	611,000 (H18)	653,000	625,000	632,000	598,146	600,374				
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
菊花マラソン大会開催 事業	参加人数		4,152	4,339	4,301	4,407				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第3章 快適で住みよいまちづくり

第1節 秩序ある土地利用の推進

内部評価	施策名	成果・課題・対策								達成度
	(1) 秩序ある土地利用の推進	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議会の議決を経て、平成16年に武生市・今立町合併協議会が策定した新市建設計画を変更した。今後の人口減少時代を見据えた「ネットワーク型コンパクトシティ」を目指し、武生と今立の2つの歴史的拠点の継承・発展を図るため、本庁舎を現在地に建設するとともに、今立総合支所を改築し、市東部地域の防災・コミュニティ等の機能を有する複合施設として、拡充整備することとした。また、武生中央公園の再整備、北陸新幹線「南越駅」(仮称)の周辺整備、スポーツ施設の再配置など大型プロジェクトを計画の中のまちづくり主要事業に追加した。</li> <li>・開発行為及び建築の申請に対しては、市都市計画マスタープランの土地利用方針に基づき、関係各課と連携しながら適切な土地利用の誘導に努めた。</li> <li>・戸谷片屋線沿線における土地利用上の対策として、国高地区の馬上免町においては、市が情報提供等支援を行ったこともあり、市住みよい街づくり推進条例に基づく地域街づくり推進団体の設立に向けた準備団体立上げに着手した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸谷片屋線は25年8月に開通し、沿線部での乱開発を防ぐためにもルールづくりは喫緊の課題となっている。しかし、地権者個々の土地利用に関する意識が異なり、計画づくりに対しては未だ総意は得られていない。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸谷片屋線沿線においては、具体的な対策実施に繋げていくため、地区計画等都市計画の各種まちづくり制度の詳細な説明や取組み事例の紹介等、各町内住民に対する説明を重ね、早期の住みよい街づくり組織立上げを促すとともに、具体的対応策について協議を進める。また、馬上免町をモデルとして戸谷片屋線沿線全体において地域主導の計画づくりに発展させていくよう、他の沿線町内とも協議を進めていく。</li> </ul>								
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性								達成度
	第1節 秩序ある土地利用の推進	<p>合併後の新市の基本方針や公共施設の整備などについて定め、将来のビジョンや施策の方向性を示す新市建設計画を、議会の議決を経て変更した。</p> <p>開発行為及び建築の申請に対しては、25年度も市都市計画マスタープランの土地利用方針に基づき、関係各課と連携しながら適切な土地利用の誘導に努めた。また、国高地区の戸谷片屋線開通に伴う土地利用上の対策については、沿線のうち馬上免町において、市住みよい街づくり推進条例に基づき「地域街づくり推進団体」の設立に向けた準備が始められた。今後とも、沿線住民の土地利用に対する合意形成に向け学習会を重ねながら、早期の組織立上げを促す。また、当町をモデルとして戸谷片屋線沿線全体において地域主導の計画づくりに発展させていくよう、他の沿線町内とも協議を進める。</p>								4
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値	目標値	達成状況 (年度末見込み)						
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
地区計画の認定数・まちづくり協定数(延べ数)(件)	7件(H18)	21	18	18	18	18				
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
地域街づくり計画策定事業	行政からの地域街づくりへの支援(技術的な支援説明回数/年間)	6	5	5	5					



平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第3章 快適で住みよいまちづくり  
第2節 コンパクトで機能的な都市構造の形成

	施策名	成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) 魅力ある中心市街地の形成	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵の辻や商店街でのイベントは、飲食、散策等来街者の増加並びに交流人口の拡大に寄与した。</li> <li>・「まちなか空き屋等リフォーム支援事業」など居住支援制度の充実やまちづくりセンターによる空き家・空き店舗の橋渡し（25年度9件）により、居住人口の増加に寄与した。</li> <li>・25年度に、これまでのまちなか住宅用地等購入資金利子補給金をまちなか住宅取得支援事業に改正し支援を拡充するとともに、まちなか空き家等リフォーム支援事業の創設並びに制度広報の取組みを強化した結果、まちなか住宅取得支援事業については、過去最高の実績となった。</li> <li>・新婚夫婦家賃補助制度は2年目を迎え、補助採択要件の一部を緩和したことや、市ホームページ、不動産業者の紹介、口コミなどで事業の周知が図られ、当初想定していたよりも多くの申請があった。また、市外からの転入者も多く、この事業により市外の方が越前市へ居住する動機付けとなっている。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・にぎわい創出については、イベント開催に伴う市民への波及が限定的である。</li> <li>・居住促進については、新婚世帯のニーズを満たす物件が乏しいため、現行の各種施策を見直し、新築物件が増加する取組みが必要である。</li> <li>・まちなか空き家等リフォーム支援事業については、実績が2件と当初想定した件数よりも少なかったため、対象物件の掘り起こしと制度周知のための広報活動の強化が必要である。</li> <li>・家賃補助は最長36ヶ月であり、この期間に越前市の魅力や子育て環境の良さを知っていただき、越前市への定住者を増加させる。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家賃補助者にアンケートを実施し、定住に対する考え方などを探るとともに、越前市の子育てや住宅取得支援など越前市の魅力を発信するパンフレットを作成し、定住促進を図る。</li> <li>・中心市街地における良質な住宅供給を図るため、借上げ市営住宅の整備を進める。</li> <li>・市民や業者等に居住促進に関連する制度を包括的にPRすることにより、定住促進に向けた取組みを強化する。また連携している市不動産協会からの意見を聴取し、制度の今後の方向性について検討していく。特にまちなか住宅団地整備費支援事業については、26年度からの制度改正で整備面積要件の縮小（500平方メートル⇒330㎡）と市外業者を補助の対象にすることにより、制度の活用を図る。</li> <li>・蔵の辻を中心とした賑わいづくりにあたっては、近辺の空き店舗の有効利用や地域コミュニティな市民との協働により、交流人口の拡大を目指す。</li> </ul>	3
	(2) 質の高い一般市街地の形成	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公有地等購入促進事業（25年度12件）により、土地区画整理事業の保留地の売却を支援し、用途地域内への居住促進を図った。</li> <li>・神山南部土地区画整理事業は、保留地を完売し、事業が完了できた。</li> <li>・25年度より多世代同居のリフォーム支援事業並びにU I ターン者空き家リフォーム支援事業を創設した結果、多世代同居のリフォーム支援事業では5件の実績があった。</li> <li>・吉野瀬川の桜回廊をとおした都市環境整備を進める大虫地区の吉野瀬川沿川住民に対しては、市住みよいまちづくり推進条例に基づく地域街づくりの組織立ち上げを働きかけ、概ね理解が得られつつある。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代同居リフォーム支援事業並びにU I ターン者空き家リフォーム支援事業ともに市民への制度周知が不足している。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなか空き家等リフォーム支援事業同様、まちなかに限定しない上記の居住支援制度についても、市民や業者等に居住促進に関連する制度を包括的にPRすることにより、定住促進に向けた取組みを強化する。</li> <li>・大虫地区については、桜回廊をとおした地域街づくりの継続発展を目指した組織立ち上げを働きかけていく。</li> </ul>	4

内部評価	(3) 自然と調和した田園森林地域の形成	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田魚道を普及するための補助制度を創設し、2基を整備した。また、白山地区（2筆）・王子保地区（1筆）の不耕作水田において、コウノトリの餌となる水辺の生きものが生息できる環境を創出した。</li> <li>・外来種（オオクチバス、ブルーギル、オオフサモ）の防除を、市、団体及び地元住民と協働で実施した。</li> <li>・希少野生動植物種アベサンショウウオの保全についての研修会を開催し、地域住民の理解を深めた。保全に向けた取り組みの結果、アベサンショウウオの卵塊、幼生が確認された。</li> <li>・コウノトリが生息していた北日野地区において、かつての生息状況の聞き取り調査と現在の様子の把握調査を実施するとともに、22年から4年連続で飛来したコウノトリ「えっちゃん」等が飛来した場所をGIS（地理情報システム）でデータ化し、コウノトリが定着できる環境の指標とした。</li> <li>・9月に白山地区で開催された「SATOYAMA国際会議」のエクスカージョンにおいて、白山小学校の子供たちによる環境学習の成果発表が行われ、本市の環境教育の取り組みが海外参加者から高い評価を得た。</li> <li>・2013コウノトリが舞う里づくり大作戦では、環境学習に取り組む小中学校の子どもたちの成果の発表を行うとともに、小学生を対象にしたコウノトリが舞う里づくり図画コンクールの応募の全作品を会場に展示した。</li> <li>・24年度から取り組んでいるコウノトリが舞う里づくり連続講座の「ごはん塾」を25年度は7地区（24年度3地区）で実施し、ごはんの大切さを伝えることができた。</li> <li>・親子で学ぶSATOYAMA親子レンジャー＜炭焼き体験＞の開催、小学生を対象にしたコウノトリ＆生きもの教室の開催により、里山の大切さ、コウノトリの生態、水田などに生息している生きものについて学習し、理解を深めた。</li> <li>・コウノトリが舞う里づくりのシンボルとして、また将来コウノトリが営巣できる場所として、コウノトリ人工巣塔を王子保地区に1基（計4基）設置した。</li> <li>・ふっくん、さっちゃんの飼育開始以来、初めて産卵（5個）があった。</li> <li>・坂口地区にコウノトリが飛来した。</li> <li>・これらコウノトリに関する取り組みについて、市ホームページに掲載し、マスコミ等への情報発信に一層努めた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田の圃場整備と水路の改修工事によって、水田と水路のつながりが失われ、水田と水路を生息場とする魚類の生息環境が悪化している。</li> <li>・コウノトリは多様な生きものが生息する水田を餌場とするが、中干し時期には餌生物が減少する。</li> <li>・コウノトリや希少野生生物の生息環境を保全再生する取り組みを行っている方々の高齢化が進んでいる。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水田の一部を深く掘り、中干し時期に生きものが避難できる退避溝、水田と水路をつなぎ魚類の生息環境を再生する設備「水田魚道」の効果を検証し、その普及のために効果を検証し、成果を周知する。</li> <li>・希少野生生物の研修会や「コウノトリ＆生きもの教室」等のプログラムを開催し、若年層世代の参加を図る。</li> </ul>	4
内部評価	第2節 コンパクトで機能的な都市構造の形成	<p>政策名</p> <p>成果・課題・今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地においては、まちなか空き屋等リフォーム支援事業など居住支援制度の充実やまちづくりセンターの空き家、空き店舗の橋渡しにより居住人口の増加に努め、一定の成果があった。今後は、越前市不動産業協会との連携による空き家、空き地の利活用促進等、なお一層の居住推進に取り組む。また、中心市街地における良質な住宅供給を図るため、借り上げ市営住宅の整備を進める。一方、賑わいづくりについては、地域コミュニティとの連携・参画等により、より一層の交流人口拡大を図る。</li> <li>・一般市街地については、神山南部土地区画整理事業において、公有地等購入促進事業による保留地売却の効果もあり、事業が完了できた。また、25年度より創設した「多世代同居のリフォーム支援事業」では、居住促進に一定の成果があったが、今後はより一層の制度活用に伴う居住促進に向け、包括的な制度PRに努め、市街地における居住促進を市街地全体で図っていく。</li> <li>・新婚夫婦家賃補助制度は、2年目を迎え、補助採択要件の一部緩和や、事業の周知が図られたことから、当初想定していたよりも多くの申請があった。また、市外からの転入者も多く、この事業により市外の方が越前市へ居住する動機付けとなっている。居住を定住へと進めるため、市の子育てや住宅取得支援などの制度を紹介したパンフレットを作成し、定住促進を図りたい。</li> <li>・コウノトリが舞う里づくり戦略は、①里地里山の保全再生、②環境調和型農業、③学びあいと交流の大きな方針を掲げ、長期的な視点での取り組みを実施している。具体的な取り組みとして「SATOYAMA親子レンジャー」や「ごはん塾」などの親子体験型プログラム等を充実させ積極的に実施した。これらの取り組みの成果を将来的に確実に繋げていくため、小中学校での環境教育とともに、若年層世代（特に20代～40代）における自然再生や生物多様性の大切さについての意識の醸成をさらに図っていく。</li> </ul>	達成度 4

内部評価		実践プログラム【数値目標】								
		指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)					
					H22	H23	H24	H25	H26	H27
	中心市街地歩行者数 (人)	1,282 (H25.4)	1,393	(25年3月に中心市街地活性化基本計画を改定し、歩行者の数値目標を変更した。)			1,560			
	中心市街地の居住施策に伴う人口増 (人)	0 (H25.4)	307	(25年3月に中心市街地活性化基本計画を改定し、居住人口の数値目標を変更した。)			98			
内部評価		実践プログラム【主な事業計画】								
		事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)						
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	中心市街地活性化事業 <再掲>	まちなか開業新規認定件数	7	7	7	4				
	公有地等購入支援事業	まちなか住宅用地および用途地域内(組合施行土地区画整理事業の保留地等)の購入資金利子補給制度の新規交付件数	8	8	13	20				
	まちづくり組織支援事業	空き家、空き店舗の橋渡し件数	12	29	13	8				
	景観まちづくり推進事業	街並み景観整備件数	9	9	9	15				
	民間優良共同住宅整備促進事業	整備戸数	0	25	0	0				
	まちなか住宅団地整備支援事業	中心市街地における住宅団地整備に対する補助			2	0				
	新婚夫婦家賃補助	申請件数	—	—	78	159				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第3章 快適で住みよいまちづくり  
第3節 うるおいのある住環境の創出

	施策名	成果・課題・対策	達成度
	(1) 良好な都市景観の形成	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25年度は6件、過年度と併せ合計で43件の修景整備が行われ、景観まちづくりが着実に進行しつつある。</li> <li>・24年度に都市景観大賞優秀賞を受賞した四町地区においては、受賞の効果もあって住民の景観形成への機運は盛上がり、25年度は四町地区が越前市初の景観形成地区に指定された。同地区においては、式典の開催や記念誌の発行など精力的な活動が行われた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五箇地区においては、5箇所の協定地区のうち修景助成期間が満了する地区が出てくる。よって、これまで育まれた地域主体の街並み景観の継承、並びに街並み景観を活かした地域まちづくり活動の継続とステップアップに向け、なお一層の働きかけが必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・26年度は、両地区における地域景観委員会との協働による景観まちづくりの更なるステップアップを目指す。特に、五箇地区においては市景観条例に基づく景観形成地区指定に向けた取組みを行う。</li> </ul>	4
内部評価	(2) 公園・緑地の整備と維持管理	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武生中央公園については、30年福井国体及びたけふ菊人形65周年に向けた再整備を視野に、市のセントラルパークとして再整備基本計画を策定するとともに、基本設計に着手した。</li> <li>・丹南圏域全体の総合的な公園である丹南総合公園の野球場と多目的グラウンド等、一部施設の供用開始が行われた。</li> <li>・市営の公園では、4公園の供用開始、1公園の供用開始区域の拡大を行い、市民の身近な憩い・レクリエーションの場の提供ができた。</li> <li>・街区公園76箇所のうち8公園において、指定管理者と地元との間で日常管理における協定を締結した。協定を締結した町内については、公園への関心が高まった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武生中央公園の再整備にあたっては、30年福井国体開催に向けた県内各市町におけるスポーツ施設改修時期の集中に伴う財源確保を含め、効率的な整備が要求される。</li> <li>・街区公園の住民管理にあたっては、町内によって地元管理の必要性に対する考え方に温度差があるため、理解を得にくい町内もある。</li> <li>・日常管理を地元主体で行うことで、公園への関心が深まる反面、樹木剪定等の要望が増え、指定管理費全体の削減には至らない。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コスト削減に向けた効果的な整備と事業費の平準化を図る。また、都市公園事業以外の事業活用による財源の確保と効率的な整備に努める。</li> <li>・指定管理者による地元説明を引き続き行い、身近な公園の地元管理への理解を深め協定締結を推進する。</li> </ul>	4
	(3) 良質な住宅の供給	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市営住宅西山団地については、老朽化した市営住宅を撤去し25年8月に用地返還が完了するとともに、市全体の老朽化した木造市営住宅の適正管理方針を定めた。また、市営住宅家賃については、催告通知後応答のない滞納者や、誓約が守られない分納誓約者に対して、連帯保証人への呼び出し通知を発送するとともに明渡しを促した結果、3人については、市営住宅を退去し、滞納額すべてを完納した。</li> <li>・民間建築物の耐震化については、耐震診断・補強プランの件数は24年度42件から25年度36件に減少したが、耐震改修工事補助は、市広報、チラシ、PR活動により24年度4件から25年度7件に増加した。</li> <li>・民間優良共同住宅の整備については、ハウスメーカーによる共同住宅の整備はあったが、補助対象外（工事施工者が市外業者）のため補助の申し込みはなかった。また、ハウスメーカーから新築物件の照会が数件あった（工事施工者が市外業者のため補助対象外）。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市営住宅の管理にあたっては、県外に転出する外国人滞納者や、債務に応じない連帯保証人が増えたことにより、徴収業務が増大した。離職者で言葉の通じない外国人の市営住宅の申し込みについては、入居後も他の入居者とのコミュニケーションを取ることが出来ず、生活習慣（ゴミ出し・騒音等）についても注意が必要となっている。</li> <li>・耐震化については、耐震改修の必要性・重要性を市民に認識してもらうことが重要である。また、耐震診断・補強プランを行った所有者への耐震改修工事へのきっかけ作りが必要である。</li> <li>・良質住宅の供給にあたり、定住人口の増加につながる家族向け住宅の整備が必要である。また、良質住宅の供給に向けた補助制度活用にあたっては工事施工者の要件緩和が必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市営住宅の管理については、初期段階での滞納整理、外国人及び分納誓約者に対する納付指導を強化するとともに、新規の外国人入居者に対する生活指導を徹底する。また、中心市街地における良質な住宅供給を図るため、借り上げ市営住宅の整備を進める。</li> <li>・民間建築物耐震化推進については、これまでのPR活動を堅持し、さらに防災安全課と連携しながら、市民の防災意識の高揚と木造住宅の耐震改修の促進を図っていく。また、耐震診断・補強プランを行った所有者への耐震改修工事への働きかけを行っていく。</li> <li>・良質住宅の供給にあたっては、制度活用促進に向けた現行補助要綱の見直しを行うとともに、引き続き補助制度のPR活動による事業者の掘り起こしを行う。現行補助制度を、家族向け住戸の整備が促進するように整備戸数要件を見直す。また工事施工者要件も見直し市外業者も対象にすることで制度の活用を図る。</li> </ul>	3

内部評価	(4) 上水道の整備	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第5次拡張事業と老朽管更新事業により、計画どおり管路の整備を行い、水道水の安定供給と災害に強い上水道の確保に努めた。</li> <li>・包括的民間委託契約を締結した水道施設運転管理業務と開閉栓・検針業務の円滑な業務引継を行うとともに、維持管理経費の削減を図った。</li> <li>・簡易水道統合整備事業について、計画どおり施設を整備し、水間地区簡易水道を上水道に統合した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水道水の安定供給を図るため、老朽化した水道管路網や浄水場施設の更新、耐震化を進めていく必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市経営健全化計画を着実に推進し、経営基盤の強化を図るとともに、老朽化施設の更新を計画的に進める。</li> </ul>	4
	(5) 下水道の整備	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市下水道整備基本構想に基づき汚水処理施設整備促進事業を計画的に推進した。</li> <li>・地元説明会で水洗化助成制度のPRなど水洗化促進を図り、接続数は24年度より増加した。</li> <li>・各処理施設は良好な維持管理により、放流水の排出基準に全て適合した。</li> <li>・老朽化した御清水幹線の長寿命化対策を計画的に推進した。</li> <li>・東部集中豪雨により被災した今立南部排水区雨水整備計画の策定に着手した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整備後長期経過した下水道施設が存在し、老朽化が進んでいる。</li> <li>・高齢者のみの世帯の増加や経済的な理由により、水洗化率が伸び悩んでいる。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家久浄化センター長寿命化計画に基づき計画的な施設の更新を行う。</li> <li>・家久処理区内の30年を経過した管路施設の調査を行い、26年度に長寿命化計画を策定する。</li> <li>・下水道管工事施行前の地元説明会で下水道の重要性や水洗化助成制度をPRすることにより、水洗化の促進に努める。</li> </ul>	3
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性	達成度
	第3節 うるおいのある住環境の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な都市景観の形成について、景観まちづくりは着実に進行し、昨年度に都市景観大賞優秀賞を受賞した四町地区が越前市初の景観形成地区に指定された。今後は、街並み景観を活かした地域まちづくり活動の継続とステップアップに向け、なお一層の働きかけを行う。</li> <li>・公園・緑地の整備については、丹南総合公園の一部供用開始をはじめ、4公園の供用開始、1公園の供用開始区域の拡大を行い、市民の身近な憩いの場、レクリエーションの場の拡大が図られたが、今後とも効果的・効率的な整備に努める。一方、身近な公園の地元管理の推進については、街区公園76箇所のうち8公園において、指定管理者と地元との間で日常管理における協定を締結した。今後は、指定管理者による地元説明を継続して実施し、身近な公園の地元管理への理解を深め協定締結を推進する。</li> <li>・良質な住宅の供給について、老朽化した市営住宅1団地の撤去、並びに用地返還が完了し、併せて市全体の老朽化した木造市営住宅の適正管理方針を定めた。また、市営住宅家賃については適正徴収に努めた。また、民間住宅の耐震診断・補強プランの件数は、24年度42件から25年度36件に減少したが、耐震改修工事補助は、市広報、チラシ、PR活動により24年度4件から25年度7件に増加した。今後は、これまでのPR活動を促進するとともに、防災安全課と連携しながら、市民の防災意識高揚と木造住宅の耐震改修の促進を図っていく。その他、中心市街地における居住促進、並びに良質な住宅供給を図るため、借り上げ市営住宅の整備を進める。</li> <li>・水道事業については、第5次拡張事業や老朽管更新事業、簡易水道統合整備事業により、水道水の安定供給の確保に努めた。また、水道施設運転管理業務の包括的民間委託を行い、維持管理経費の削減を図った。今後も水道水の安定供給を確保するため計画的な水道施設の維持管理・更新を行い、水道事業の経営基盤の強化に努める。</li> <li>・下水道事業については、市下水道基本構想に基づき公共下水道事業、浄化槽設置整備事業、農業集落配水事業を計画的に推進し、御清水川幹線の長寿命化対策も実施した。家久処理区の整備後30年以上経過した管路施設を26年度に調査し、施設の適正な維持管理に努める。また地元説明会において水洗化助成制度のPRや下水道の重要性を説明することにより、水洗化の促進を図る。</li> </ul>	4

		実践プログラム【数値目標】								
指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
内部評価	汚水処理人口普及率 (%)	66.1 (H18.4)	90.0	81.3	82.4	83.1	85.1			
	中心市街地への民間優良共同住宅、高齢者向け優良賃貸住宅、高齢者専用賃貸住宅の整備戸数 (戸)	0 (H18.4)	248	187	212	212	212			
	水洗化率(公共下水道) (%)	68.3 (H22.4)	85.0	68.3	75.5	76.9	78.7			
		実践プログラム【主な事業計画】								
事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)								
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
内部評価	景観まちづくり推進事業<再掲>	街並み景観整備件数<再掲>	9	9	9	15				
	公園整備事業	都市計画区域人口1人当たりの都市公園供用面積	21.24	21.38	21.38	22.52				
	公有地等購入支援事業<再掲>	まちなか住宅用地および用途地域内(組合施行土地区画整理事業の保留地等)の購入資金利子補給制度の新規交付件数<再掲>	8	8	13	20				
	高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業	計画戸数に対する整備率(131戸)	100.0	100.0	100.0	100.0				
	民間優良共同住宅整備促進事業<再掲>	整備件数/整備目標件数(113戸)	0	25	0	0				
	第5次拡張事業(配水本管費)<水道事業会計>	送配水管事業費(実績見込額) / 送配水管事業費(当初予定額) × 100	53.7	58.6	67.2	69.7				
	管渠築造事業(公共下水道+特定環境保全公共下水道)	面整備率(%) = 整備済面積(ha) / 全体計画面積(ha) × 100	70.8	71.6	72.5	74.9				
	浄化センター築造事業	放流水質(BOD) 13mg/L以下の維持	6.2	8.8	7.9	10.0				
	浄化槽設置整備事業	浄化槽設置整備事業における浄化槽設置基数	101	113	124	143				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第3章 快適で住みよいまちづくり

第4節 快適な交通体系の整備

	施策名	成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) 公共交通の整備	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民バス（福祉バス含む）の利用者については、対前年度比103.4%と23年度以降増加傾向が続いており、今後さらに26年4月のダイヤ・ルートの一部改正や、デマンド便の試験運行により利便性の向上に努めていきたい。また、市街地循環北・南ルートは対前年度比107.5%となっており、中心市街地在住者のバス利用が増加している。26年4月より停留所を増設し、さらなる利便性向上を図りたい。</li> <li>・福井鉄道福武線の利用者については、対前年度比105.8%と近年にない伸びとなっており、これまでの福井鉄道の地道な取組みやサポート団体を始めとした沿線市の乗る運動の成果であると考えている。</li> <li>・また、北府駅が国の登録文化財に指定されたことから、改修された車両工場も指定を受けることができるよう支援していきたい。併せて、1965年製で1989年までシュツットガルト市で路面電車として運行された車両の導入により、県外を含めた鉄道ファンや観光客にPRすることで利用者の増加を期待している。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民バスは、特に今立エリアで利用者数が落ち込んでいる。人口の減少や、利用者のタクシーやデイサービス利用等への移行などが原因として考えられる。</li> <li>・福武線については、改善はしているものの定期外の利用者数の伸びが低く、利用者数が安定しない原因と考えている。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民バスの今立エリアは、午後便がスクールバスとの併用ということもあり、抜本的なダイヤ・ルートの変更が困難な状況にある。引き続き利用促進の周知に努めたい。武生エリアの郊外路線の一部でも、利用者数が減少しており、26年4月のダイヤ・ルートの一部改正を機に、利用促進に努めたい。</li> <li>・福武線については、市民の公共交通機関利用に対する意識改革を進め利用者増を図るとともに、サポート団体と連携して北府駅でイベントを開催するなど、引き続き福武線の乗客数を増加させるため取組みを継続する。</li> </ul>	3
	(2) 北陸新幹線の整備促進	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心線測量の実施に向け、全町内で中心線測量実施の了解を得ることができ、ほぼ全ての地権者の同意を得た。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内における中心線測量の早期完了を目指す。</li> <li>・地元要望等への対応を図る。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心線測量の早期完了に向け、関係者に粘り強く対応を続ける。</li> <li>・地元要望については、鉄道・運輸機構に最大限の対応を求めるとともに、県が創設する事業推進のための補助金制度等を活用し対応したい。</li> </ul>	3
(3) 駐車場の整備		<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなか駐車場については、アスファルト舗装化によって利便性が向上し、車での来訪者に対する需要が高まり利用台数が増加した。</li> <li>・JR王子保駅並びにJR武生駅東の一般駐車場において、利用台数が増加した。また、19年度より稼働しているJR武生駅東のロックプレート式駐車場も、JR利用者に周知・普及されてきたことから、利用台数が増加した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地のまちなか駐車場は、無料駐車場としての周知度が低いため、道路案内看板の充実や、PR等の周知徹底をより行う必要がある。</li> <li>・JR王子保駅、JR武生駅東の一般駐車場並びにロックプレート式駐車場において、利用台数が増加しているが、今後も利便性を向上させ利用率向上に向けた整備等が必要がある。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地のまちなか駐車場は、来訪者に対する短時間無料駐車場としての周知度を上げるため、市やまちなかプラザホームページでのPR、周知看板の充実や、来街者の利用向上に向け取り組む。</li> <li>・市の広報やHP等で月極駐車場の募集を積極的に行うとともに、老朽化した施設の改修等により利用者の利便性を向上させ、なお一層の利用促進を図る。</li> </ul>	4
(4) 道路の整備と維持管理		<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25年8月23日に戸谷片屋線が全線開通した。</li> <li>・戸谷片屋線を広域農道まで延伸する戸谷片屋線の先線については、25年度最大の目標であった支障物件の移転交渉がまとまった。</li> <li>・安全安心な道路整備として、市道第3801号線等について歩道を整備した。</li> <li>・道路の維持管理にあたっては、巡視パトロール等による随時保守を実施した結果、事故の未然防止等適正な管理が行われた。</li> <li>・道路付属物（照明・標識・舗装・トンネル等）の点検、調査を実施して現状把握を行った。</li> <li>・橋長6m以上15m未満の橋梁については、橋梁の機能を維持し道路ネットワークの安全性、信頼性の確保と、長期的な更新・保守費用の低減を目的として、点検、調査を実施した。</li> <li>・25年7月29日から8月1日の豪雨により被災した道路施設8箇所については、迅速な対応により、交通を確保した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸谷片屋線の先線については、27年秋の供用開始を目指し、未買収用地の地権者に対し早急に合意を得なければならない。</li> <li>・道路付属物についても定期的な点検、調査が必要である。</li> <li>・橋長6m未満の橋梁についても、点検、調査が必要である。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戸谷片屋線の先線については、引き続き任意交渉を重ね同意を得る。</li> <li>・道路の維持管理にあたっては、計画的予防保全に努めるとともに、市民からの通報やパトロールによる危険箇所の迅速な対応に努める。</li> <li>・26年度に、橋長6m未満の橋梁についても、現状を把握するため調査点検を実施する。</li> </ul>	4

<p>内部評価</p>	<p>(5) 雪に強い道づくり</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>降雪時には、気象や積雪の情報を的確に収集し、市民生活や産業活動に支障をきたさないよう、道路除雪の実施に努めた。</li> <li>市道路無雪化事業整備計画に基づき、幹線道路を中心に、計画的な消雪施設の整備を実施した。</li> <li>除雪協力業者の除雪車両となる重機の購入もしくは更新に対し補助制度を整備した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路除雪については、除雪作業を行うオペレーターの高齢化が進んでおり、将来はオペレーター不足が危惧される。</li> <li>除雪機械購入補助制度のニーズが多いため拡充が必要である。</li> <li>道路の消雪施設の整備については、幹線道路を優先して整備しているが、生活道路の整備要望も多い。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>除雪については、リースの除雪車両台数を確保して除雪業者に貸与するとともに、除雪車両となる重機の購入もしくは更新に対する補助制度により、除雪能力体制維持に必要な除雪車両台数を確保する。</li> <li>緊急時における通行確保及び産業活動の維持確保を図るうえで事業効果が高い消雪設備の整備を市道路無雪化事業整備計画に基づき進めていく。また、生活道路においては、設備が必要な路線について、次期の市道路無雪化事業整備計画に位置付けを図るとともに、当面は既設井戸の余剰水量の範囲内で整備していく。</li> </ul>	<p>4</p>
<p>内部評価</p>	<p>政策名</p> <p>第4節 快適な交通体系の整備</p>	<p>成果・課題・今後の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民バス（福祉バス含む）については、対前年度比103.4%と増加傾向が続いており、今後さらに26年4月のダイヤ・ルートの一部改正などにより利便性の向上に努めていきたい。また、地域による増減がはっきりしてきた傾向があり、それを分析することで利便性の向上に活かしたい。</li> <li>福井鉄道福武線については、対前年度比105.8%と近年にない伸びとなっており、これまでの福井鉄道の地道な取組みやサポート団体を始めとした沿線市の乗る運動の成果であると考えている。また、北府駅が国の登録文化財に指定されたことから、改築された車両工場等も含め、鉄道ファンや観光客にPRすることで利用者の増加を期待している。</li> <li>北陸新幹線については、中心線測量の実施に向け、沿線町内に対し説明を行ってきたところ、全町内で中心線測量実施の了解を得ることができ、ほぼ全ての地権者の同意を得た。今後は、中心線測量の早期完了に向け、関係者に粘り強く対応を続けるとともに、地元要望についても、鉄道・運輸機構に対応を求める一方、県が創設する事業推進のための補助金制度等を活用し対応したい。</li> <li>駐車場の整備・管理については、まちなか駐車場がアスファルト舗装化によって利便性が向上したことで利用台数が増加し、結果交流人口の増加に寄与した。また、JR王子保駅、JR武生駅東の一般駐車場、ならびにJR武生駅東のロックプレート式駐車場についても、JR利用者への周知・普及等により利用台数が増加した。今後、まちなか駐車場については、市やまちなかプラザホームページでのPR、周知看板の充実にも努め、来街者の利用向上を図る。また、その他の駐車場においても、市の広報やHP等で月極駐車場の募集を積極的に行なうとともに、老朽化した施設の改修等により利用者の利便性を向上させ、なお一層の利用促進を図る。</li> <li>道路の整備については、8月に戸谷片屋線が全線開通した。また、戸谷片屋線の先線についても、25年度大きな支障物件の移転交渉が成立した。今後、戸谷片屋線の先線については、引き続き用地の取得に努め、27年秋の広域農道までの開通を目指す。一方、道路の維持管理については、巡視パトロールと随時保守を実施した結果、事故の未然防止等適正な管理が行われた。また、道路付属物（照明・標識・舗装・トンネル等）の点検、調査を実施して現状把握を行うとともに、橋長6m以上15m未満の橋梁についても点検、調査を実施した。今後の道路の維持管理にあたっては、計画的予防保全に努めるとともに、市民からの通報やパトロールによる危険箇所の迅速な対応に努める。</li> <li>雪に強い道づくりについては、幹線道路の消雪施設を市道路無雪化事業整備計画に基づき計画的整備を進めるとともに、除雪協力業者の除雪車両となる重機の購入もしくは更新に対し補助制度を整備した。今後とも、事業効果の高い幹線道路、並びに一定の生活道路について消雪施設の整備を図るとともに、除雪体制の維持にあたっては、除雪機械の保有台数を確保し冬期間の通行確保を図っていく。</li> </ul>	<p>達成度</p> <p>4</p>



実践プログラム【数値目標】										
指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
内部評価	市民バス利用者数（福祉バス含む）＜再掲＞（人）	85,760 (H18)	130,000	90,449	91,394	94,212	97,290			
	福井鉄道福武線利用者数＜再掲＞（人）	1,639,504 (H19)	1,944,000	1,730,919	1,758,736	1,778,348	1,882,300			
	市道改良率（%）	68.9 (H18.4)	71.0	70.0	70.6	70.9	70.9			
	都市計画道路（街路）整備率（%）	68.4 (H18.4)	75.0	72.3	73.8	74.2	74.3			
	消雪施設整備路線延長（km）	41.3 (H18.4)	60.0	47.5	49.4	51.2	54.6			
	市道歩道設置延長（km）	106.9 (H18.4)	115.0	110.4	112.5	113.9	114.4			
実践プログラム【主な事業計画】										
事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)								
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
中心市街地駐車場整備事業	中心市街地駐車場整備率 整備箇所数/整備計画箇所数	66.0	66.0	66.0	66.0					
地方特定道路整備事業	整備率（事業費換算）	41.57	58.89	65.23	—	（地方特定事業廃止）				
単独道路整備事業	整備延長（m）	（単独道路整備事業新規追加）				400				
戸谷片屋線整備事業	整備済延長（事業費換算） （m）	591	823	964	1,060					
補助道路整備事業	整備済延長（事業費換算） （Km）	—	0.74	1.56	2.56					
雪寒地域道路整備事業	整備率（市無雪化計画） 整備延長/整備計画延長	23.7	32.7	41.1	56.98					
街路整備事業	整備済延長（事業費換算）	366	550	580	（事業完了）					

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第3章 快適で住みよいまちづくり  
第5節 環境にやさしいまちづくり

施策名		成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) 持続可能な循環型社会の推進	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化防止対策事業については、電気自動車導入促進事業補助金の補助件数が14件、住宅用太陽光発電設備の普及については、省エネ設備等と組み合わせ県内トップクラスの補助内容に拡充したエコ・ニコニコ補助金制度（1kW当たり36,000円）により、補助件数が117件であった。</li> <li>市公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業は、25年度に1施設の応募があったことから、6施設の総発電容量は243kW（住宅約50軒分に相当する太陽光発電設備）となった。</li> <li>市所有の街路灯などのLED化事業については、2,351灯の交換工事を行い、CO2の排出量は10年間で3,300t削減されるとともに、8,030万円の経費節減効果を見込んでいる。また、町内会が所有する防犯灯については、25年度からLED灯への交換及び新設に対し、1基あたり5,000円の補助を開始した結果、389基の補助を行った。</li> <li>ごみ減量化推進事業については、集団回収を奨励し、新規が4団体、実施回数の増加団体が19団体あったほか、雑がみ救出作戦や古衣類の集団回収及びダンボールコンポストについても出前講座で啓発するなど取組みを強化した。また、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律が25年4月に施行されたことを受け、貴金属やレアメタル等の資源確保と廃棄物の減量化のため、25年6月に本庁舎と総合支所、11月には各地区公民館などに回収ボックスを設置し、携帯電話・デジタルカメラ・電卓等の使用済小型電子機器等を約1,000kg回収した。</li> <li>環境教育事業については、保育園・幼稚園を対象にした環境学習会を目標通り全保育園・幼稚園で行い、延べ50回1856人が参加した。また、小学5年生を対象にCO2CO2キッズ大作戦を実施し、594人（約73%）の参加があった。市環境出前講座は20回実施し、参加者は520人、エコビレッジ交流センター主催講座も32回開催し、参加者は500人だった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電気自動車の普及には、充電設備のインフラ整備が不可欠である。</li> <li>住宅用太陽光発電をさらに普及する必要がある。</li> <li>「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」をうけ、収集体制の整備及び住民への周知を強化する必要がある。</li> <li>町内会が所有する防犯灯について、1基あたり5,000円の補助制度で全町内の防犯灯をLEDに切り換えるには、かなりの年数がかかる。（町内所有の防犯灯は約11,000灯）</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>充電設備のインフラ整備については、国の次世代自動車充電インフラ整備促進事業を活用し、市の2施設において電気自動車用急速充電設備を設置するとともに、民間施設での整備促進を図るため、市独自の急速充電設備導入補助金を創設し、電気自動車の一層の普及を図っていく。</li> <li>市の住宅用太陽光発電設置に係る補助制度の周知を図り、普及に努める。</li> <li>26年度においては、家庭から出る粗大ごみのうち、金属類や電気製品の回収については拠点回収所を設けるなど、新しい取組みを展開していく。</li> <li>町内会が所有する全防犯灯の早期のLED化を推進するために、26年度からLED防犯灯のリース方式を推進する。</li> </ul>	4
	(2) 望ましい環境の保全・創造	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活環境の保全事業については、大気観測局や河川の水質調査により環境監視を行ったところ、概ね環境基準に適合していた。</li> <li>公害防止協定事業所のうち38事業所で46回（水質41回、大気0回、悪臭5回）の立入及び聞き取り調査を実施した。</li> <li>環境美化推進事業については、河川一斉清掃、雪どけクリーン作戦を行うとともに、不法投棄の防止及びその啓発、不法投棄物の早期発見等を目的に監視パトロール業務を行い、不法投棄抑制に努めた。野焼きや空地管理への苦情が多く寄せられており、今後とも環境美化への周知啓発に努めている。また、県不法投棄防止連絡会の事業として、向新保町において、大量の廃棄物を回収した。</li> <li>環境公害苦情件数が、24年度比約30%減少した。</li> <li>環境マネジメントシステム推進事業については、ESえちぜん認証機構により更新、確認、維持審査を行い事業所への指導に当たった。</li> <li>福井県で初めてPM2.5注意喚起がなされ、迅速な周知活動に当たった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公害防止協定事業の立入及び聞き取り調査において、協定書に基づく指導を4件（水質4件）行った。（昨年度比2件減）</li> <li>廃棄物の不法投棄や野焼きが減少傾向ではあるが、後を絶たない。（不法投棄：24年度36件、25年度18件）（野焼き：24年度25件、25年度19件）</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公害防止協定基準不適合事業所の迅速な指導を徹底する。</li> <li>不法投棄等の防止についての市民への啓発に努める。</li> </ul>	4
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性	達成度
	第5節 環境にやさしいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化防止対策事業については、市所有の街路灯などのLED化事業に取り組んだほか、町内会が所有する防犯灯のLED灯への交換及び新設に対し、1基あたり5,000円の補助を行った。さらに、26年度からは町内会所有の防犯灯のリース方式によるLED化を推進することで、さらなるCO2の排出量削減を図る。</li> <li>ごみ減量化推進事業については、集団回収を奨励し、雑がみや古衣類の集団回収についても出前講座で啓発するなど取組みを強化した。また、26年度においては、家庭から出る粗大ごみのうち、金属類や電気製品の回収については拠点回収所を設けるなど、新しい取組みを展開していく。</li> <li>環境美化推進事業については、不法投棄物の監視パトロールを行い、不法投棄抑制に取り組んだ。一方、野焼きや空地管理への苦情が多く寄せられており、今後とも環境美化への周知啓発に努めている。</li> </ul>	4

実践プログラム【数値目標】										
指標名	基準値	目標値	達成状況 (年度末見込み)							
	(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
内部評価	ごみの資源化率 (%)	23.3 (H17)	30.1	26.2	25.7	25.1	24.4			
	ごみ排出量(g/1日/1人)	828 (H17)	728	741	757	789	797			
	生活系ごみ排出量(県下9市の生活系ごみ排出量の順位)(位)	1 (H22)	1	1	1	1	1			
	市民1人当たりの年間CO2排出量(t-CO2)	1.93 (H15)	1.65	1.94	1.91	1.90	1.90			
	E S えちぜん認証事業所数(累計)(事業所)	45 (H18)	75	70	70	72	72			
	家庭用太陽光発電設置戸数(補助件数累計)(戸)	286 (H22)	900	286	433	561	678			
	電気自動車普及台数(補助台数及び市導入台数の累計)(台)	0 (H22)	48	0	11	21	35			
	里山の森林づくりボランティア参加人数(人)	190 (H16)	210	200	185	201	200			
実践プログラム【主な事業計画】										
事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)								
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
内部評価	古紙集団回収量	資源回収量	3,247	3,272	3,250	3,050				
	住宅太陽光発電システム導入補助件数	年間100件導入促進	91	147	132	117				
	南越清掃組合分担金	市ごみの排出量	23,215	23,690	24,351	24,522				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第4章 安全で安心なまちづくり  
第1節 地域が支える防災体制の充実

	施策名	成果・課題・対策	達成度
	(1) 地域防災力の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内集会所の耐震化については、24年度から補助制度を開始して、これまでに12集会所が耐震診断を実施し、そのうち1件が補強工事を行った。</li> <li>・自主防災組織の強化については、避難マニュアル・防災マップの全町内での作成を目指し、地区や町内で説明会を開催した。自主防災組織の役員と市職員の協働により、115町内が完成し、現在、125町内が着手している。</li> <li>・防災意識の向上については、自主防災組織リーダー育成研修会（テーマ：避難所運営、3回実施、延べ433人参加）や市政出前講座を通じて、自助・共助の重要性等について周知を図った。さらに、市広報紙や丹南ケーブルテレビにより、防災意識の啓発を図った。</li> <li>・防災土育成事業については、地域との協働による災害に強いまちづくりを推進していくため、防災士を7人育成した。</li> <li>・要配慮者対策については、6月に自主防災組織リーダー育成研修会等で、区長や民生委員に登録台帳の見直しを依頼した。修正依頼のあった台帳については順次修正し、9月に修正後の台帳を改めて配布した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内集会所の耐震診断については、まだ実施町内が少ない。（対象件数59件中12件実施）</li> <li>・町内集会所の耐震工事については、町内会の費用負担が大きいためなかなか進まない。（耐震診断実施12件中1件実施）</li> <li>・避難マニュアル・防災マップ作成の未着手町内が残っている。</li> <li>・防災意識の向上のため、防災リーダーの育成が必要である。</li> <li>・地域の防災関係者（区長、地区安全防災部役員等）の交代により防災力が低下している。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内集会所の耐震化については、耐震診断等の未実施町内に継続して診断や補強工事を働きかけるとともに、町内集会所に対する全体的な補助制度の見直しを検討する。</li> <li>・避難マニュアル・防災マップの作成については、未着手町内で説明会を開催し、引き続き取り組みを推進していく。</li> <li>・防災土育成事業については、引き続き防災士の養成を図るとともに、養成した防災士に、市が主催する事業等に協力してもらうなど、防災コーディネーターとしての育成を図る。</li> <li>・防災意識については、自主防災組織リーダー育成研修会や出前講座の継続的な開催により、住民の意識向上を図る。防災訓練や研修会等への積極的な参加を呼びかけるなど、自助、共助による災害に強いまちづくりを推進していく。</li> </ul>	3
内部評価	(2) 危機管理体制の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市地域防災計画（原子力災害対策編）策定については、市の原子力災害対策の基本となるものであり、国の防災指針及び県の地域防災計画（原子力災害対策編）に沿って、市防災会議、専門部会、作業部会、策定準備会議を随時開催し、市地域防災計画（原子力災害対策編）等を25年12月24日に策定した。その後、26年3月末に開催した市防災会議において、26年1月の国の防災基本計画の修正及び26年3月の県の地域防災計画（原子力災害対策編）の改定に伴う改定を行った。</li> <li>・安定ヨウ素剤の配置については、26年3月末に県が国の新たな方針に基づき住民の一回分を市に配布したため、当面、広域避難所である16小学校及び1中学校に仮配置した。</li> <li>・原子力防災訓練については、25年6月16日の県原子力防災総合訓練に併せて、市の独自訓練として、市災害対策本部や地区拠点基地の設置・運営・情報伝達訓練を実施した。</li> <li>・避難場所の早期開設及び運営が円滑に行えるよう、避難場所の良好な生活環境を確保するための運営基準や、その取組み方法などを記載した避難場所開設・運営等手順書を26年3月に作成した。</li> <li>・災害に向けた初動体制づくりについては、各課の防災マニュアルを見直しチェックリスト化し、災害発生時に迅速に対応できる体制づくりに取り組んだ。</li> <li>・避難所における公衆衛生の向上と避難生活における市民の精神的負担の軽減を図るため、避難所における理容・美容サービス業務の提供に関する協定を3民間団体と締結し、災害時の協力体制を強化した。</li> <li>・良好な広域避難場所の開設運営のため、災害対策基本法改正に基づき、備蓄品として食物アレルギー対策用のアルファ米、牛乳アレルギー対応ミルク、生理用品、乳幼児・高齢者用おむつ等を12月補正予算において前倒し整備した。</li> <li>・25年7月に発生した大雨では、連続雨量が都辺町で226ミリ、吉野瀬川の上太田町で氾濫危険水位を超える3.34メートルを記録する大雨に見舞われ、吉野瀬川流域の町内、白山地区の安養寺町を除く全域、坂口地区の全域、4,478世帯・約1万3千人に避難勧告を発令するとともに、広域避難場所を開設し避難者の受入を行った。また、9月16日の台風18号では、気象庁が、福井県に大雨特別警報を発令した。市では直ちに災害対策本部を設置し、市内全域に広域避難場所を開設するとともに、吉野瀬川流域等の3,980世帯、約11,000人に避難勧告を発令し、全庁体制で警戒にあたった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災計画（原子力災害対策編）の修正（安定ヨウ素剤の配布・服用方法、広域避難の際の避難ルートの位置づけ）が必要である。</li> <li>・原子力災害を想定した防災訓練の実施が必要である。</li> <li>・住民避難、災害時要援護者の避難支援、避難場所の開設・運営等を含めた実践対応訓練の実施が必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市地域防災計画（原子力災害対策編）の改定については、国の指針や県地域防災計画（原子力災害対策編）の改定内容を速やかに反映する。</li> <li>・原子力防災訓練については、市地域防災計画（原子力災害対策編）に基づく訓練を県に併せ実施するため、県に対して引き続き、原子力防災訓練の早期実施を要望する。</li> <li>・実践対応訓練については、浸水災害や土砂災害を想定し、避難場所開設・運営等を中心とした市総合防災訓練を実施する。</li> </ul>	4

内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性								達成度
	第1節 地域が支える防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内集会場への支援については、耐震化を含めた全体的な補助制度の見直しを検討するとともに、補助の有効的な活用について周知に努める。</li> <li>・自主防災組織の育成強化については、避難マニュアル・防災マップの全町内での作成を目指し、地区や町内で説明会を開催した結果、自主防災組織の役員と市職員の協働により、115町内が完成し、現在、125町内が着手している。今後も引き続き、未着手町内で説明会を開催し、取組みを推進していく。</li> <li>・防災士育成事業については、地域との協働による災害に強いまちづくりを推進していくため、防災士を7人育成した。今後は、引き続き防災士の養成を図るとともに、養成した防災士に、市が主催する事業等に協力してもらうなど、防災コーディネーターとしての育成を図る。</li> <li>・市地域防災計画（原子力災害対策編）策定については、越前市の原子力災害対策の基本となるものであり、国の指針及び県の地域防災計画（原子力災害対策編）に沿って、市防災会議、専門部会、作業部会、策定準備会議を随時開催し、市地域防災計画（原子力災害対策編）等を25年12月24日に策定した。その後、26年3月末に開催した市防災会議において、26年1月の国の防災基本計画の修正及び26年3月の県の地域防災計画（原子力災害対策編）の改定に伴う改定を行った。今後は、国の指針や県地域防災計画（原子力災害対策編）の改定内容を速やかに反映する。</li> <li>・安定ヨウ素剤の配置については、26年3月末に県が国の新たな方針に基づき住民の一回分を市に配布したため、当面、広域避難所である16小学校及び1中学校に仮配置した。</li> <li>・原子力防災訓練については、25年6月16日の県原子力防災総合訓練に併せて、市の独自訓練として、市災害対策本部や地区拠点基地の設置・運営・情報伝達訓練を実施した。</li> <li>・避難場所の早期開設及び運営が円滑に行えるよう、避難場所の良好な生活環境を確保するための運営基準や、その取組み方法を記載した避難場所開設・運営等手順書を26年3月に作成した。</li> <li>・災害に向けた初動体制づくりについては、各課の防災マニュアルを見直しチェックリスト化し、災害発生時に迅速に対応できる体制づくりに取り組んだ。</li> <li>・良好な広域避難場所の開設運営のため、災害対策基本法改正に基づき、備蓄品として食物アレルギー対策用のアルファ米、牛乳アレルギー対応ミルク、生理用品、乳幼児・高齢者用おむつ等を12月補正予算において前倒し整備した。</li> <li>・災害時の応援協定を、3民間団体と締結し、災害時の協力体制を強化した。</li> </ul>	4							
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)						
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
自主防災組織リーダー育成研修会参加者数(累計)(人)	0 (H17)	3,800	1,680	2,040	2,440	2,873				
防災訓練の実施地区数(地区)	10 (H18.11)	17	17	17	17	17				
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
	地域防災対策事業	町内ごとの防災マップ、避難マニュアルづくり	2	34	117	240				
	防災行政無線管理事業	デジタル無線機の導入	—	—	80	80				
	木造住宅耐震診断促進事業	診断件数(延件数)	120	148	168	186				
木造住宅耐震改修促進事業	改修件数/改修目標件数(3ヵ年で42件)	22	27	31	38					
コミュニティ会館耐震化促進事業	耐震診断件数	—	—	8	4					

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第4章 安全で安心なまちづくり  
第2節 郷土を守る治山・治水対策の充実

施策名		成果・課題・対策							達成度
内部評価	(1) 郷土を守る治山・治水対策の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>吉野瀬川ダム事業に伴う旧市土地開発公社所有地の売却が完了した。</li> <li>尼寺川樋門工事に着手した。</li> <li>市東部集中豪雨対策については、災害復旧の範囲までは県、それ以外の拡張・改良等は市とする役割分担を決定した。</li> <li>24年度に引き続き、災害復旧支援会議を開催（計10回開催）し、計画的に復旧復興を進めた。</li> <li>小規模荒廃地治山事業を赤坂町地係で実施し、森林の保全、土砂の流出の防止に努めた。</li> <li>県営治山事業については、地元要望の取りまとめ及び同意を得る作業を行った。</li> <li>3度にわたる豪雨により、農林施設の122箇所が被災したため、補正予算を組むなど早急な対応により、次期耕作には支障のないまでに復旧した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>吉野瀬川ダムについては、相続等の理由から用地取得に至っていない地権者がいる。</li> <li>吉野瀬川放水路整備事業に伴う用水の付け替えについて、地元同意が取れていない。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>吉野瀬川ダムで同意が得られるよう引き続き説明を行う。</li> <li>吉野瀬川放水路整備事業に伴う用水の付け替えについては、ポンプ圧送で同意を得られるようにする。</li> </ul>							4
	内部評価	第2節 郷土を守る治山・治水対策の充実	<p>成果・課題・今後の方向性</p> <p>吉野瀬川ダムについては、用地取得が完了していない地権者に対し、ダム事務所とともに引き続き丁寧な説明を行い早期の事業着手を目指す。一方、吉野瀬川放水路については、28年度の機能発揮に向け順次県と連携しながら整備を進める。</p> <p>市東部集中豪雨対策については、県・市の役割分担が決定し、それぞれの役割に応じて対策が進行した。ただし、岡本ダムの治水ダム化については、利水組合への支援が必要であり、このことについて関係部局と連携しながら対応策を検討する。</p>						
内部評価	実践プログラム【数値目標】								
	指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)					
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	河川整備延長（小規模）（m）	0 (H18)	2,500	1,382	1,701	1,892	2,314		
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】								
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)						
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	吉野瀬川ダム建設関連事業	進捗率（県事業費に係る当該年度までの事業費／総事業費）	52.5	53.6	55.0	57.5			
吉野瀬川河川改修事業	進捗率（県事業費に係る当該年度までの事業費／総事業費）	19.8	23.0	26.0	30.9				
土砂災害防止事業	砂防指定箇所数	0	0	0	0				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第4章 安全で安心なまちづくり  
第3節 地域ぐるみの防犯対策の充実

施策名		成果・課題・対策							達成度	
内部評価	(1) 子どもの安全・安心の確保	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの見守り活動については、警察署や自治振興会、PTAなどと連携し、活動を推進した。</li> <li>防犯環境の整備については、通学路用防犯灯の新規整備や維持管理を行い、防犯環境の整備に努めた。</li> <li>防犯環境の整備に伴う管理費や環境負荷の軽減を図るため、市が新規に設置する通学路用防犯灯については、LEDを採用するとともに、既存の防犯灯をLEDに更新した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを取り巻く環境の悪化により、犯罪に巻き込まれる危険がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの見守り活動については、関係機関や団体との連携を強化し、子どもの安全を地域全体で見守る環境づくりを進める。</li> </ul>							3	
	(2) 地域防犯活動の推進	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>警察・防犯隊等関係団体と連携する中、防犯パトロールの強化、振り込め詐欺等に対する防犯対策として、警察・防犯隊と協働でJR武生駅や市内の量販店などでチラシの配布及び呼びかけの広報活動などを行い、防犯意識を高めた。</li> <li>特に25年度は年金支給日に合わせて振り込め詐欺防止広報活動や、9月～12月に警察所管団体と連携し自転車盗難防止パトロールを実施し、防犯意識を高めた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>車上荒らしや振り込め詐欺、空き巣、自転車盗難、特に万引きなどの事件は依然として発生しているため、事件発生を減らす対策が必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防犯隊各支隊にさらなる活動強化を呼びかけるとともに、警察・自治振興会等の地域の防犯団体等と連携を図る中、犯罪の抑止・防犯意識の向上に努め、犯罪に強いまちづくりを推進する。</li> </ul>							3	
政策名		成果・課題・今後の方向性							達成度	
内部評価	第3節 地域ぐるみの防犯対策の充実	<p>子どもの安全・安心の確保については、警察署や自治振興会、PTAなどと連携し、子どもの見守り活動を推進するとともに、通学路用防犯灯の新規整備やLEDへの更新などの管理費や環境負荷の軽減を図り、防犯環境の整備に努めた。今後も関係機関や団体との連携を強化し、子どもの安全を地域全体で見守る環境づくりを進める。</p> <p>地域防犯活動については、警察や防犯隊等関係団体と連携して、防犯パトロールの強化や広報活動など防犯対策の強化を図ったが、残念ながら、25年度においては刑法犯認知件数が上昇し、依然として車上荒らしや振り込め詐欺、空き巣、自転車窃盗、万引きなどの事件が発生している。今後も、防犯隊各支隊にさらなる活動強化を呼びかけるとともに、警察・自治振興会等の地域の防犯団体等と連携を図る中、犯罪の抑止・防犯意識の向上に努め、犯罪に強いまちづくりを推進する。</p>							3	
		実践プログラム【数値目標】								
内部評価	指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)						
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	自主防犯パトロール (青色回転灯装備)車の 2台以上の保有地区 数(地区)	12 (H23)	17	12	12	13	14			
	刑法犯認知件数(件)	450 (H23)	350	519	450	431	447			
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
	防犯対策事業	市内の刑法犯認知件数	519	450	431	447				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第4章 安全で安心なまちづくり  
第4節 消防・救急体制の充実

内部評価		施策名	成果・課題・対策	達成度					
内部評価	(1) 消防・救急体制の充実		<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>消防力の充実・強化については、消防ポンプ自動車の更新整備や、消防団ポンプ車の分散配置、消防資機材、安全装備品等の整備を進めるとともに、地域防災力の要となる消防団員についても、全国的に団員の減少傾向にあるなか、現数を維持しながら、各種教育訓練を積極的に実施し、消防力の充実・強化を図った。</li> <li>救急・救助体制の充実については、救急救命士の養成や高規格救急車の更新整備の他、応急手当普及啓発では、AED講習などを含めた普通救命講習会を通じ、救命処置ができる市民の確保を図った。また、救急隊員、救助隊員の資質や技術向上のため、各種訓練を積極的に実施した。</li> <li>災害対応については、9月16日に大雨特別警報が発令されるなど、大雨による水防活動などの災害対応のため、計4回警防本部を設置して、市の災害対策本部と連携を取りながら、職員延べ189人、消防団員68人が出動し、被害の防止・軽減に努めた。</li> <li>火災予防対策の推進については、出前講座による防火講習会や一般家庭の防火診断を通じ、市民の防火意識の高揚を図るとともに、事業所の各種立入検査を積極的に実施し、防火安全対策を推進した。住宅用火災警報器の普及については、未設置世帯へ設置促進の通知文書を送付し設置率の向上に努めた。さらに、防火豆まき、防火ポスターコンクール及び防災ふれあいプラザ等により、幼・少年消防クラブの育成を推進した。特に、火災発生が多くなる冬期には、高齢者世帯など災害弱者を中心に巡回・家庭訪問を実施した。</li> </ul> <p><b>【課題及び対策】</b></p> <p>消防団員について、社会構造の変化により今後その確保が困難となることが予想されるので、団員数の確保に向けた取組みを強化するとともに、消防団支援法の趣旨に基づき組織の強化、装備の充実を図る。その他、今後も引き続き、市民の安心と安全の確保のため、消防・救急体制の充実に向け、各推進事業を積極的に行う。</p>	4					
内部評価		政策名	成果・課題・今後の方向性	達成度					
内部評価	第4節 消防・救急体制の充実		<p>自然災害や地域社会の変化による災害の複雑多様化、大規模化に対応し、市民の生命、身体及び財産を火災や地震等のあらゆる災害から守るため、消防車両や資機材等などの適切な更新整備を進めるとともに、地域防災力の要となる消防団員についても、全国的に団員の減少傾向にあるなか、現数を維持しながら、各種教育訓練を積極的に実施し、消防力の充実・強化を図った。</p> <p>また、救急救命士の養成や救急隊・救助隊の各種訓練の実施、市民に対する普通救命講習会の開催など、救急・救助体制の充実に取り組むとともに、市内全域を対象に住宅用火災警報器の設置状況の調査を行い、未設置世帯への普及啓発に努めるなど、火災予防対策に取り組んだ。</p> <p>災害対応については、9月16日に大雨特別警報が発令されるなど、大雨による水防活動などの災害対応のため、計4回警防本部を設置して、市の災害対策本部と連携を取りながら、職員延べ189人、消防団員68人が出動し、被害の防止・軽減に努めた。</p> <p>今後も、消防力及び救急・救助体制の充実・強化を図る一方、市民の防火意識の高揚をはじめとする火災予防対策を推進するとともに、地震、水害等の災害への対策を強化し、市民生活の安心と安全の確保に努める。</p>	4					
内部評価									
実践プログラム【数値目標】									
指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)						
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
普通救命講習会の修了者数(延べ数)	837 (H19)	10,000	3,554	4,608	5,587	6,287			
防火講習会等の開催回数(年間)	278 (H17)	540	540	624	667	651			
内部評価									
実践プログラム【主な事業計画】									
事業名	指標名	達成状況 (年度末見込み)							
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
火災予防対策推進事業	立入検査等件数 (防火対象物立入検査、危険物施設立入検査、一般家庭防火診断)	2,351	1,544	2,269	3,039				
火災予防対策推進事業	住宅用火災警報器の設置率 設置世帯数/調査済世帯数 (空き家、不在世帯を除く)	42.00	89.40	91.40	92.50				



平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第4章 安全で安心なまちづくり

第5節 暮らしの安全の向上

	施策名	成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) 消費者行政の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑多様化する消費者からの相談に迅速、的確に対応するため、相談員を3人体制とするとともに、消費者相談員法律アドバイザーを2人増員し4人とした。</li> <li>・出前講座の未実施の団体や地区敬老会へのチラシ配りに積極的に取り組んだ結果、回数・受講者ともに目標を大幅に上回った。また、出前講座において消費者グループ連絡協議会のメンバーが、最新の被害の手口をパネルシアターで啓発促進に努めた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット関連の相談が、若者に限らず高齢者にも及んできているほか、ファンド型投資商品など利殖商法に係る相談では、一件当たりの平均被害額が高額となっている。</li> <li>・消費者サポーターのうち大半の方に、啓発活動を行えるだけのノウハウが整っていない。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域においても消費者教育の出前講座を推進し、安全で安心な消費生活の実現を目指すため、消費者サポーターを啓発活動のメンバーとして養成する。</li> </ul>	4
	(2) 交通安全の推進	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・25年の人身事故件数・死者数・傷者数はいずれも24年と比較し、減少した。(死者数24年4人・25年3人、傷者数は9年連続減少)</li> <li>・通学路の安全確保のため、交通指導員を10人増員し街頭指導を強化することで、安全確保を図った。</li> <li>・通学路における、危険歩道箇所へのグリーンベルト(5箇所)を整備し、通学路の安全確保を図った。</li> <li>・警察と共同で市民バスの乗客に反射材の貼付など交通安全啓発活動を実施し、高齢者等の交通安全啓発を行った。</li> <li>・自転車利用者への交通ルール・マナーの周知徹底のため、中学校・高校における通学用の自転車安全点検を行い、自転車の安全性の確保を図った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間・薄暮時における、高齢者の死亡事故が多発している。</li> <li>・通学時の安全確保が必要である。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全活動の充実を図るため、交通指導員の定員である70人を確保する。(実員54人)</li> <li>・子どもと高齢者の交通事故防止のため、交通安全教室を積極的に開催するとともに、高齢者の運転免許自主返納を推進する。</li> <li>・夜間・薄暮時に外出する場合は、反射材をつけるなど高齢者と子どもの交通事故防止対策を行う。</li> </ul>	3
	(3) 生活関連施設の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・斎場施設については、施設の老朽化による想定外の修繕が数箇所発生したが、早急に修繕を行った。</li> <li>・鴨谷霊苑・佐山鹿ノ楽墓園については、使用許可後3年以上の未建墓者に対して書面や電話等により、建立又は返還の意志を確認し、減少に結びつけた。</li> <li>・公衆浴場については、浴場組合が祝日等(こどもの日・敬老の日・みどりの日・終戦記念日・文化の日)に実施した幼児・児童・老人の入浴無料開放事業やシャンプー・ボディソープの無料提供等に対して補助を行い、市民の公衆浴場利用の機会の確保と経営の安定に努めた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・斎場施設については、施設の老朽化、特に斎場入口の市道、駐車場の傷みが激しい。</li> <li>・鴨谷霊苑・佐山鹿ノ楽墓園については、未建墓者に対して書面や電話等の対策を取ったが、まだ建立しない未建墓地がある。また、放置墳墓については、今後も増加傾向にある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・斎場施設については、年次計画に基づく火葬設備の修繕と、道路・駐車場を含めた斎場施設の整備計画の策定を行う。また、26年度から新しい指定管理者となるため、引き続き安定した火葬業務が遂行できるよう安全管理マニュアルの徹底順守の指導に努める。</li> <li>・鴨谷霊苑・佐山鹿ノ楽墓園については、未建墓者に対する建立の催促及び返還の指導強化を行う。通知等による墓地使用权承継の催促と使用料納付の周知徹底を行う。</li> </ul>	3
	(4) 水資源の確保	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野川水資源保全活用連絡協議会と、環境保全や有効活用の啓発を図るため、ダム上流域の環境整備及び耕谷ダム等の施設見学会を実施した。</li> <li>・水資源の有効利用事業として、消雪管路の整備や小水力発電の取組みを進めた。小水力発電については、26年度供給開始予定である。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日野川水資源の広域的な有効活用のさらなる推進と啓発を図る必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消雪事業への活用や小水力発電事業に継続して取り組む。</li> <li>・ダム上流域の環境保全の取組みを充実させるとともに、26年度供給開始予定の小水力発電施設を秋のダム等施設見学会に組み込むなど、有効活用のさらなる啓発を図る。</li> </ul>	3

内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性								達成度
		第5節 暮らしの安全の向上	<p>消費者行政については、複雑多様化する消費者からの相談に迅速、的確に対応するため、相談員や消費者相談員法律アドバイザーを増員したが、さらに学校や地域においても消費者教育の出前講座を推進し、安全で安心な消費生活の実現を目指すため、消費者サポーターを啓発活動のメンバーとして養成する。</p> <p>交通安全については、市交通安全計画の重点施策の一つである交通安全新3S運動（シルバー・スロー・シー）を軸に、越前警察署、交通指導員会等関係団体によるパトロールの強化や、交通安全チラシによる啓発、市政出前講座等による交通安全教室の開催などを行い、交通安全対策に積極的に取り組んだ。その結果、25年の人身事故件数・死者数・傷者数ともに24年と比較し、減少したが、今後も交通死亡事故ゼロを目指し、高齢者や薄暮時の安全対策の推進を図る。</p> <p>斎場施設については、年次計画に基づく火葬設備の修繕と、道路・駐車場を含めた斎場施設の整備計画の策定を行うとともに、26年度から新しい指定管理者となるため、引き続き安定した火葬業務が遂行できるよう安全管理マニュアルの徹底順守の指導に努める。</p> <p>公衆浴場については、市民の公衆浴場利用の機会の確保と経営の安定に努める。</p> <p>日野川水資源については、26年度供給開始予定の小水力発電施設を秋のダム等施設見学会に組み込むなど、広域的な有効活用のさらなる推進と啓発を図る。</p>							
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値	目標値	達成状況（年度末見込み）						
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	交通事故発生件数（件）	472 (H17)	230	344	275	270	235			
	消費者講座等の参加者数（人）	940 (H18)	2,800	2,270	2,679	2,500	3,290			
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況（年度末見込み）							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
	消費者対策事業	年間消費者相談件数		1,269	1,256	1,063	1,050			
消費者対策事業	消費者講座等の実施回数		69	97	89	103				
交通安全施設整備事業	市内の交通事故発生件数		344	275	270	238				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第5章 市民が主役のまちづくり

第1節 市民自治の推進

施策名		成果・課題・対策								達成度
内部評価	(1) 市民参画・協働の推進	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市協働ガイドラインに基づき実施している協働たねまる提案制度のうち、市民発協働事業は6事業が採択され、事業実施中でのパートナーテーブルも充実させる中で、市民との協働を図った。</li> <li>市民活動の促進を図るため実施しているNPO講座事業については、NPOえちぜん講座委員会に企画段階から参画し、地域団体との連携による講座を4回開催した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年、行政発協働事業について、団体からの提案がない。</li> <li>市民活動の普及と促進を図るため設置している市民活動交流室については、一定の利用はあるが新規の団体利用が少ない。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政発協働事業については、協働たねまる提案制度を含めた全体的な補助制度の見直しを検討する。</li> <li>市民活動交流室について、市民団体へのアンケートや意見交換を行い、利用率の向上を図る。</li> </ul>								3
	(2) 地域コミュニティの充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域自治振興事業の推進を図るため、地域支援員が支援し協働事業を推進するとともに、自治連合会と連携して地区間交流事業を展開するなど、地域連携の強化を図った。</li> <li>地区間交流事業の一環として各地区共通の課題である防災対策事業として、市内17地区を4ブロックに分け、ブロックごとに防災訓練を実施した。</li> <li>(財)自治総合センターの事業を活用し、1町内のコミュニティ会館の整備と2振興会の備品の整備を支援した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域自治振興事業については、後継者の育成、青年層や女性の参画、地域団体との連携などが不足している。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域自治振興事業については、自治連合会との連携により、後継者の育成、青年層や女性の参画、地域団体との連携について、理事研修会などで協議・検討を行う。</li> </ul>								3
	(3) 自らの地域づくり	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>24年度に改定された、25年度から3ヶ年の各地区の地域自治振興計画については、計画通り事業展開が図られるよう、地域支援員が地区振興会の各種会議や事業に参画し支援を行った。</li> <li>各地区自治振興会の事務及び会計の統一に向けたシステム開発が完了し、25年度より統一した運用を開始することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務会計システムを活用し、他地区の事業を参考にしたり地域自らが事業を評価できるよう、日常的な支援が必要である。</li> <li>地区振興会に、行政からの依頼事業の中には負担感を感じるものがある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務システムの活用について、地域支援員と地域支援主事が連携して、振興会事務局に対する支援を行う。</li> <li>行政からの依頼事業について課題を整理し、見直しを図る。</li> </ul>								3
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性								達成度
	第1節 市民自治の推進	<p>協働たねまる提案制度のうち、市民発協働事業は6事業が採択され、事業実施中でのパートナーテーブルも充実させる中で、市民との協働を図った。</p> <p>協働たねまる提案制度については、26年度から、市民団体や学生がそれぞれの特性を活かした地域貢献活動を支援する制度と市民団体の育成を支援する制度に見直し、総合的な補助事業として実施する。</p> <p>地域自治振興事業については、自治連合会との連携により、後継者の育成、青年層や女性の参画、地域団体との連携について、理事研修会などで協議・検討を行うとともに、行政からの依頼事業の見直しを図る。</p> <p>各地区自治振興会の事務会計システムについては、事務システムを活用した事務事業の評価と、地区間情報の共有化を図ることで、協働の推進と自治力の向上を図る。</p>								3
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値	目標値	達成状況 (年度末見込み)						
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	NPOの法人数(団体)	17 (H18)	25	19	20	20	20			
	自治振興会事業への参加者総数(人)	106,000 (H18)	180,000	162,663	167,467	176,000	176,000			
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況年度末見込み							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第5章 市民が主役のまちづくり

第2節 市民交流の推進

内部評価	施策名	成果・課題・対策							達成度	
	(1) 市民交流の推進	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流推進事業については、各町内で外国人市民との多文化共生を推進するため、市国際交流協会と連携して研究している「外国人のためのやさしい日本語」による自然災害情報の発信体制を整備した。</li> <li>外国人市民に対する支援としては、市国際交流協会との連携によりゴミの分別方法を母国語に変換できるインターネットアプリを開発したほか、市民課窓口では、ポルトガル語と中国語に対応できる相談員を各1人常置し、各課との連携のもと年間約5,400件の各種行政相談に応じた。</li> <li>民間交流を促進するため、七尾市や豊岡市への市民グループ訪問や、国府サミット開催時の七尾、高岡市民来越などを促進し、市民交流の幅を広げた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域における多文化共生を推進するための地域住民の意識向上と、外国人市民に対する支援体制の充実を図る必要がある。</li> <li>外国人市民に対する防災対策が不十分であるため、県、福井市及び鯖江市の国際交流協会と連携しながら、引き続き具体的な対応を検討する必要がある。</li> <li>市民交流を促進するため、友好都市交流の節目を機会に、一層の進展を図る必要がある。</li> </ul> <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人市民への支援としては、市国際交流協会や地域と連携し、情報伝達手段として「やさしい日本語定型文」を活用した外国人市民支援事業を展開する。特に、インターネットによる自然災害情報の発信について取り組む。</li> <li>本巢市との友好都市提携20年を迎えるため、4月を中心に20周年記念事業を実施し、サクラを通じた市民グループの交流の深まりを図る。</li> </ul>							4	
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性							達成度	
	第2節 市民交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の外国人市民が約3,000人を数えることから、市民課窓口でポルトガル語と中国語に対応できる相談員を各1人配置し、外国人市民を支援するとともに、市国際交流協会や地域と連携して「やさしい日本語」やインターネットを活用した外国人市民支援事業を積極的に展開する。</li> <li>市民交流については、七尾市や豊岡市への市民グループ訪問や、国府サミット開催時の七尾、高岡市民来越など、民間交流の促進が図られた。今後も、民間レベルの交流（産業・歴史・文化・教育など）を促進するため、交流を働きかける。</li> </ul>							4	
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値	目標値	達成状況（年度末見込み）						
		(時点)	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	国際交流事業への参加者数(人)	2,400(H17)	3,600	2,737	3,700	3,801	4,802			
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況年度末見込み							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
	外国人市民相談事業	外国人市民からの相談件数	4,926	5,262	5,040	5,400				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第5章 市民が主役のまちづくり  
第3節 人権尊重と男女共同参画社会の実現

施策名		成果・課題・対策								達成度
内部評価	(1) 人権の尊重	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民への人権意識の高揚・普及としては、市広報紙及び各地区の公民館だよりにより、毎月人権関連記事を掲載し人権に関する理解を深めた。</li> <li>9月に南越特別支援学校と万葉菊花園が連携し、地域やボランティアの協力を得て岡本小学校での人権の花運動を実施した。</li> <li>11月には拉致特定失踪者の早期解決を願う福井県集会を嶺北で初めて開催した。</li> <li>12月には全盲の立木早絵氏による講演を中心とした人権フェスタinえちぜんを開催した。</li> <li>犯罪被害者への支援を広く啓発するとともに、被害者へ迅速な対応を行い、見舞金を支給して支援した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権意識の普及・高揚を図るため、様々な人権啓発事業は、地域や市民、関係団体等との連携が必要である。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権の花運動など人権啓発や人権教育事業は、市民や地域などの協力を得て実施する。</li> </ul>								4
	(2) 男女共同参画社会の促進	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>24年度にオンブッドと意見交換で出された意見に基づき、地域において各種取組みを実施するとともに、男女共同参画の視点での防災をテーマとした講座等を実施するなど、地域における男女共同参画を推進した。</li> <li>オンブッドが事業所訪問を実施し、事業所における女性の役職登用、ワークライフバランスを啓発した。</li> <li>地域の協力で女性人材リストを更新するとともに、女性人材リストを審議会委員等選任に活用することを働きかけた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域において、女性の主体的な立場での参画がなかなか進まない。</li> <li>男女共同参画センターの講座について、単発で終わるものだけでなく、各々の課題解決につながる継続したテーマでの学習提供が必要である。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域における男女共同参画は、自治連合会や男女共同参画推進会議委員と連携を図りながら、特に男女共同参画の視点での防災をテーマに、女性の主体的な立場での参画を推進する。</li> <li>女性人材リストを活用し、附属機関の女性登用率を上げる。</li> <li>男女共同参画センターの講座については、近年社会問題化されている内容を、継続的に市民が学習できる機会を提供する。</li> </ul>								3
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性								達成度
	第3節 人権尊重と男女共同参画社会の実現	<p>人権啓発及び人権教育については、広報での啓発活動や地域や市民、関係団体等との連携による「人権の花」運動や「人権フェスタinえちぜん」の実施等により、人権意識の普及・高揚が図られた。</p> <p>人権問題は、多岐の分野に関わることから、今後も地域や市民などの協力を得て事業を実施し人権意識の普及・高揚に努める。</p> <p>少子高齢化が進む中、男女共同参画社会の実現は、地域においては特に重要であることから、女性の参画率の目標値を念頭に、自治振興会や自主防災組織での啓発、男女共同参画推進会議委員による地域での講座の開催などに取り組んだ。しかし、女性の参画率は上がらなかった。</p> <p>今後は、自治連合会や男女共同参画推進会議委員と連携し、女性が参画することの重要性をさらに訴える一方で、男女共同参画センターが行う講座や研修会で地域や女性自身の意識改革を進める。</p>								3
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)						
	附属機関等への女性登用率 (%)	27.5% (H17)	37.0	H22 30.1	H23 31.5	H24 33.0	H25 33.0	H26	H27	H28
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況年度末見込み							
	男女共同参画推進事業	講座等参加者延数	H22 4,009	H23 4,959	H24 4,200	H25 4,062	H26	H27	H28	

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第5章 市民が主役のまちづくり

第4節 情報の共有化の推進

施策名		成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) 広報、広聴の充実	<p><b>【成果】</b> (広報) ・市政情報や身近な地域情報を提供するために、市広報紙を月1回発行し、多くの市民が加入しているコミュニティチャンネル丹南CATV(加入率69.6%)の「越前市情報ナビ」で映像情報26本と文字情報52本、たんなんFMで「ふれあい通信」を52本を制作し放送した。また、分かりやすくタイムリーな情報を市ホームページやSNSなどで発信した。 ・市政出前講座は、63メニューにより94回(2月末現在)実施し、市の施策の紹介と取組みへの理解促進を図った。 ・市が保有する行政情報を市民が有効に活用できるよう、オープンデータの取組みを開始した。 ・大手通信会社と提携して、市政情報を載せた市民便利帳を製作して電話帳に合冊し、市内全世帯と事業所に配布し、情報の提供を図った。</p> <p>(広聴) ・地域ミーティングを全17地区で、団体ミーティング「夢まちづくりトーク」を9団体と実施し、市民と市政や地域の課題について意見交換した。 ・パブリック・コメントについては、条例や計画6案件に対し、158の意見が市民から寄せられ、必要に応じ計画等に反映した。 ・市政に対する陳情・要望が15件、投書箱への手紙やメールなど市に対する意見・提案・苦情などが67件あった。いずれも文書もしくはメールなどで丁寧な回答に努めた。</p> <p><b>【課題】</b> ・市広報紙や市ホームページなど広報全般に対する若者世代、子育て世代の読者層の拡大が必要である。 ・地域ミーティングの内容充実が必要である。 ・25年度より開始のオープンデータ数を増やす必要がある。</p> <p><b>【対策】</b> ・市ホームページのスマートフォン対応化など、若者世代・子育て世代を意識しつつ、各種広報媒体を活用し、さらなる市政情報の発信に努める。 ・地域ミーティングにおいては、住民との意見交換を重視するとともに、休日開催にも積極的に対応する。 ・職員研修を実施し、オープンデータの更なる推進を図る。</p>	3
	(2) 情報公開・提供の充実	<p><b>【成果】</b> ・公文書開示請求件数は25件(24年度27件)であった。 ・公文書の開示については、情報公開制度の適正な運用に努めた結果、異議申立など情報公開・個人情報保護審査会への諮問案件はなかった。 ・庁舎内に情報公開窓口の案内表示を行い、市民・来庁者に対し周知を図った。 ・行政情報の提供については、予算・決算状況等を市ホームページなどで公開し、情報提供を行った。</p> <p><b>【課題】</b> ・公文書開示請求者に対する迅速な対応及び積極的な情報公開が必要である。</p> <p><b>【対策】</b> ・公文書開示請求に対し、受理・回付等の事務対応を迅速に行うとともに、公文書開示請求について、電子申請・郵便申請等の請求手続きの周知で利用促進を図る。</p>	4
	(3) 情報通信基盤の整備	<p><b>【成果】</b> ・情報通信基盤の整備については、24、25年度の2箇年事業で市内の公共施設や観光拠点などに公衆無線LAN(フリースポット)を設置した。25年度は、今立総合支所や中央図書館、パピルス館など8箇所の整備を行い、2年間で市内29箇所に公衆無線LANを設置し、市民への情報利用環境の充実を図った。(Wi-Fiの利用者数(アクセス件数) 24年度12,564件、25年度61,994件)</p> <p><b>【課題】</b> ・フリースポットのWi-Fi通信では、通信可能区域が狭く限界があり、近年では、高速データ通信規格(4G LTE)の普及により、電話回線による広域通信が主流となっていることから、25年度で行政による公衆無線LANの設置を終了する。</p> <p><b>【対策】</b> ・民間による整備状況を見据えながら、本市が他市町と比べ情報格差が生じないよう注視していく。</p>	3
内部評価	政策名	成果・課題・今後の方向性	達成度
	第4節 情報の共有化の推進	<p>広報については、市政情報や身近な地域情報を提供するために、市広報紙を月1回発行し、多くの市民が加入しているコミュニティチャンネル丹南CATVの「越前市情報ナビ」で映像情報26本と文字情報52本、たんなんFMで「ふれあい通信」を52本を制作し放送した。また、分かりやすくタイムリーな情報を市ホームページやSNSなどで発信した。今後は、市ホームページのスマートフォン対応化など、若者世代・子育て世代を意識しつつ、各種広報媒体を活用し、さらなる市政情報の発信に努める。25年度も大手通信会社と提携して、市政情報を掲載した市民便利帳を製作して電話帳に合冊し、市内全世帯と事業所に配布した。市政出前講座については、63メニューにより94回(26年2月末現在)実施した。オープンデータについては、25年度より市が保有する行政情報を市民が有効に活用できるよう、オープンデータの取組みを開始した。今後も、さらなる推進を図る。</p> <p>広聴については、地域ミーティングを全17地区で、団体ミーティング「夢まちづくりトーク」を9団体と実施し、また、市の計画等についてはパブリック・コメント制度を通して、市民の意見を聴取した。</p> <p>情報公開等については、公文書開示請求件数が25件であり、情報公開制度の適正な運用に努めた結果、異議申立など情報公開・個人情報保護審査会への諮問案件はなかった。</p> <p>情報通信基盤については、24、25年度の2箇年事業で市内の公共施設や観光拠点などに公衆無線LAN(フリースポット)を設置した。25年度は、今立総合支所や中央図書館、パピルス館など8箇所の整備を行い、2年間で市内29箇所に公衆無線LANを設置し、市民への情報利用環境の充実を図った。</p> <p>以上のように、行政の持つ情報を市民が共有できるよう施策を講じているが、今後も広報手段や広聴の機会の充実、情報公開制度の普及や情報伝達手段の充実にも努める。</p>	3

内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値	目標値	達成状況（年度末見込み）						
		（時点）	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	市ホームページ総アクセス件数（件）	101,000 (H23)	120,000	(新指標)	101,000	106,000	118,000	トップページへのアクセス件数から変更		
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況 年度末見込み							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
	広報発行事業	市広報紙の配布率(%) 配布部数/世帯数	93.0	93.0	92.9	93.8				
	行政情報番組制作放送事業	映像・文字等情報番組放送数（丹南ケーブル、たんなんFM）	128	129	130	130				

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第6章 地方分権に対応した行財政運営

第1節 自立した行財政運営の確立

		施策名	成果・課題・対策	達成度
内部評価	(1) 計画的・効率的な行政運営		<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市《新》行財政構造改革プログラム（23年度～25年度）の実行計画の進捗管理を実施し、行財政改革の着実な推進を図った。</li> <li>26年度から28年度までの市行財政構造改革プログラムⅢを策定した。</li> <li>財源の確保と効率的な事務事業の推進を図るため、25年3月に策定した公有財産等有効活用取組計画及び民間活力等導入実行プランの進捗管理を行った。</li> <li>職員数の削減が目標（29年4月に600人）を上回る早さで進んでいることから、求める職員像を明確にして採用試験を2月に追加実施し、職員の確保に努めた。</li> <li>役職段階や勤続年数を考慮した研修体系に基づき市独自研修を実施したほか、職場内の業務改善を促すなど、効率的な人材育成と業務推進を図った。</li> <li>各課が取組む業務改善の取り組みに63件の報告があり、職員がいつでも確認できるよう庁内グループウェアに掲載し推進に努めた。また、26年2月に業務改善発表会を開催し、11件の取組みが報告された。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市行財政構造改革プログラムⅢ（26年度～28年度）を推進する。</li> <li>職員600人体制において、今後の行政需要に応える組織機構や人事制度のあり方、人材育成基本方針に掲げる「求められる職員像」の具現化を図る必要がある。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>26年度の早い時期に市行財政構造改革プログラムⅢ実行計画（26年度～28年度）を策定する。</li> <li>求める人材を明確にし、社会人経験枠、障がい者枠、任期付職員など、多様な職員採用に取り組む。</li> <li>組織機構改革の検討を行う。</li> <li>職員の専門性を生かしその専門分野での業務で「専任職」として任用する「複線型人事」を導入する。</li> <li>自ら課題設定し能動的に企画し実践につなげる研修の推進、OJTによる研修効果の水平展開など、主体的に考え行動する職員の育成を進める。</li> </ul>	3
	(2) 健全で効率的な財政運営		<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経済・雇用対策の推進を掲げ、積極的な普通建設事業費を計上したことにより、地域の元気臨時交付金が1.2億円から7.6億円充当可能となり、市債から4.75億円及び一般財源から3億円を振り替え、市債の抑制や財源確保を行った。</li> <li>財政調整基金を当初繰入7.4億円について全額減額し財源調整機能の強化を図った。</li> <li>財政調整基金残高24年度末30.8億円⇒25年度末30.9億円</li> <li>旧税務課と旧納税課を統合したことにより、税務（賦課・徴収）事務が一層効率化するとともに、納税者対応の円滑化が図られた。</li> <li>市税等特別徴収本部による訪問徴収に加え、高額滞納者に対しては生活実態の把握に努めるとともに、面談の強化、滞納処分等を積極的に実施した。</li> <li>累積滞納額の縮減では、期日公売で不動産1件が200万円で、インターネット公売では動産14件（9万6千円）が落札された。</li> <li>（改）市税等滞納削減アクションプラン（計画年度26年度～30年度）を策定した。</li> <li>ふるさと納税については、街頭キャンペーンやラジオ、パンフレットを送付するなど積極的にPRした結果、4年連続で件数、金額が増加した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法人市民税の法人税率引き下げによる影響により、法人税額が減少した。（24年度：2,141百万円⇒25年度見込：1,503百万円）</li> <li>26年度以降、普通建設事業費及び扶助費の需要増に対応した財源の確保を図る。</li> <li>マイナンバー制度導入に対応した税基幹システムの改修（27年10月予定）を図る。</li> <li>市税等高額滞納者への徴収対策の取組みを強化する必要がある。</li> <li>ふるさと納税については、市外在住の新規寄付者とリピーターをさらに確保する。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行財政構造改革プログラムⅢを着実に実行する中で、必要となる需要を適切に見積もるとともに、市債（合併特例債等）や基金の計画的な充当により財源を確保し、税収の確保等安定した財政基盤を継続する。</li> <li>丹南5市町で共同利用する県丹南広域組合の税基幹システムは、自治体クラウドに移行する。</li> <li>引き続き市税等特別徴収本部を設置することとし、高額滞納者に対しては生活実態の把握に努め、分納額の見直しや滞納処分等により滞納額の縮減を図るとともに、ペイジーシステム導入等により口座振替納税を推進する。</li> <li>ふるさと納税については、8月のPR月間の活動や、県外で本市にゆかりのある方へのPR活動を継続して行う。リピーターの確保として5年連続寄付者、市外の高額寄付者に市の特産品を送付する。</li> </ul>	3
内部評価		政策名	成果・課題・今後の方向性	達成度
		第1節 自立した行財政運営の確立	<p>少子高齢化の進展、法人市民税や固定資産税の減収など、本市を取り巻く状況はさらに厳しさを増すなか、経済・雇用対策と地域防災力の強化や次世代を育む施策等の推進に努めるとともに、「元氣な自立都市 越前」の実現に向け、市民の安全・安心の確保と福祉の向上を目指した。</p> <p>また、普通建設事業については、緊急防災・減災事業債や合併特例債など交付税措置のある有利な市債を発行することによる後年度負担の軽減や、財政調整基金での財源調整機能の強化を行った。</p> <p>《新》行財政構造改革プログラム（23年度～25年度）に基づく改革の実行により、持続可能な財政の健全化を図るとともに、引き続き行財政改革を進めるため、次の3ヶ年の市行財政構造改革プログラムⅢを策定した。</p> <p>税務業務においては、さらなる事務の効率化を図り、納税者に信頼感のある公正公平な賦課を実施するとともに、滞納には、法令手続きに基づく差押を拡充し、滞納処分の強化を図る。</p> <p>職員数については、大量退職が続く中で行政サービスへの影響が懸念されるため、将来的な人員構成を勘案した採用、異動、任用等の人事管理に努めるほか、組織機構の見直しを図る。また、主体的に能動的な実践型の研修を職員に促し、OJTによる研修効果の水平展開を図るなど、主体的に考え行動する職員の育成を進める。</p>	3



実践プログラム【数値目標】										
指標名	基準値	目標値	達成状況（年度末見込み）							
	（時点）	H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
内部評価	経常収支比率（％）	89.9 (H17)	90.0 以下	86.7	84.7	87.7	89.8			
	実質公債費比率（％）	17.0 (H18)	16.0以下	12.7	12.4	11.8	11.6			
	職員数（人）	741 (H17.10)	600	653	630	612	600			
実践プログラム【主な事業計画】										
事業名	指標名	達成状況年度末見込み								
		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28		
内部評価	庁舎建設基金積立事業 単位千円	新庁舎建設に向け着実な基金の積立（基金残高）	1,511,696	1,663,009	1,811,510	1,963,107				
	財政調整基金積立事業 単位千円	年度末残高：標準財政規模の5％（9億円）以上	2,676,639	3,239,315	3,082,555	3,086,927				
	将来負担比率	300％以下（350％）	112.3	107.4	90.9	89.5				
	実質赤字比率【実質収支比率】	0％以下（12.5％）	—	—	—	—				
	連結実質赤字比率	0％以下（17.5％）	—	—	—	—				
	ふるさと納税	ふるさと納税寄附金額	3,128,200	5,389,000	6,682,600	13,187,600				
	（ ）は、国が示す早期健全化基準									

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第6章 地方分権に対応した行財政運営  
第2節 行政の広域化への対応

内部評価	施策名		成果・課題・対策							達成度
	(1) 行政の広域化への対応		<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県丹南広域組合については、25年度は、23年度からの5カ年計画として策定した県丹南広域組合事業計画の見直しの年（3年ごとに見直し）であり、各業務の今後の方向性について十分協議し計画を見直した。</li> <li>・ 丹南広域組合共同電算システムの更新については、ソフトウェアを大手ベンダー等のオープンパッケージソフトに改め、マイナンバー制度に対応したシステム改修及び自治体クラウド導入など、システムの最適化を目指すとともに、共同電算事業に要する全体費用のコスト縮減を図ることを決定した。</li> <li>・ 後期高齢者医療システムの更新業務の改修を行った。</li> <li>・ 市域を超える行政課題や、原子力防災体制の強化、災害に強い国土づくり、北陸新幹線の開業に対応した地域振興など緊急に取り組むべき課題など、構成市町が連携して協調を図りながら、25年10月7日に県知事に対し重要要望書を提出した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マイナンバー制度の導入に合わせた電算システムの機器更新などについて、協議、研究が必要である。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マイナンバー制度の導入については、広域的な諸課題に的確かつ効率的に対応していくため、構成市町とより一層連携・協調を図りながら、広域行政の推進に努める。</li> </ul>	3						
内部評価	政策名		成果・課題・今後の方向性							達成度
	第2節 行政の広域化への対応		<p>県丹南広域組合については、25年度に関係各課と協議し事業計画の見直しを行い、自治体クラウドの推進や広域観光など、今後の方針と施策を改定した。</p> <p>広域的な行政課題を解決するため、25年10月7日に県知事に対し重要要望書を提出した。</p> <p>今後も、共同電算に係る安定した運用とともに、マイナンバー制度の導入に合わせた電算システムの機器更新などの確かつ効率的に対応していくため、構成市町とより一層連携・協調を図りながら、広域行政の推進に努めていく。</p>	3						
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況（年度末見込み）						
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況年度末見込み							
				H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28

平成25年度 越前市総合計画達成度 内部評価票

第6章 地方分権に対応した行財政運営  
第3節 電子自治体の推進

施策名		成果・課題・対策								達成度
内部評価	(1) 電子自治体の推進	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子申請については、市職員採用試験申込み、学習センターの学ぼう座講座や地区公民館の自主講座、地区成人のつどいへの参加申込等、利用対象の増加を図り、市民の利便性向上を図った。</li> <li>インターネット施設予約については、社会福祉センター、白山公民館など5施設を新たに追加し利便性の向上に努めた。</li> <li>地理情報システムについては、市民公開型GISを導入し、26年2月より一般公開を開始した。また、市広報紙や丹南ケーブルテレビを通して、市民への周知を図るとともに、操作方法や利活用を促進するため、市政出前講座を実施した。</li> <li>セキュリティ対策については、年度当初に新規採用職員や公民館主事等を対象とした「情報セキュリティ研修」を開催し、セキュリティの確保に努めた。</li> <li>住民基本台帳カードについては、25年度は1,450枚(3月上旬時点)を交付した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子申請システムの利用率の向上が必要である。</li> <li>インターネット施設予約利用率の向上が必要である。</li> <li>公開型GISの市民への利用促進と、市民ニーズを考慮した積極的な地図情報を提供する必要がある。</li> <li>情報セキュリティ対策が重要である。</li> <li>住民基本台帳カードについては27年12月までの交付となり、28年1月から希望者に対してマイナンバーカードが交付されるため、たんなるカードや住民基本台帳カードなど複数のカードが混在し、市民が混乱する。</li> </ul> <p><b>【対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子申請及びインターネット施設予約については、市広報紙や丹南ケーブルテレビ、市政出前講座等により、積極的な利用を啓発していく。併せて、簡易な様式を検討するなど、利便性向上を図る。</li> <li>公開型GISの利用については、出前講座等を活用した市民対象の操作研修会を開催し、利用促進を図るとともに、提供する地図情報の充実を図る。</li> <li>セキュリティ対策については、不正侵入監視システムの導入やウイルスチェックを適宜、実施するなど、外部からの不正侵入から行政情報等を守るとともに、人為的対策としては、新規採用職員を対象とした研修会を継続して開催し、併せて担当職員のスキルアップのための外部研修会にも積極的に参加する。</li> <li>住民基本台帳カードについては、市は今後、マイナンバーカードの取得を促進することになるが、市民が混乱しないような説明に努める。</li> </ul>								3
	内部評価	第3節 電子自治体の推進	<p><b>成果・課題・今後の方向性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子申請については、職員採用試験申込み、学習センターの学ぼう座講座や地区公民館の自主講座、地区成人のつどいへの参加申込等、利用対象の増加を図るとともに、インターネット施設予約については、社会福祉センター、白山公民館など5施設を新たに追加し利便性の向上に努めた。</li> <li>電子申請利用件数及びインターネット施設予約については、市広報紙や丹南ケーブルテレビ、市政出前講座等により、積極的な利用を啓発していくとともに、簡易な様式を検討するなど、利便性向上を図る。</li> <li>地理情報システムについては、市民公開型GISを導入し、26年2月より一般公開を開始した。また、市広報紙や丹南ケーブルテレビを通して、市民への周知を図るとともに、操作方法や利活用を促進するため、市政出前講座を実施した。</li> <li>公開型GISの利用促進については、出前講座等を活用した市民対象の操作研修会を開催し、利用促進を図るとともに、提供する地図情報の充実を図る。</li> <li>住民基本台帳カードについては、市からのダイレクトメール発送時にチラシを同封するなど広く周知し、25年度は1,450枚(3月上旬時点)を交付したが、28年1月からのマイナンバーカードの導入に向けて、制度の周知に努める。</li> </ul>							
内部評価	実践プログラム【数値目標】									
	指標名	基準値 (時点)	目標値 H28	達成状況 (年度末見込み)						
			H28	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	ふく-eねっと利用件数(電子申請・インターネット施設予約)(件)	3,775 (H21)	6,500	4,944	5,268	5,206	5,337			
	ふく-eねっと対象施設数(インターネット施設予約)(施設数)	22 (H21)	54	32	41	45	49			
内部評価	実践プログラム【主な事業計画】									
	事業名	指標名	達成状況年度末見込み							
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	
	電子市役所整備事業	ふく-eねっとによる電子申請率(%)	3.77	4.56	6.86	5.91				
	電子市役所整備事業	ふく-eねっとによる施設予約率(%)	12.03	9.89	11.19	11.30				